平成１５年度

豊かな体験活動推進事業ブロック交流会
事　例　集

平成１６年３月

文部科学省初等中等教育局

ま　え　が　き

子どもたちが豊かな人間性や社会性などを育むためには，学校教育において様々な体験活動を充実させることが重要であることから，文部科学省では，平成13年7月，学校教育法及び社会教育法を改正し，学校においては，その教育の目標の達成に資するよう，教育指導を行うに当たり，ボランティア活動など社会奉仕体験活動，自然体験活動その他の体験活動の充実に努める旨を新たに規定し，学校内外を通じて体験活動の推進を図っているところであります。

これらを踏まえ，平成１４年度より，学校教育において，「豊かな体験活動推進地域」及び「豊かな体験活動推進校」を指定し，他校のモデルとなる体験活動に取り組む「豊かな体験活動推進事業」を行っており,平成15年度から開始した「地域間交流推進校」では，例えば都市から農山村漁村や，自然が豊かな地域などに出かけ，異なる環境の下で体験活動に取り組んでいただいております。

また「豊かな体験活動推進事業」では「推進地域・推進校」及び「地域間交流推進校」で得られた先駆的な取組を，地域ごとのブロック交流会や事例集の作成を通じて広く全国すべての学校に普及させることとしておりこうした取り組みを通じて，全小・中・高等学校等における豊かな体験活動の円滑な推進を目指しております。

本事例集では，平成14年度・平成15年度（「地域間交流推進校」においては平成15年度）に指定を受けた「豊かな体験活動推進地域」，「豊かな体験活動推進校」及び「地域間交流推進校」のうち，「平成15年度豊かな体験活動推進事業ブロック交流会」で事例発表を行ていただいた学校等の中から，学校種や体験活動の活動内容を勘案して取組みを紹介をしています。

平成15年12月の中央教育審議会においても「学力に関連して，自然体験，社会体験など子どもたちの学びを支える体験が不足し，人やものとかかわる力が低下していることなどの点で課題等が明らかになっている」ことが指摘されており，今後も,学校における体験活動の充実が引き続き求められていることから,本事例集が広く関係者に利用され，各学校において，様々な体験活動が展開されることを心より期待しています。

終わりに，紙面の都合上掲載できなかった学校の関係者をはじめ熱心に本事業の取組みに当たられた教育委員会並びに関係者各位に心から感謝の意を表します。

平成16年3月

文部科学省初等中等教育局
児童生徒課長　　関　靖直

目　　次

平成１５年度豊かな体験活動推進事業ブロック交流会

まえがき

Ⅰ．豊かな体験活動推進事業 ---------- 2

Ⅱ．平成１５年度豊かな体験活動　推進地域・推進校 ---------- 4

Ⅲ．平成１５年度豊かな体験活動　地域間交流推進校・受入地域 ---------- 16

Ⅳ．平成１５年度豊かな体験活動推進事業ブロック交流会要項 ---------- 18

Ⅴ．活　動　事　例

小 学 校 ---------- 22

埼玉県熊谷市立　熊谷西小学校
新潟県村上市立　岩船小学校
奈良県香芝市立　真美ヶ丘西小学校
宮崎県日向市立　富高小学校

中 学 校 ---------- 40

青森県名川町立　剣吉中学校
兵庫県神戸市立　向洋中学校
徳島県小松島市　立江中学校
長崎県平戸市立　南部中学校

高等学校 ---------- 58

青森県立　名久井農業高等学校
宮城県立　飯野川高等学校
富山県立　八尾高等学校
島根県立　益田養護学校

地域間交流 ---------- 76

群馬県黒保根村立　黒保根小学校
千葉県市川市立　曽谷小学校
愛媛県宮窪町立　宮窪中学校
福岡県春日市立　日の出小学校

推進地域 ---------- 94

愛知県日進市
佐賀県伊万里市

○　豊かな体験活動推進事業

（前　年　度　予　算　額　　３５７，１８１千円）
平成１５年度予算額　　３８１，０３０千円

１　趣　旨

児童生徒の社会性や豊かな人間性を育むためには、成長段階に応じて、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動をはじめ様々な体験活動を行うことが極めて有意義である。

これまでの「体験活動推進地域」・「推進校」に加え、都市部から農山漁村や自然が豊かな地域に出かけ、農林漁業体験や自然体験を行うなど、異なる環境における豊かな体験活動を促進するため、新たに「地域間交流推進校」を設ける。

２　内　容

（１）豊かな体験活動の実施（継続）

①体験活動推進地域・推進校の指定（平成１４年度１０１地域・７５８校）
②ブロックごとに、体験活動の実践成果に関する協議会の開催

（２）地域間交流の実施（新規）

①都道府県の各２校を指定し、農山漁村等における体験活動を実施
　・地域間交流推進地域　　４７地域×２校
②農山漁村体験活動等のプログラムの企画・開発・普及　　４７地域
③体験活動を取り入れた修学旅行等、地域間交流促進に必要な調査研究の委託

豊かな体験活動推進事業

背景

・学校教育法の改正（社会奉仕体験活動や自然体験活動等の体験活動の充実、平成１３年７月）

・中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」（平成１４年７月）

・新学習指導要領の実施による体験活動の充実（小・中学校は平成１４年度から、高等学校は平成１５年度から）

体験活動推進地域・推進校

・各都道府県に小・中・高等学校等を含む推進地域を指定

・各学校の実情やねらいを踏まえ、他校のモデルとなる先駆的な取組を実施

・体験活動を通じた学校種連携の一層の推進を図る

各学校の先駆的な取組を全国の学校へ普及

地域間交流推進校

・都市と農山漁村の共生・対流に関する政府としての取組等を踏まえ、異なる地域との多様な交流に関わる体験活動を実施

・地域間交流推進校の実践を踏まえ、各都道府県においてプログラムを開発

各地域の特性を生かした地域間交流の促進

長期宿泊体験推進校

・長期にわたる集団宿泊等の共同生活を通して、協調性や規範意識、公衆道徳等の育成

・行政、保護者や青少年教育施設、ＮＰＯ等が密接に連携し、学校の活動を支援

・学校教育における長期にわたる宿泊体験を推進する方策について調査研究を実施

長期宿泊体験の推進に向けた先駆的取組の実践

各取組の成果を発表するブロック交流会の開催／体験活動の実践例を収集した事例集の作成

平成１７年度までに全国の学校における７日間以上の体験活動を実現

豊かな体験活動推進事業

－「豊かな体験活動推進地域・推進校」（平成１５年度）－

都道府県	推進地域	推進校
北海道	士別市	士別市立士別小学校 士別市立士別西小学校 士別市立中士別小学校 士別市立下士別小学校 士別市立武徳小学校 士別市立上士別小学校 士別市立中多寄小学校 士別市立温根別小学校 士別市立多寄中学校 士別市立温根別中学校 北海道立士別東高等学校
	洞爺村	洞爺村立洞爺小学校 洞爺村立成香小学校 洞爺村立香川小学校 洞爺村立大原小学校 洞爺村立洞爺中学校 北海道立洞爺高等学校
青森県	金木町	金木町立金木小学校 金木町立川倉小学校 金木町立嘉瀬小学校 金木町立喜良市小学校 金木町立金木中学校 金木町立金木南中学校 青森県立金木高等学校
	名川町	名川町立剣吉小学校 名川町立名久井小学校 名川町立鳥舌内小学校 名川町立鳥谷小学校 名川町立剣吉中学校 名川町立名久井第一中学校 名川町立名久井第二中学校 青森県立名久井農業高等学校
岩手県	浄法寺町	浄法寺町立浄法寺小学校 浄法寺町立浄法寺小学校梅田川分校 浄法寺町立大嶺小学校 浄法寺町立岡本小学校 浄法寺町立太田小学校 浄法寺町立川又小学校 浄法寺町立浄法寺中学校 浄法寺町立大嶺中学校 岩手県立浄法寺高等学校
宮城県	北上町	北上町立橋浦小学校 北上町立吉浜小学校 北上町立相川小学校 北上町立北上中学校 北上町立相川中学校 宮城県立飯野川高等学校
	蔵王町	蔵王町立円田小学校 蔵王町立平沢小学校 蔵王町立永野小学校 蔵王町立宮小学校 蔵王町立遠刈田小学校 蔵王町立円田中学校 蔵王町立宮中学校 蔵王町立遠刈田中学校 宮城県立蔵王高等学校
秋田県	大館市	大館市立桂城小学校

都道府県	推進地域	推進校
		大館市立城南小学校 大館市立城西小学校 大館市立上川沿小学校 大館市立第一中学校 秋田県立大館高等学校
	西仙北町	西仙北町立刈和野小学校 西仙北町立土川小学校 西仙北町立大沢郷小学校 西仙北町立双葉小学校 西仙北町立東中学校 西仙北町立西中学校 秋田県立西仙北高等学校
山形県	南陽市	南陽市立小滝小学校 南陽市立宮内小学校 南陽市立梨郷小学校 南陽市立宮内中学校 山形県立南陽高等学校
	大江町	大江町立左沢小学校 大江町立三郷小学校 大江町立本郷東小学校 大江町立本郷西小学校 大江町立七軒東小学校 大江町立大江中学校 山形県立左沢高等学校
福島県	浅川町	浅川町立浅川小学校 浅川町立里白石小学校 浅川町立山白石小学校 浅川町立浅川中学校 福島県立石川高等学校
	川俣町	川俣町立福田小学校 川俣町立川俣小学校 川俣町立富田小学校 川俣町立福沢小学校 川俣町立川俣南小学校 川俣町立飯坂小学校 川俣町立小島小学校 川俣町立山木屋小学校 川俣町立川俣中学校 川俣町立山木屋中学校 福島県立川俣高等学校
茨城県	常陸太田市	常陸太田市立太田小学校 常陸太田市立機初小学校 常陸太田市立西小沢小学校 常陸太田市立幸久小学校 常陸太田市立佐竹小学校 常陸太田市立誉田小学校 常陸太田市立瑞竜小学校 常陸太田市立佐都小学校 常陸太田市立世矢小学校 常陸太田市立河内小学校 常陸太田市立太田中学校 常陸太田市立峰山中学校 常陸太田市立瑞竜中学校 常陸太田市立世矢中学校 茨城県立里美高等学校
	友部町	友部町立宍戸小学校 友部町立友部小学校 友部町立北川根小学校 友部町立大原小学校 友部町立友部第二小学校

都道府県	推進地域	推進校
		友部町立友部中学校 友部町立友部第二中学校 茨城県立友部高等学校
栃木県	茂木町	茂木町立逆川小学校 茂木町立茂木小学校 茂木町立中川小学校 茂木町立須藤小学校 茂木町立茂木中学校 茂木町立中川中学校 茂木町立須藤中学校 栃木県立茂木高等学校
群馬県	渋川市	渋川市立北小学校 渋川市立南小学校 渋川市立金島小学校 渋川市立古巻小学校 渋川市立豊秋小学校 渋川市立西小学校 渋川市立渋川中学校 渋川市立北中学校 渋川市立金島中学校 渋川市立古巻中学校 群馬県立渋川青翠高等学校
	新治村	新治村立新巻小学校 新治村立須川小学校 新治村立猿ヶ京小学校 新治村立新治中学校 利根沼田学校組合立利根商業高等学校
埼玉県	熊谷市	熊谷市立熊谷東小学校 熊谷市立熊谷西小学校 熊谷市立石原小学校 熊谷市立大幡小学校 熊谷市立吉岡小学校 熊谷市立新堀小学校 熊谷市立富士見中学校 熊谷市立女子高等学校
千葉県	鴨川市	鴨川市立主基小学校 鴨川市立吉尾小学校 鴨川市立大山小学校 鴨川市立長狭中学校 千葉県立長狭高等学校
	千葉市	千葉市立磯部第一小学校 千葉市立磯部第二小学校 千葉市立磯部第三小学校 千葉市立磯部第四小学校 千葉市立高浜第二小学校 千葉市立磯部第一中学校 千葉市立磯部第二中学校 千葉市立稲毛高等学校
	船橋市	船橋市立豊富小学校 船橋市立豊富中学校 船橋市立船橋養護学校 千葉県立船橋豊富高等学校
	長柄町	長柄町立長柄小学校 長柄町立日吉小学校 長柄町立水上小学校 長柄町立長柄中学校 長柄町立昭栄中学校 千葉県立茂原農業高等学校
東京都	大田区	大田区立大森東小学校 大田区立志茂田小学校

都道府県	推進地域	推進校
		大田区立大森東中学校 大田区立馬込中学校 大田区立蒲田中学校 東京都立大森東高等学校
	小平市	小平市立小平第二小学校 小平市立小平第三小学校 小平市立小平第五小学校 小平市立小平第八小学校 小平市立小平第九小学校 小平市立鈴木小学校 小平市立小平三中学校 私立拓殖大学第一高等学校
神奈川県	川崎市	川崎市立殿町小学校 川崎市立梶ヶ谷小学校 川崎市立真福寺小学校 川崎市立臨港中学校 川崎市立宮内中学校 川崎市立宮崎中学校 川崎市立高津高等学校 川崎市立田島養護学校
	秦野市	秦野市立南が丘小学校 秦野市立南が丘中学校 神奈川県立秦野南が丘高等学校
	横浜市	横浜市立南太田小学校 横浜市立蒔田小学校 横浜市立井土ヶ谷小学校 横浜市立日枝小学校 横浜市立共進中学校 横浜市立蒔田中学校 横浜市立平楽中学校 横浜市立横浜商業高等学校
新潟県	柏崎市	柏崎市立比角小学校 柏崎市立枇杷島小学校 柏崎市立上米山小学校 柏崎市立槇原小学校 柏崎市立中通小学校 柏崎市立第二中学校 柏崎市立松浜中学校 新潟県立柏崎総合高等学校
	村上市	村上市立岩船小学校 村上市立村上南小学校 村上市立村上小学校 村上市立岩舟中学校 村上市立村上第一中学校 村上市立村上東中学校 新潟県立村上中等教育学校 新潟県立村上女子高等学校
富山県	黒部市	黒部市立石田小学校 黒部市立村椿小学校 黒部市立三日市小学校 黒部市立若栗小学校 黒部市立鷹施中学校 黒部市立高志野中学校 黒部市立桜井中学校 富山県立桜井高等学校
	八尾町	八尾町立八尾小学校 八尾町立杉原小学校 八尾町立保内小学校 八尾町立樫尾小学校 八尾町立八尾中学校

都道府県	推進地域	推進校
		八尾町立杉原中学校 富山県立八尾高等学校
石川県	加賀市	加賀市立湖北小学校 加賀市立勅使小学校 加賀市立動橋小学校 加賀市立東谷口小学校 加賀市立分校小学校 加賀市立片山津小学校 加賀市立片山津中学校 石川県立加賀高等学校
	押水町	押水町立相見小学校 押水町立宝達小学校 押水町立押水第一小学校 押水町立押水中学校 石川県立宝達高等学校
福井県	大野市	大野市立有終西小学校 大野市立有終南小学校 大野市立小山小学校 大野市立富田小学校 大野市立有終東小学校 大野市立開成中学校 大野市立陽明中学校 大野市立上庄中学校 大野市立尚徳中学校 福井県立大野高等学校
山梨県	河口湖町	河口湖町立船津小学校 河口湖町立小立小学校 河口湖町立大石小学校 河口湖町立河口小学校 河口湖町立河口湖北中学校 河口湖南中学校組合立河口湖南中学校 山梨県立富士河口湖高等学校
	南アルプス市	南アルプス市立落合小学校 南アルプス市立大明小学校 南アルプス市立南湖小学校 南アルプス市立甲西中学校 山梨県立巨摩高等学校
長野県	臼田町	臼田町立田口小学校 臼田町立青沼小学校 臼田町立切原小学校 臼田町立臼田小学校 臼田町立臼田中学校 長野県立臼田高等学校
	富士見町	富士見町立富士見小学校 富士見町立本郷小学校 富士見町立境小学校 富士見町立落合小学校 富士見町立富士見高原中学校 富士見町立南中学校 長野県立富士見高等学校 長野県立諏訪養護学校
岐阜県	八百津町	八百津町立八百津小学校 八百津町立和知小学校 八百津町立錦津小学校 八百津町立八百津中学校 岐阜県立八百津高等学校
	谷汲村	谷汲村立谷汲小学校 谷汲村立長瀬小学校 谷汲村立谷汲中学校 岐阜県立揖斐高等学校

都道府県	推進地域	推進校
静岡県	引佐町	引佐町立金指小学校 引佐町立奥山小学校 引佐町立伊平小学校 引佐町立川名小学校 引佐町立田沢小学校 引佐町立久留女木小学校 引佐町立南部中学校 引佐町立北部中学校 静岡県立引佐高等学校
	小山町	小山町立成美小学校 小山町立明倫小学校 小山町立足柄小学校 小山町立北郷中学校 小山町立須走中学校 静岡県立小山高等学校 静岡県立御殿場養護学校
愛知県	豊田市	豊田市立藤沢小学校 豊田市立上鷹見小学校 豊田市立五ヶ丘小学校 豊田市立畝部小学校 豊田市立挙母小学校 豊田市立堤小学校 豊田市立朝日丘中学校 豊田市立豊南中学校 豊田市立井郷中学校 愛知県立衣台高等学校
	日進市	日進市立西小学校 日進市立東小学校 日進市立北小学校 日進市立南小学校 日進市立相野山小学校 日進市立香久山小学校 日進市立梨の木小学校 日進市立日進西中学校 日進市立日進中学校 日進市立日進東中学校 愛知県立日進高等学校
三重県	志摩町	志摩町立片田小学校 志摩町立越賀小学校 志摩町立御座小学校 志摩町立片田中学校 志摩町立越賀中学校 三重県立水産高等学校
	藤原町	藤原町立東藤原小学校 藤原町立西藤原小学校 藤原町立白瀬小学校 藤原町立立田小学校 藤原町立中里小学校 藤原町立藤原中学校 三重県立いなべ総合学園高等学校
滋賀県	山東町	山東町立柏原小学校 山東町立東小学校 山東町立西小学校 山東町立大原小学校 山東町立柏原中学校 山東町立大東中学校 滋賀県立伊吹高等学校
	能登川町	能登川町立能登川東小学校 能登川町立能登川西小学校 能登川町立能登川南小学校

都道府県	推進地域	推進校
		能登川町立能登川北小学校 能登川町立能登川中学校 滋賀県立能登川高等学校
京都府	綾部市	綾部市立豊里小学校 綾部市立西八田小学校 綾部市立東八田小学校 綾部市立山家小学校 綾部市立口上林小学校 綾部市立豊里中学校 綾部市立八田中学校 綾部市立東綾中学校 京都府立工業高等学校
	京都市	京都市立乾隆小学校 京都市立大原中学校 京都市立伏見工業高等学校
大阪府	泉佐野市	泉佐野市立長南小学校 泉佐野市立長坂小学校 泉佐野市立北中小学校 泉佐野市立日新小学校 泉佐野市立日根野小学校 泉佐野市立長南中学校 泉佐野市立第三中学校 泉佐野市立日根野中学校 大阪府立佐野高等学校 大阪府立佐野工業高等学校
	松原市	松原市立布忍小学校 松原市立中央小学校 松原市立天美小学校 松原市立天美西小学校 松原市立松原第三中学校 松原市立松原第五中学校 大阪府立松原高等学校
兵庫県	神戸市	神戸市立六甲アイランド小学校 神戸市立なぎさ小学校 神戸市立向洋中学校 神戸市立住吉中学校 神戸市立六甲アイランド高等学校
	一宮町	一宮町立神戸小学校 一宮町立染河内小学校 一宮町立下三方小学校 一宮町立三方小学校 一宮町立繁盛小学校 一宮町立一宮南中学校 一宮町立一宮北中学校 兵庫県立伊和高等学校
奈良県	香芝市	香芝市立鎌田小学校 香芝市立二上小学校 香芝市立真美ヶ丘西小学校 香芝市立関屋小学校 香芝市立香芝中学校 香芝市立香芝西中学校 香芝市立香芝北中学校 奈良県立香芝高等学校
	大和郡山市	大和郡山市立郡山南小学校 大和郡山市立筒井小学校 大和郡山市立矢田小学校 大和郡山市立平和小学校 大和郡山市立片桐小学校 大和郡山市立郡山北小学校 大和郡山市立片桐西小学校

都道府県	推進地域	推進校
		大和郡山市立郡山西小学校 大和郡山市立郡山南中学校 大和郡山市立郡山西中学校 大和郡山市立郡山東中学校 大和郡山市立片桐中学校 奈良県立片桐高等学校
和歌山県	和歌山市	和歌山市立加太小学校 和歌山市立太田小学校 和歌山市立鳴滝小学校 和歌山市立雑賀崎小学校 和歌山市立河西中学校 和歌山県立和歌山工業高等学校 和歌山県立紀伊コスモス養護学校
	美里町	美里町立毛原小学校 美里町立長谷毛原中学校 和歌山県立大成高等学校美里分校
鳥取県	赤碕町・東伯町	赤碕町立赤碕小学校 東伯町立浦安小学校 赤碕町立赤碕中学校 東伯町立東伯中学校 鳥取県立赤碕高等学校
	大栄町・三朝町	三朝町立東小学校 大栄町立大栄小学校 三朝町立三朝中学校 大栄町立大栄中学校 鳥取県立倉吉農業高等学校
島根県	益田市	益田市立鎌手小学校 益田市立戸田小学校 益田市立飯浦小学校 益田市立中西小学校 益田市立鎌手中学校 益田市立小野中学校 益田市立中西中学校 島根県立益田産業高等学校 島根県立益田養護学校
	宍道町	宍道町立宍道小学校 宍道町立来待小学校 宍道町立宍道中学校 宍道町立宍道中学校大野原分校 島根県立松江南高等学校宍道分校
岡山県	倉敷市	倉敷市立第一福田小学校 倉敷市立第二福田小学校 倉敷市立第三福田小学校 倉敷市立第四福田小学校 倉敷市立福田中学校 倉敷市立福田南中学校 岡山県立倉敷中央高等学校
	邑久町	邑久町立今城小学校 邑久町立邑久小学校 邑久町立玉津小学校 邑久町立裳掛小学校 邑久町立邑久中学校 岡山県立邑久高等学校
広島県	広島市	広島市立亀山南小学校 広島市立己斐小学校 広島市立鈴張小学校 広島市立阿戸小学校 広島市立東浄小学校 広島市立口田中学校 広島市立日浦中学校

都道府県	推進地域	推進校
		広島市立広島工業高等学校
	福山市	福山市立野之浜小学校 福山市立千田小学校 福山市立箕島小学校 福山市立新涯小学校 福山市立津之郷小学校 福山市立駅家南中学校 福山市立山野中学校 福山市立福山高等学校
山口県	大畠町	大畠町立神西小学校 大畠町立鳴門小学校 大畠町立遠崎小学校 大畠町立大畠中学校 山口県立柳井高等学校 山口県立柳井商業高等学校
	三隅町	三隅町立明倫小学校 三隅町立浅田小学校 三隅町立三隅中学校 山口県立水産高等学校 山口県立日置農業高等学校
徳島県	小松島市	小松島市立南小松島小学校 小松島市立北小松島小学校 小松島市立櫛渕小学校 小松島市立和田島小学校 小松島市立小松島中学校 小松島市立立江中学校 小松島市立坂野中学校 徳島県立小松島西高等学校
	徳島市	徳島市立千松小学校 徳島市立上八万小学校 徳島市立昭和小学校 徳島市立加茂名小学校 徳島市立入田小学校 徳島市立加茂名南小学校 徳島市立応神中学校 徳島市立加茂名中学校 徳島市立高等学校
香川県	高松市	高松市立四番丁小学校 高松市立亀阜小学校 高松市立花園小学校 高松市立前田小学校 高松市立林小学校 高松市立城内中学校 高松市立一宮中学校 高松市立下笠居中学校 高松市立山田中学校 香川県立三木高等学校 香川県立盲学校
	内海町	内海町立星城小学校 内海町立安田小学校 内海町立苗羽小学校 内海町立福田小学校 内海町立内海中学校 香川県立小豆島高等学校
愛媛県	三崎町	三崎町立二名津小学校 三崎町立三崎小学校 三崎町立串小学校 三崎町立正野小学校 三崎町立二名津中学校 三崎町立三崎中学校

都道府県	推進地域	推進校
		三崎町立串中学校 愛媛県立三崎高等学校
高知県	南国市	南国市立稲生小学校 南国市立三和小学校 南国市立大湊小学校 南国市立長岡小学校 南国市立久礼田小学校 南国市立鳶ヶ池中学校 南国市立香南中学校 高知県立高知農業高等学校
	土佐山田町	土佐山田町立舟入小学校 土佐山田町立山田小学校 土佐山田町立楠目小学校 土佐山田町立片地小学校 土佐山田町立佐岡小学校 土佐山田町立香長小学校 土佐山田町立平山小学校 土佐山田町立繁藤小学校 土佐山田町立繁藤中学校 土佐山田町立鏡野中学校 高知県立山田高等学校
福岡県	北九州市	北九州市立藤木小学校 北九州市立高見小学校 北九州市立槻田小学校 北九州市立筒井小学校 北九州市立中原小学校 北九州市立高見中学校 北九州市立熊西中学校 北九州市立戸畑商業高等学校
	福岡市	福岡市立那珂南小学校 福岡市立警固小学校 福岡市立博多小学校 福岡市立原小学校 福岡市立大名小学校 福岡市立弥生小学校 福岡市立平尾小学校 福岡市立博多中学校 福岡市立玄界中学校 福岡市立博多工業高等学校
	粕屋町	粕屋町立仲原小学校 粕屋町立大川小学校 粕屋町立粕屋西小学校 粕屋町立粕屋中央小学校 粕屋町立粕屋中学校 粕屋町立粕屋東中学校 福岡県立粕屋高等学校
	杷木町	杷木町立松末小学校 杷木町立杷木小学校 杷木町立久喜宮小学校 杷木町立志波小学校 杷木町立杷木中学校 福岡県立朝羽高等学校
	田川市・山田市・飯塚市 嘉穂町・川崎町・大任町	田川市立田川小学校 川崎町立大峰小学校 大任町立今任小学校 嘉穂町立足白小学校 山田市立山田中学校 大任町立大任中学校 嘉穂町立嘉穂中学校 福岡県立嘉穂中央高等学校

都道府県	推進地域	推進校
佐賀県	伊万里市	伊万里市立伊万里小学校 伊万里市立牧島小学校 伊万里市立二里小学校 伊万里市立東山代小学校 伊万里市立啓成中学校 伊万里市立国見中学校 佐賀県立伊万里高等学校 佐賀県立伊万里農林高等学校
	鳥栖市	鳥栖市立鳥栖小学校 鳥栖市立鳥栖北小学校 鳥栖市立田代小学校 鳥栖市立基里小学校 鳥栖市立麓小学校 鳥栖市立旭小学校 鳥栖市立若葉小学校 鳥栖市立鳥栖中学校 鳥栖市立田代中学校 鳥栖市立基里中学校 鳥栖市立鳥栖西中学校 佐賀県立鳥栖高等学校
長崎県	平戸市	平戸市立中津良小学校 平戸市立堤小学校 平戸市立津吉小学校 平戸市立志々伎小学校 平戸市立志々伎小学校早福分校 平戸市立野子小学校 平戸市立南部中学校 平戸市立野子中学校 平戸市立野子小中学校高島分校 長崎県立平戸高等学校
熊本県	一の宮町	一の宮町立宮地小学校 一の宮町立坂梨小学校 一の宮町立中通小学校 一の宮町立古城小学校 一の宮町立一の宮中学校 熊本県立阿蘇清峰高等学校
	有明町	有明町立島子小学校 有明町立赤崎小学校 有明町立浦和小学校 有明町立大楠小学校 有明町立有明東中学校 有明町立有明西中学校 熊本県立天草東高等学校
大分県	大分市	大分市立戸次小学校 大分市立竹中小学校 大分市立東植田小学校 大分市立敷戸小学校 大分市立戸次中学校 大分市立稙田東中学校 大分県立大分商業高等学校
	佐伯市	佐伯市立上堅田小学校 佐伯市立下堅田小学校 佐伯市立八幡小学校 佐伯市立灘小学校 佐伯市立西上浦小学校 佐伯市立大入島中学校 大分県立佐伯豊南高等学校
宮崎県	小林市	小林市立細野小学校 小林市立三松小学校 小林市立小林中学校

都道府県	推進地域	推進校
		小林市立細野中学校 小林市立西小林中学校 小林市立永久津中学校 小林市立東方中学校 小林市立三松中学校 宮崎県立小林高等学校 宮崎県立小林工業高等学校 宮崎県立小林商業高等学校
	日向市	日向市立富高小学校 日向市立日知屋小学校 日向市立細島小学校 日向市立塩見小学校 日向市立大王谷小学校 日向市立日知屋東小学校 日向市立富島中学校 日向市立日向中学校 日向市立大王谷中学校 宮崎県立富島高等学校
鹿児島県	阿久根市	阿久根市立大川小学校 阿久根市立西目小学校 阿久根市立鶴川内小学校 阿久根市立折多小学校 阿久根市立脇本小学校 阿久根市立阿久根中学校 阿久根市立大川中学校 鹿児島県立阿久根高等学校
	川辺町	川辺町立高田小学校 川辺町立川辺小学校 川辺町立田代小学校 川辺町立勝目小学校 川辺町立大丸小学校 川辺町立神殿小学校 川辺町立清水小学校 川辺町立川辺中学校 鹿児島県立加世田常潤高等学校
沖縄県	石川市・西原町	石川市立城前小学校 西原町立西原東小学校 西原町立西原中学校 西原町立西原東中学校 石川市立石川中学校 石川市立伊波中学校 沖縄県立西原高等学校 沖縄県立中部農林高等学校
	糸満市・与那原町・佐敷町 与那原町・大里村	与那原町立与那原東小学校 大里村立大里南小学校 与那原村立与那原中学校 糸満市立佐敷中学校 大里村立大里中学校 糸満市立三和中学校 沖縄県立南風原高等学校 沖縄県立南部商業高等学校
計	９４地域	７０８校 （小学校４０１校，中学校１９７校，高等学校１０２校，中等教育学校１校，盲学校１校 養護学校６校）

「豊かな体験活動推進事業」
地域間交流推進校・受入地域（平成１５年度）

都道府県名	学校名	主な受入地域
北海道	札幌市立幌北小学校	北海道当別町
	旭川市立東鷹栖中学校	北海道小平町、苫前町
青　森	青森県立十和田西高等学校	秋田県小坂町
	八戸市立白山台小学校	岩手県二戸市
岩　手	湯田町立越中畑小学校	岩手県山田町
	東和町立東和中学校	神奈川県川崎市、岩手県盛岡市
宮　城	亘理町立荒浜小学校	福島県西郷村
	仙台市立南小泉中学校	岩手県盛岡市、山形県寒河江市・西川町
秋　田	皆瀬村立皆瀬小学校	静岡県長泉町
	皆瀬村立小安小学校	静岡県長泉町
山　形	羽黒町立第三小学校	神奈川県横浜市
	大蔵村立大蔵中学校	奈良県奈良市
福　島	新地町立尚英中学校	福島県いわき市
	伊南村立伊南中学校	福島県いわき市
茨　城	日立市立水木小学校	茨城県金砂郷町
	茨城県立北茨城養護学校	茨城県高萩市、福島県いわき市
栃　木	足尾町立本山小学校	神奈川県横浜市
	足尾町立足尾小学校	茨城県旭村
群　馬	黒保根村立黒保根小学校	東京都港区
埼　玉	吉田町立吉田小学校	新潟県吉田町、埼玉県伊奈町
	吉田町立上吉田小学校	新潟県吉田町、神奈川県鎌倉市
	吉田町立吉田中学校	新潟県吉田町、埼玉県伊奈町
	県立伊奈学園中学校	埼玉県吉田町、福島県西郷村
	県立伊奈学園総合高等学校	埼玉県吉田町、伊奈町
千　葉	市川市立市川小学校	千葉県九十九里町
	市川市立曽谷小学校	新潟県六日町
	富津市立大貫小学校	埼玉県川口市
東　京	豊島区立椎名町小学校	山形県遊佐町
	渋谷区立中幡小学校	長野県飯田市
	武蔵野市立境南小学校	長野県飯山市
	武蔵村山市立第四中学校	長野県栄村
神奈川	横浜市立浦島小学校	山形県三川町
富　山	富山市立上条小学校	東京都品川区
	井波町立井波小学校	香川県土庄町
石　川	金沢市立富樫小学校	石川県羽咋市
	内灘町立西荒屋小学校	石川県金沢市
福　井	大野市立上庄小学校	福井県美浜町
	大野市立六呂師小学校	福井県高浜町
山　梨	道志村立道志中学校	静岡県焼津市
	早川町立早川南小学校	埼玉県川口市、静岡県清水市
長　野	本城村立本城小学校	新潟県赤泊村
	長野市立若槻小学校	新潟県能生町
岐　阜	本巣町立外山小学校	三重県河芸町
	関市立旭ヶ丘小学校	富山県氷見市
	岐南町立東小学校	福井県小浜市
	宮村立宮小学校	富山県富山市
静　岡	静岡市立安東小学校	三重県鳥羽市

	沼津市立大岡中学校	長野県大岡村
愛　知	瀬戸市立原山小学校	岐阜県高鷲村
	西尾市立東部中学校	岐阜県高鷲村、東京都千代田区
三　重	桑名市立大山田西小学校	岐阜県上石津町
	明和町立斎宮小学校	群馬県明和町
滋　賀	大津市立比叡平小学校	広島県宮島町
	守山市立中洲小学校	福井県小浜市
京　都	木津町立梅美台小学校	京都府丹後町
	木津町立相楽台小学校	京都府丹後町、兵庫県城崎町
	木津町立木津川台小学校	京都府丹後町、精華町
	木津町立相楽小学校	京都府丹後町
大　阪	大東市立大東中学校	滋賀県近江八幡市
	池田市立池田小学校	鳥取県青谷町
兵　庫	相生市立中央小学校	兵庫県家島町
	高砂市立米田小学校	兵庫県波賀町
奈　良	下北山村立下北山中学校	三重県尾鷲市
	當麻町立白鳳中学校	北海道当麻町
鳥　取	智頭町立山形小学校	岡山県賀陽町、加茂川町
	青谷町立勝部小学校	大阪府池田市
島　根	出雲市立稗原小学校	鳥取県大山町
	大田市立第三中学校	岡山県笠岡市
岡　山	岡山市立岡山中央中学校	香川県土庄町
	岡山市立桑田中学校	鳥取県大山町
広　島	府中町立府中北小学校	島根県羽須美村
	福山市立多治米小学校	岡山県賀陽町
山　口	徳山市立遠石小学校	山口県美祢市、美東町
	防府市立野島小学校	山口県徳地町、美祢市
	防府市立野島中学校	山口県徳地町、美祢市
徳　島	阿南市立長生小学校	高知県室戸市
	宍喰町立宍喰小学校	高知県室戸市
香　川	観音寺市立観音寺東小学校	徳島県日和佐町
	香川県立聾学校	香川県直島町
愛　媛	北条市立立岩小学校	愛媛県中島町
	宮窪町立宮窪中学校	愛媛県久万町
高　知	吾川村立名野川小学校	高知県奈半利町
福　岡	春日市立日の出小学校	福岡県夜須町
	大野城市立大城小学校	福岡県夜須町
佐　賀	多久市立中部小学校	長崎県野母崎町
	多久市立緑が丘小学校	佐賀県鎮西町、呼子町
長　崎	鹿町町立鹿町小学校	大分県上津江村
	県立佐世保ろう学校	長崎県世知原町
熊　本	矢部町立御所小学校	熊本県龍ヶ岳町
	産山村立山鹿小学校	熊本県御所浦町
	産山村立山鹿北部小学校	熊本県御所浦町
大　分	別府市立西小学校	大分県日田市
宮　崎	都城市立明道小学校	宮崎県宮崎市･北浦町、鹿児島県鹿屋市
	延岡市立恒富小学校	宮崎県東諸塚村
鹿児島	鹿児島市立西田小学校	熊本県熊本市
	鹿児島市立甲東中学校	鹿児島県霧島町
沖　縄	浦添市立前田小学校	沖縄県東村
計	97校	

平成１５年度豊かな体験活動推進事業ブロック交流会実施要項

1　趣　旨

豊かな体験活動推進事業の円滑な実施を図るため，地域のブロックごとに「豊かな体験活動推進事業ブロック交流会」（以下「ブロック交流会」という。）を開催し、「豊かな体験活動推進地域・推進校」における取組についての事例発表、協議、情報交換等を行い，域内の小・中・高等学校等における体験活動の充実に資する。

2　主　催

文部科学省及び開催都道府県教育委員会

3　開催方法

全国を別記の６ブロックに分けて、ブロックごとに開催するものとする。

4　開催時期

別記の日程で開催することとする。

5　日　程

【１日目】	午前 10:00～ 12:20	開会式 講演 文部科学省説明
	午後 13:20～ 16:20	事例発表(30×3)（地域間交流校を含む） 質疑・意見交換・情報交換 まとめ
【２日目】	午前 09:30～ 12:30	分科会（事例発表：小・中・高・地域間交流校） (30×3) 質疑・意見交換・情報交換 まとめ

6　参加者

都道府県・指定都市の教育委員会が推薦する次の者とする。

（１）推進校関係者・・・・・・・・・各校１名
（２）地域間交流校関係者・・・・・・各校１名
（３）推進地域関係者・・・・・・・・各地域１名
（４）都道府県教育委員会関係者・・・各１名
（５）その他・・・・・・・・・・・・・若干名

小学校・中学校・高等学校等の児童生徒の保護者、地域の住民、青少年団体関係者等で各都道府県・指定都市教育委員会が推薦し、開催県が参加を認めた者。

7　交流会に要する経費

（１）ブロック交流会の実施に要する経費については、別途文部科学省から予算の範囲内で支出委任する。
（２）都道府県が行う国の会計事務として支出する経費とする。
なお、文部科学省は必要に応じ、ブロック交流会の実施状況及び経費処理状況について実態調査を行う。

8　その他

会場、参加者の宿泊、その他運営の詳細については、開催県教育委員会から連絡する。

（別記）

北海道・東北ブロック（７）	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東ブロック（７）	東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城
中部ブロック（９）	山梨、新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿ブロック（７）	大阪、京都、奈良、滋賀、三重、和歌山、兵庫、
中国・四国ブロック（９）	鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島、高知
九州ブロック（８）	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

（４７）

※　下線部は平成１５年度ブロック交流会開催県

【期日】

・北海道・東北ブロック　平成１６年２月　３日（火）～　４日（水）

・関東ブロック　平成１６年１月２６日（月）～２７日（火）

・中部ブロック　平成１６年２月　９日（月）～１０日（火）

・近畿ブロック　平成１６年１月２９日（木）～３０日（金）

・中国・四国ブロック　平成１６年２月　５日（木）～　６日（金）

・九州ブロック　平成１６年１月２９日（木）～３０日（金）

小　　学　　校

【小学校・勤労生産に関わる体験活動】

「伝えようふるさとの味、環境」を通した体験活動

埼玉県熊谷市立熊谷西小学校

学　校　の　概　要

①学校規模

○　学級数：２６学級(内特殊学級２学級)
○　児童数：７９３人
○　教職員数：３８人
○　活動の対象学年：５年生・１２６人

②　体験活動の観点から見た学校環境

○　熊谷市は埼玉県北部にあり中山道の宿場町として栄え、現在も交通の要衝となっている。人口は約１６万人で、米と小麦の二毛作が行われ生産量も多く穀物栽培は重要な産業であったが、年々第３次産業の就業者が増えてきている。平成１６年度の国体のメーン会場地である。

○　本校は、市の中心部の市街地にあり、学区内には市役所等の公の施設や商店、住宅が多い。児童の住まいの近くでは田畑での仕事を見る機会も体験する機会もほとんどない。

本校ではＪＲＣ活動を長く続け、勤労や奉仕を重視した教育を行っている。

③　連絡先

○　〒３６０－００１８
埼玉県熊谷市中央１丁目１番地
○　電　話：０４８－５２１－００１６
○　ＦＡＸ：０４８－５２０－２８９４
○　ホームページ：
http:/www.kumagayanishi-e.ed.jp
○　電子メール：
nis001@kumagayanishi-e.ed.jp

体　験　活　動　の　概　要

①活動のねらい

○　市街地に住み、田畑での栽培を知らない児童が､米作り等の体験をすることで、作物の作り方を知るとともに、作る人の苦労を知る。また、できた作物を有効に活用していく方法について考え､体験し、地域に伝わる料理を学ぶことで、食と農について関心を持ち、地域を理解し愛着を持つ。

○　校内に芝や芝桜等の草花を植え付け環境整備をしたり、地域の公園を清掃したりする公共のための勤労体験を行うことで、地域を大切にする気持ちを持ち、互いに協力しあうことの大切さを知る。

②　活動内容と教育課程上の位置付け
（単位時間数・日数）

○　稲作体験活動
（総合的な学習の時間　１８時間）
○　小麦作り体験活動
（総合的な学習の時間　　２時間）
○　米・小麦を使ったふるさと料理調理活動　（総合的な学習の時間　２０時間、家庭　２時間）
○　サツマイモ作り体験
（総合的な学習の時間　　４時間）
○　学校内の花と緑を増やす活動
（総合的な学習の時間　　４時間）
○　学校周辺や地域の公園の清掃を行う活動　（特別活動　　２時間）

1　活動に関する学校の全体計画

（１）活動のねらい

ア　この地域に昔からある食に関心を持ち、米・小麦・サツマイモ作りの体験や、米・小麦を利用した調理を通し、主体的に学び、互いに協力できる児童を育成する。

イ　地域の人々とのふれあいを通して、人々の生活に対する工夫や技・心の温かさを知り、地域を理解し愛着をもつ児童を育成する。

ウ　校内に草花を植え環境整備をしたり、地域の公園を清掃する勤労体験を行う等、公共のための活動を通して、連帯感を育て、ふるさとを愛し豊かな心をもつ児童を育成する。

（２）全体の指導計画

ア　活動の名称　「伝えようふるさとの味、環境」

イ　実施学年　　第５学年（学校周辺や地域の公園の清掃を行う活動は３～６学年）

ウ　活動内容

（ア）稲作体験活動

借りた田とベランダ等に置いたバケツ稲の両方で栽培を行う。

田植え、除草、稲刈り、脱穀、もみすり、精米を体験する。

（イ）小麦作り体験活動

校地内の畑を使って栽培する。麦蒔き、麦踏み、麦刈りを体験する。

（ウ）米・小麦を使ったふるさと料理調理活動

製粉を体験し、おにぎり、団子、うどん、すいとん、煮ぼうとう、まんじゅう、フライ等の昔からの料理つくりを、地域の高齢者から指導を受け、体験する。

（エ）サツマイモ作り体験

借りた畑を使って、苗植え、除草、収穫を体験する。

（オ）学校内の花と緑を増やす活動

中庭に芝を植え、空き地に芝桜を植え、花壇に草花を植え、花と緑を増やす体験をする。

（カ）学校周辺や地域の公園の清掃を行う活動

３・４年生は学校の周りの清掃をし、５・６年生は市役所脇の中央公園の清掃を行う。

エ　教育課程上の位置づけ

活動内容（ア）～（オ）は、総合的な学習の時間に位置づける。ただし、（エ）の除草は夏休み中ボランティアを募って行い、教育課程外である。（ウ）の一部は家庭科の授業として行う。また、（イ）は５年生の内に収穫できないので、６年生になってからボランティアが放課後、教育課程外で行う。（オ）の管理は環境委員会が教育課程外で行う。（カ）は特別活動の学校行事で行う。

このうち、総合的な学習の時間として取り組んだ（ア）（イ）（ウ）（エ）は、３年社会「私たちの暮らしとものを作る仕事」、４年社会「県の人たちの暮らし」、５年社会「私たちの暮らしと食料生産」、５年理科「花粉のはたらき」、５年家庭科「作っておいしく食べよう」と関連させている。また（オ）は５年理科「花粉のはたらき」と関連させて指導している。

オ　期間　　平成１５年４月から平成１６年２月まで　　全５２時間

２　活動の実際

（１）事前指導

米・小麦・サツマイモの栽培及びその料理の体験のため、熊谷の農産物について調べ発表し合う時間をとった。各家庭・地域の人に聞いたり、農業普及員を学校に招いて話を聞いた。そして、本校学区には田畑が少ないが、熊谷市は昔から二毛作が普及し穀物生産が盛んな地であり、その料理もたくさんあることを理解させた。また穀物が人類を養ってきた歴史を教え、生

産してみたいという意欲を高めさせた。

また、平成１６年度に行われる国民体育大会のメーン会場が本校からほど近い所となることから、来られる方を迎えるために自分たちができることは何かを話し合い、街をきれいにし、花と緑がいっぱいの学校にしたいという意識を高めた。

（２）活動の展開

ア　稲作体験活動（総合的な学習の時間　１８時間）

（ア）活動の場や施設　　学校のベランダや中庭、及び地域の人に借用した田

（イ）児童の活動　　４月　地域の農産物、米・小麦について調べる。

５月　稲の育て方を調べる。バケツに種籾を蒔く。

６月　借用した田に田植え。

７・８・９月　バケツ稲の水の管理、除草、追肥、観察

１０月　稲刈り、一部の稲わらを自分たちで干し乾燥させる。

脱穀し、もみすり。学習したことをまとめ発表する。

（ウ）指導者・協力者

熊谷市農政課職員、農業普及員、地元のＪＡ支店長、田の地主、地域の農業専門家

イ　小麦作り体験活動（総合的な学習の時間　２時間）

（ア）活動の場や施設　　校地内の畑

（イ）児童の活動　　６月　前年の５年生が栽培した麦を観察

１１月　麦蒔き　　１～２月　麦踏み

ウ　米・小麦を使ったふるさと料理調理活動（総合的な学習の時間　２０時間、家庭科　２時間）

（ア）活動の場や施設　　校地、家庭科室

（イ）児童の活動　　１１・１２月

①ふるさとの味について調べ発表

②昔から伝わる米・小麦料理に挑戦

・米を精米して、おにぎりにして食べる。自分でも精米。

・米と小麦を粉にする。木槌や石臼を使って自分でも製粉。

・団子、うどん、すいとん等の料理を作って食べる。

③ふるさとの味の発表会を行い、レシピを作成する。

（ウ）指導者・協力者

児童の祖父母、地域の敬老会員

エ　サツマイモ作り体験（総合的な学習の時間　４時間）

（ア）活動の場や施設　　地域の人に借用した田

（イ）児童の活動　　５月　サツマイモ苗植え

６～８月　ボランティアによる除草　　１０月　収穫

（ウ）指導者・協力者　地元のＪＡ支店長、地域の農業専門家

オ　学校内の花と緑を増やす活動（総合的な学習の時間　４時間）

（ア）活動の場や施設　　学校内で地域の人たちにも外から見える花壇等

（イ）児童の活動　　４～５月，１０月に各２時間ずつ芝や草花等を植え、花と緑を増やす。

カ　学校周辺や地域の公園の清掃を行う活動（特別活動　２時間）

（ア）活動の場や施設　　中央公園

（イ）児童の活動　　毎月行われているＪＲＣクリーン活動の日に合わせ、学級ごとに順番で交代して中央公園を清掃する。

（３）事後指導

ア　お世話になった方へお礼の手紙を送った。

イ　活動後、児童が発表し合う機会を作り、お互いが繰り返し学び合う機会とした。

ウ　児童の活動の様子を写真で撮り、その様子を校内に掲示し、他学年の児童にも紹介した。

エ　学習した内容を、学校のホームページ（５学年）に載せたり、郷土料理のレシピを各家庭に持ち帰り、広めるようにした。

３　体験活動の実施体制

（１）学校支援委員会の体制

・学校職員は、管理職、５学年主任、総合的な学習主任、特別活動主任が入り、校外からはＰＴＡ役員、ＪＡ支店長、隣接の保育園長が加わり組織した。

・活動の場や指導者確保は教頭が窓口になり進めた。委員にＪＡ支店長が加わっていることで、穀物生産の準備等も早く、体験がスムースに行えた。

（２）配慮事項等

・他教科等との関連から、米作りの体験は５年生が有効である。稲刈りは慣れない刃物を使うので危険なことから、農家の方に多く参加して指導していただき助けられた。

４　体験活動の評価の工夫と指導の改善

○児童には、自己評価カードに記入させ、活動の小さなステップごとに反省させることで、次の活動をより改善して行えるよう指導した。

○体験活動は、児童が思いや願いを持って主体的に活動することから、教師が観察による評価がしやすくなる。この観察結果からその都度児童を指導し、まとめの発表会での成果も加えて評価していった。

５　活動の成果と課題

（１）成果

・地域で生産される米や小麦から多くの料理ができることを知り、地域に愛着が持たせられた。

・今回の体験は、祖父母や地域の高齢者からの援助を受けることが多かった。このことからお年寄りを大切にし、その智恵を学んでいこうという気持ちが児童に育てられた。

・学校の中の環境を整えたり、公園清掃をしたりする体験を通し、児童に協力し合うことの大切さを理解させると同時に、自分も地域の一員だという気持ちが育てられた。

（２）課題と今後の取り組み

・稲作り等体験場所が学校から離れていると、移動の時間を工夫する必要があると同時に安全面でも心配である。学校内で行える体験の工夫がより必要である。

・直接体験する活動は児童の心を感動させ、広げていくことが分かったので、工夫して様々な体験の機会を作りたい。

【小学校・勤労生産に関わる体験活動】

地域の人・もの・文化に感動する体験活動　～イワフネチャレンジ～

新潟県村上市立岩船小学校

学　校　の　概　要

① 学校の規模
- ○ 学級数：１２学級（内特殊学級1学級）
- ○ 児童数：２７３人
- ○ 教職員数：２６人
- ○ 活動の対象学年：5年・４５人

② 体験活動の観点からみた学校環境
- ○ 県北に位置し、海・山・川・平野に囲まれた自然豊かな地域であり、「磐舟の柵」で知られた古い歴史と伝統の町である。
- ○ 創立１３０年を迎えた学校であり、それを支えてきた地域の人や保護者の思いは今も強く、子どもたちの育成に関わる教育活動に惜しみなく協力する姿として現れている。
- ○ 産業や文化面においては、地場産物を生かした伝統的な食品産業、漁業や農業、江戸時代から続く「岩船大祭」等、子どもたちの周りには価値ある営みが多く存在する。

③ 連絡先
- ○ 〒９５８－００５１
  新潟県村上市岩船上町２番１０号
- ○ 電　話：０２５４－５６－７０３６
- ○ ＦＡＸ：０２５４－５６－７８４２
- ○ 電子メール：
  iwax2-10@mail.iwafune.ne.jp

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい
- ○ 自分たちが住む岩船の人とのふれ合いを通して知恵や技を学び、相手や地域を思いやる心を育成する。
- ○ 自分で考え、自分で判断し、自信をもって主体的に人やものに関わる態度や能力を育成する。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
- ○ 地域の人に学ぶ技と心
  - ・ 地引網体験（学校裁量４時間）
  - ・ 鮭の塩引き作り
    （総合的な学習の時間４時間）
  - ・ ヒラメの稚魚放流（社会３時間）
  - ・ 田植え、稲刈り
    （社会３時間、学校裁量７時間）
- ○ 地域を思うやさしい心
  ＜社会奉仕的要素も含む＞
  - ・ フラワーボランティア
    （学校裁量９時間）
  - ・ 岩船クリーン作戦
    （特別活動６時間）
  - ・ まごころ交流
    （総合的な学習の時間４時間）

等

1　活動に関する学校の全体計画

(1)活動のねらい

・　体験を通して、地域の人とふれ合いを深めたり、知恵や技に感動したりしながら、相手や地域を思いやる心をさらにはぐくむ。

・　自分で考え、判断し、自信をもってより主体的に人やものに関わる態度や能力を育てる。

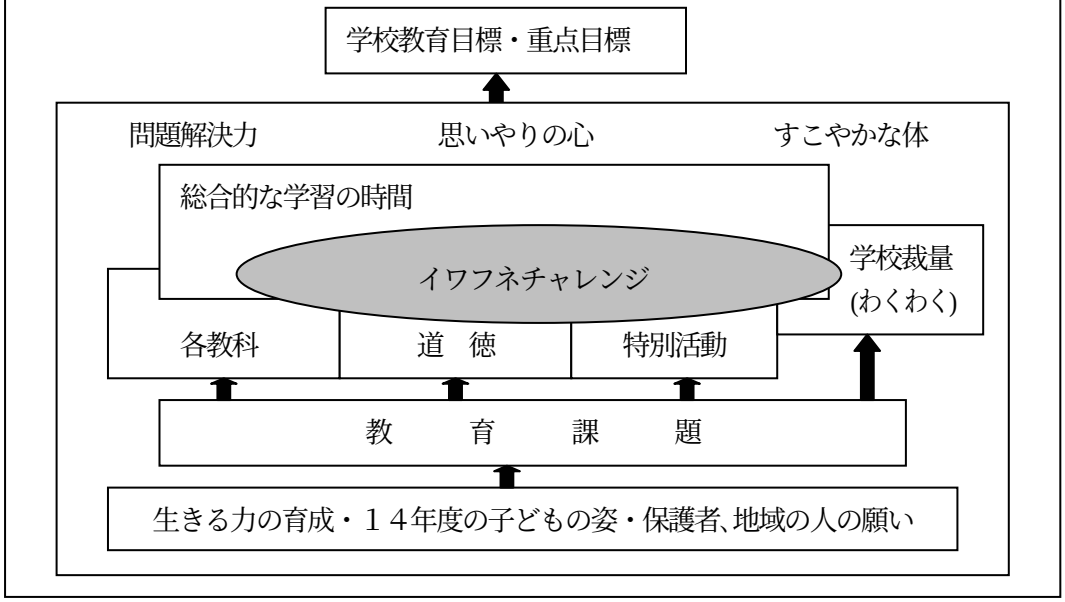
(2)　全体の指導計画

ア　活動の名称　　「イワフネチャレンジ」

イ　実施学年・活動内容・教育課程上の位置付け・期間等

学　年	活　動　内　容	教育課程上の位置付け	期間・単位時間数
5,6年	地引網体験	学校裁量（わくわく）	9月　　4時間
5　年	ヒラメの稚魚放流	社会科	7月　　3時間
4　年	鮭の塩引き作り体験	総合的な学習の時間	１２月　4時間
5　年	田植え・稲刈り体験	社会科 学校裁量（わくわく）	5～9月3時間 7時間
全　校	フラワーボランティア （自分で選んだ花を育て、学校や地域を花いっぱいにする活動）	学校裁量（わくわく）	6～8月 9時間
全　校	岩船クリーン作戦 （自分たちで計画し、地域に呼びかけて行う海岸清掃活動）	特別活動	5～8月 6時間
5　年	まごころ交流 （特別養護老人ホームで、自分たちが考えた内容で入所者と交流する活動）	総合的な学習の時間	9～１０月 4時間

「いわふねの教育」グランドデザイン（教育基本構想図）を簡略化したもの



2　活動の実際

(1)　事前指導

・　年度当初、今年度のイワフネチャレンジ推進計画について全教職員で共通理解を図る。そして、教科、領域等の年間プランを作成した上で、活動時期、指導者依頼、指導過程等を検討し、見通しをもって事前指導や実際の活動に取り組めるようにしている。

・　学年や学年部の活動は、学年担任が教科等との関連を考慮し、教科の発展として活動できるようにゲストティーチャーを招いたり、時期を考慮したりしている。

・　全校活動では、校務分掌の担当者と中心になる子どもたちで計画を立て、全校の子どもたちに活動の目的や計画を提案、説明している。

(2)　活動の展開

＜地域の人に学ぶ技と心＞

ア　鮭の塩引き作り（４年総合的な学習の時間「サケ博士になろう」に位置付けて実施）

岩船漁協での水揚げも多い鮭。それを使った伝統料理の一つに「塩引き鮭」がある。

子どもたちは「サケ博士になろう」の学習の中で自分の課題とした鮭に関する調べ学習を進める。その過程において、一人一本の鮭（４ｋｇ台）の塩引き作りを体験する。そして、この体験によって膨らんだ鮭に対する興味・関心を自分の課題追究に生かしていく。

この体験では、漁協関係者、塩引き職人(漁師)、ボランティアの協力を得、経費も格安で実施している。また、実際の活動では１m近い鮭を相手にすることや刃物を使用することから、ほぼ全家庭の保護者からも協力を得て実施している。

１２月中旬に出来上がった塩引き鮭は、各自持ち帰り、家族みんなで食する。中には年越しの魚として食べたという家庭もあり、この体験で深まった地域への思いや願いが家庭でも話題にされ、ふるさとのよさを実感するよい機会となる。

イ　ヒラメの稚魚放流（５年社会科「水産業の盛んな地域を訪ねて」に位置付けて実施）

水産業の学習の終末段階で、地域における育てる漁業の実際を体験する。学習の過程でゲストティーチャーとして、漁協関係者、漁師、水産業改良普及委員等の方々を迎え、子どもたちの疑問に答えてもらっている。その上で、わが国の水産業が抱える諸問題の一つを地域の海、地域の漁業に置き換えて学習し、ヒラメの放流活動を地域に出かけて実施している。子どもたちには、身近な問題として関心を高めることができた。

この活動は、学習内容の深まりへの期待と地域の漁業関係者の願いが正に融合した形となり、学校と地域が双方向で連携した活動となっている。

＜地域を思うやさしい心＞

ア　フラワーボランティア（全校学校裁量「わくわくタイム」に位置付けて実施）

児童会の環境委員会からの「みんなで学校を明るくきれいにしよう」という呼びかけを受け、自分で花を選び、自分で世話をして学校に飾る一人一鉢栽培

活動を実施している。また、町内子ども会ごとにプランターに植える花を選び、役割や分担を決めて育て、その花を飾る場所を考えて町内に飾る活動を実施している。子どもたちは、登校すると自分たちの鉢やプランターに忘れず水をやり、成長を楽しみにしながら育てている。

町内への花の運搬や長期休業中の管理についても子どもたちが担当し、保護者には活動の趣旨を説明して見守ってもらっている。

(3) 事後指導

・ 一つの体験活動が終わるたびに、子どもたちに感想や思いを書かせ、道徳の授業を中心とした心の教育に生きるようにしている。

・ 全ての活動が終わった段階で、一年間の活動を振り返る場やそれを伝える学習活動を単元化し、活動を通して獲得した知識や培ってきた心や態度を保護者や地域の人に発信している。（学習発表会：２月第１日曜日、約７００人参加）

３ 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会の体制

・ 学校支援委員からも体験活動に参加してもらい、運営面・指導面での具体的な示唆がもらえるようにした。また、地域の関係機関（漁協、水産普及委員、漁師、区長会、PTA 等）との連携に当たり、指導者の紹介等､ネットワークを生かせるようにした。

・ 指導者とは、事あるたびに学校職員が出向き、打合せを含めた連携を密にしラポート関係を築くようにした。

(2) 配慮事項等

・ 活動場所までの移動、活動中等における安全面や運営面での補助として学習ボランティア（保護者）の参加があるとよい。また、天候の変化に対応できる準備や連絡体制作りが必要である。

４ 体験活動の評価の工夫と指導の改善

○ 活動終了後に子どもたちに感想等を書かせている。また、指導者や参加した保護者からも感想をもらい、それらの成果、教育活動への位置付け等を検討する材料にしている。

○ 総合的な学習の時間での体験活動については、評価カードを使って子どもと担任がそれぞれに自己評価を行い、それを総合して分析し、単元構成の改善に生かしている。

○ 体験活動の様子を毎月「イワフネチャレンジ」便りとして発信している。学区全戸１５００戸へ配布し、活動の様子を伝えている。年度末には、学習発表会や保護者、地域へのアンケートを実施し、指導過程の改善に生かしてきた。

５ 活動の成果と課題

イワフネチャレンジでの体験活動は、平成３～１５年の伝統ある活動であり、子どもたちも楽しみにしていると同時に､多くの保護者や地域の方もぜひ体験させたいと思っている(アンケート結果)。

体験活動を通して、子どもたちは地域のよさやすばらしさ、そして、地域の人からの自分たちへのあたたかい思いを実感することができた。また、自分たちで考えた活動への地域の人からの声が意欲を高め、関わりを深める様子が随所に見られるようになってきた。指導者や関係者からは､「岩船の子を共に育てる」という立場で全面的な協力が得られていることを確信している。

今後も、保護者、地域の人とのラポートを大切にしながら、体験活動と教科・道徳・特別活動等との関連をより明確にして教育課程に位置付けなければならない。また、そのために体験活動の価値と教科等の目標や内容をどう関連させることがベストなのか検討していきたい。

【小学校・勤労生産に関わる体験活動】

地域の米作り名人と米作り体験活動　～米でつながるわたしたち～

奈良県香芝市立真美ヶ丘西小学校

学　校　の　概　要

① 学校規模

○ 学級数　：　１３学級(内障害児学級1学級)
○ 児童数　：　３４４人
○ 教職員数　：　２６人
○ 活動の対象学年：　５年　・５３人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

○ 人口約６．３万人の香芝市で真美ヶ丘ニュータウンの中に位置している。地域の特徴は大阪のベットタウンとして開発された新しい住宅地域で圧倒的に大阪方面に通勤されている家庭が多く、唯一旧来の１７戸の五カ所という集落以外はすべて住宅地である。

○ 新興住宅地ということで、ここを子どもたちのふるさとにしようと、地域自治活動はもとより、地域老人クラブの活動も盛んで、高齢者の皆さん、保護者・地域住民の皆さんは学校教育への協力を大変熱心にしていただいている。

○ 本校は開校１６年目の比較的新しい学校である。特色ある学校づくりから地域にこだわり地域の学校として地域の人たちとの交流を大切にしてきた。運動会・新年集会・卒業集会などには地域老人会はじめ地域の方々に参加いただいている。

③ 連絡先

○ 〒６３９－０２２３
奈良県香芝市真美ヶ丘五丁目４－２０
○ 電　話　：０７４５－７７－５８８８
○ ＦＡＸ　：０７４５－７９－２１６０

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい

○ 米作りの体験活動をとおして、自分たちの住んでいる地域の米作りを知ることで、自分と米の関わりを考え、自分たちの住んでいる地域のすばらしさを学ばせる。

・日本の農業（私たちの食生活と食料生産）の現状や問題点に気づく。
・体験活動の中で出会った人たちの努力や工夫を知り、その生き方に学ぶ。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

○ 総合的な学習の時間５０単位時間
　特別活動　５単位時間
　社会科　１０単位時間
　家庭科　５単位時間

○ 主なる活動場所
　学校借用田（五カ所農家より）
　バケツ稲置き場・教室・ﾊﾟｿｺﾝ教室

○ 活動内容

米作り体験は籾蒔きから、収穫祭（おにぎりパーティー）まで。教育課程上、籾蒔き・田植え・稲刈り等は「総合的な学習の時間」で実施。日常活動としてバケツで育てた稲の世話は特別活動で実施。社会科では日本の農業（私たちの食生活と食料生産)、またインターネットを利用して米の歴史・食文化・日本の米作りの抱える問題なども学習した。収穫祭には収穫した米で家庭科の時間に米を炊き、みそ汁づくりをして、家族の一員として家庭生活の実践ということに発展させた。

１．活動に関する学校の全体計画

○活動のねらい

勤労生産体験活動の米作り体験活動をとおして

- 自分たちの住んでいる地域の米作りの様子を知り、自分と米の関わりを考える、
- 米作りで出会った人たちの努力や工夫を知り、その生き方に学ぶ。。
- 社会科と関連づけ、日本の農業（私たちの食生活と食料生産）の現状や問題点に気づく。
- 家庭科と関連づけ、収穫の喜びを共に味わい、米を調理し食することで、自然に感謝する心を育てると共に家族の一員として家庭生活に関心を持つ。
- 稲を育てる事をとおして、自ら考え、行動し、主体的に取り組む態度を育てる。

２．全体の指導計画

ア　活動の名称

「米でつながるわたしたち」

【田 植 え 体 験】

【収穫した米でおにぎりパーティー】

イ　実施学年

第５学年

ウ　活動内容

・勤労生産に関わる体験活動

籾蒔き・田植え・稲刈り・脱穀

籾すり・精米　昔の道具の体験

バケツで育てる稲の世話

・社会科との関連・・・日本の農業の学習、インターネットで米の歴史・食文化・日本の農業の問題点等を調べ学習

・家庭科との関連・・・収穫祭で家庭科の『作って食べよう（ご飯とみそ汁)』の単元と関連させ、収穫した新米で炊く。

エ　教育課程上の位置付け

（ア）米作りでお世話になる○○さんとその田（○○さんにお借りした田のことで、以後学校田と記載する。）での米作りの活動と○○さんに来校していただいてバケツ稲の育成の指導（籾蒔きから刈り取り・精米）は総合的な学習の時間として５０時間

（イ）日常の稲の観察・世話は特別活動５時間と業前と放課後にした。
ただし、夏休みの長期休業中は子どもたちだけの少人数登下校になるので、防犯上の面から、教職員で分担して世話をした。

（ウ）収穫祭とおにぎりパーティーは家庭科５時間とその日の総合的な学習の時間を充てた。
保護者にも協力いただいた。

（エ）米作りと並行して日本の農業について社会科で１０時間学習し、発表会もした。

３．活動の実際

○全活動計画（１～８の体験活動）

①	「米」って何だろう	（総　合）
②	米について調べてみよう	（社会科）

	①「外国の米作り」②「米作りをしている人」③「農薬」④「米作りの歴史」 ②「米からできるもの」⑥「米の料理」⑦「米の品種改良」⑧「米の栄養」 ⑨「米の成長」⑩「わら」⑪「祭り」
③	米作りをしてみよう。・・・　■米作の達人に米作りを教えてもらおう。 （バケツで学校でも稲を作ってみよう）**籾蒔きから** **■田植えをしてみよう。**（総　合・特　活）
④	調べたこと・体験したことを中間発表してみよう。（社会・特　活） ！！！疑問・・・なぜ川の近くで米作りが盛んなのか ↓↓↓　　外国の米作りはどうしているのか。 ↓↓↓　**■稲刈りをしよう。**　（総　　合） ↓↓↓　**■脱穀をしてみよう。**　（総　　合）
⑤	米作りについて様々な経験や工夫について達人に聞いてみよう。（総　　合）
⑥	収穫した米で家庭科の時間に料理を作ろう。　（家庭科）
⑦	外国の米作りについて調べてみよう。（韓国の米作りについて）（総　合）
⑧	米作りについて調べてきたこと、経験したことをまとめて、発表しよう。（総　合）

○活動の実際

①の活動　「米」って何だろう

米の抱える問題、食文化、歴史など、子どもたちに興味関心と問題意識を持たせるために、ＮＨＫの教育番組『おこめ』を視聴する。また、子どもたちの米についてもっと知りたいこと、作っていること、作っている人、食べていること、昔の米作りなどについて、それぞれが短冊に記入し、紹介し合う。さらに、体験を通して学んでいくことを大切にするということで、バケツを使って稲を育てる「バケツ稲」に取り組んでいくことにした。

②の活動　米について調べよう（グループ学習）

子どもたちから出された意見を整理し、１１のグループに分かれて調べ学習を行った。

③の活動　米作りをしてみよう（■米作りの達人に米作りを教えてもらおう）

バケツ稲を育てていくにあたって、初めての取組であるため、米作りの達人である○○さんに「米作り」について話をしてもらうことにした。米作りの苦労やコツを教えてもらい、そして、種籾を植えるための土作りや種籾の植え方を指導してもらいながら子どもたちとともに行った。さらに、苗ができるまでの世話の方法や田植えの時期についても教えてもらった。

■　田植えをしてみよう（米作りの達人に田植えの方法を教えてもらおう）

田植えについては、○○さんの田でも体験させていただくことになり、自分たちのバケツ稲で田植えをする時の練習も兼ねて、実際にどろの中に足を入れて田植えを体験した。そして、バケツ稲の田植えでも○○さんに指導してもらいながら実施した。

④の活動　調べたことや体験したことを中間発表しよう

中間発表としてまとめたことを発表し合い、各グループがどのようにまとめているのか、互いに参考にできるように実施した。

■　稲刈りの方法を達人に教えてもらおう

全員のバケツ稲もしっかりと成長し実をつけ、稲刈りの時期になった。○○さんに指導してもらいながら、稲刈りを行った。稲を刈った後、脱穀などの方法についても教えていただいた。さらに、

○○さんの田でも稲刈りの体験をさせてもらった。実際の農作業の苦労も体感できた。
■　脱穀などの作業をしよう
　刈り取った稲をかけねにかけ、しばらく乾燥させた後、脱穀の作業を行うことになった。割り箸で挟み込んで脱穀し、すり鉢に脱穀した米を入れゴムボールですりつけることで籾すりを行った。籾すりが予想以上に大変で苦労しながら取り組んでいた。精米は、一升瓶に入れて棒で根気よく突くことでできることも教えていただいた。しかし、籾すりが３時間かけて１／４もできなかったため、結局、機械を使って精米までしていただくことになった。
⑤の活動　米作りの達人に米作りについての様々な工夫など話を聞こう
　今までお世話になった○○さんに来ていただいて、校区の航空写真を見せていただきながら、校区の造成の様子や、造成前の田んぼの様子、水を確保するための溜池での苦労や工夫などについて話していただいた。また、子どもたちが調べ学習で、疑問に思ったことなどを直接○○さんに質問する時間も設定し、質問などに答えていただいた。
⑥の活動　収穫した米を使って料理を作ろう
　バケツ稲でできた米と○○さんの田でできた米をいただき、○○さんを招いておにぎり作りを行った。保護者の協力も得て大根のみそ汁やカツオとシーチキンを具にしたおにぎりを作りみんなでおいしくいただいた。
⑦の活動　外国の米作りについて、特に韓国の米作りについて調べた。
⑧の活動　米作りについて調べてきたこと、経験したことをまとめて、発表した

４．　体験活動の実施体制
（１）学校支援委員会の体制
　豊かな体験活動の充実と地域の連携を図るために、学校長中心に今までお世話になってきた地域の老人会やボランティア団体に協力を得て、学校支援委員会が運営できた。校長を中心とする１２名で構成された。
（２）配慮事項等
　安全確保と学校理解も含めて校外活動や家庭科実習は保護者に協力を得た。

５．　体験活動の評価の工夫と指導の改善
　豊かな体験活動は教育課程上の主に「総合的な学習の時間」・特別活動・社会科・国語科（パソコンで表現する）・家庭科において展開したので、それぞれの教科の評価基準に照らして評価する。総合的な学習の時間での活動が多いので、本校では自ら課題を見つけ、取り組む力はどうか、自ら情報を集め、創る力はどうか、表現する力、振り返る力はどうかということを重点に評価した。方法としてはノート、作文、ワークシート等の制作物からの評価。命輝き集会等表現活動へ向けての取り組み方、発表や話し合いの様子からの評価、日常的な活動状況の教師の観察による評価

６．体験活動の成果と課題
　本年度は「米でつながるわたしたち」をテーマに、米作りの活動を中心にして総合の学習を進めてきた。今回は、バケツ稲にも挑戦した。その結果、種籾、土作りから稲刈りまでの米作りの一連の流れを子どもたちは身近に観察し体験することができた。また、水田での田植え、稲刈り体験により実際に水田に足を入れ苗を植えることで、農作業の大変さにも気づいたようだ。米作り全般にわたってお世話になった○○さんの言葉や作業の手際の良さなどが子どもたちの心に残ったようだ。課題としては、地域の米作りの様子や地域のすばらしさについて、フィールドワークなどをして、深めることが出来なかったことである。

【小学校・その他の体験活動】

「まちづくり授業」～10 年後のふれあい日向市…そして私たち～

宮崎県日向市立富高小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模
- ○ 学級数：１９学級
- ○ 児童数：５７１人
- ○ 教職員数：２９人
- ○ 活動の対象学年：６年生・９５人

② 体験活動の観点などからみた学校環境
- ○ 学校は市内中心部にありながら，周辺には自然が多く残り，緑豊かな環境である。また，祭り（十五夜祭り，ひょっとこ祭り）や伝統芸能（十五夜踊り，ひょっとこ）なども受け継がれている。
- ○ 鉄道高架に伴い，日向市駅を中心に商店街の活性化を図るために，どのようなまちづくりをすればよいか地域が一体となって取り組み，町全体で協力していこうとする気運が高まっている。

③ 連絡先
- ○ 〒883－0034
  宮崎県日向市大字富高 6520 番地
- ○ 電話：0982－52－2047
- ○ FAX：0982－52－0779
- ○ ホームページ：
  www.miyazaki-c.ed.jp/tomitaka-e/
- ○ 電子メール：
  tomitaka@hotmail.com

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい
- ○ 日向市駅前の様子を調べたり，地域の人々にインタビューを行ったりして，これからの日向市について考え，ふるさとを愛する心を育てるとともに，これからの日向市を担う一員だということに気付かせる。
- ○ 様々な体験活動を通して，お互いのすばらしさに気付き，心豊かな人間関係を築いていく力を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
- ○ オープニング活動
  （総合的な学習の時間２時間）
- ○ テーマ作成活動
  （総合的な学習の時間４時間）
- ○ まちかど調査活動
  （総合的な学習の時間４時間）
- ○ まちづくり製作活動
  （図画工作３時間，総合的な学習の時間３時間）
- ○ まちづくり CM 製作活動
  （国語３時間，総合的な学習の時間３時間）
- ○ まちづくり発表活動
  （総合的な学習の時間４時間）
- ○ まとめる活動
  （総合的な学習の時間３時間）

1 活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

ア 日向市駅前の様子を調べたり，地域の人々にインタビューを行ったりして，一人一人がこれからの日向市について考え，ふるさとを愛する心を育てるとともに，これからの日向市を担う一員だということに気付かせる。

イ 様々な体験活動を通して，お互いのすばらしさに気付き，心豊かな人間関係を築いていく力を育てる。

（２）　全体の指導計画

ア　活動の名称

○　「まちづくり授業」～10 年後のふれあい日向市…そして私たち～

イ　実施学年

○　6 年生　95 名

ウ　活動内容

（ア）オープニング活動：先生の紹介。鉄道高架とは何か。これからの活動計画

（イ）テーマ作成活動：自分たちが作りたいまちのテーマ決め

（ウ）まちかど調査活動：自分たちが作るまちの区画の実態調査

（エ）まちづくり製作活動：まちの模型づくり

（オ）まちづくり CM 製作活動：CM 作成（発表方法，役割分担決め）

（カ）まちづくり発表活動：景観，建築界で活躍されている先生を招いての活動

（キ）まとめる活動：活動の反省，タイムカプセル製作

エ　教育課程上の位置付け

（ア）本活動は，平成 14 年度日向地区鉄道高架プロジェクトに伴い，景観，建築界の第一線で活躍されている篠原修教授，内藤廣教授を招いての「課外授業」としてスタートし，主に総合的な活動の時間を用いて実施した。

（イ）他教科との関連が図れる内容では，関連性を図り，子どもに負担のかからないように計画した。（他教科との関連…国語 3 時間，図画工作３時間）

オ　期間

（ア）期日

○　9 月初旬～10 月初旬，3 月下旬

（イ）単位時間数

○　豊かな体験活動推進事業年間活動時間数４６時間の内の２９時間（総合的な学習の時間 23 時間，国語 3 時間，図画工作 3 時間）

カ　活動場所

（ア）学校，まちかど調査（日向市駅周辺）

2　活動の実際

（１）事前指導

ア　学習の内容を知る活動

「まちづくり授業～10 年後のふれあい日向市…そして私たち」という学習に，子どもたちは，不安を抱いていた。そこで，景観・建築界で活躍されている篠原，内藤先生からの手紙を読み，不安の解消をし，これからの学習への意欲を高めることにした。

手紙には，「自分の得意技を生かして楽しくやってみよう。工作が好きな子は建物や木の模型を作ろう。図面が得意な子はこうなったらいいなと思う，公園やまちの絵を描いてみよう。作文がいいと思う子はイベントのときの人々の楽しそうな様子を書いてみよう。調べることが得意な子はどうやったら駅前に水のせせらぎを作れるか ～中略～10 月 3 日に会えることを今から楽しみにしています。」と，個を生かす教育そのものが手紙に書かれてあり，10 月 3 日，篠原，内藤先生と早く会いたいという思い，自分たちのまちを製作し，紹介したいという思いを高めていった。

イ　「鉄道高架」を知る活動

宮崎市の鉄道高架の様子を見せ，鉄道高架とはどのようなものかを知らせ，これからの活動へ生かした。

ウ　グループ編成活動

9つ（1グループ10名程度）のグループを編成した。

（2）活動の展開

ア　テーマ作り活動

日向市駅周辺の区画を，グループの数の9つの区画に区切り，自分たちが作っていく区画を決めた。その後，どのようなまちを製作していくのかをK・J法を用いて，グループで考えていき，それぞれのまちづくりのテーマを決定し，子どものまちづくりへの思いを高めた。

イ　まちかど調査活動

まちかど調査では，自分たちの製作するまちの区画を中心に調査を行った。自然や環境の様子など，普段何気なく見ているところまで目を配らせ，「足りないものは何かな。こんなものがあると便利だな。」などと自分たちが製作するまちへの資料集めに集中していった。

ウ　まちづくり製作活動

73cm×52cm の板に，100 分の1の模型を作成するために，「木の大きさはどれくらいがいいかな。ベンチの大きさは？道の広さはこれくらいかな？ゴミ箱やすべり台はこんな大きさかな？」などと考えながら製作していった。材料は，発泡スチロールや綿，針金など，廃材を材料として用い，環境問題も考えていけるように実施した。

エ　まちづくりCM製作活動

自分たちのまちの紹介をするため，国語科学習の「ニュース番組を作ろう」という単元と関連させ，発表原稿を作成した。製作が遅れている班もいたが，文章表現が得意な子どもが，紹介する原稿の柱などを考えたり，工作が得意な子どもが仕上げを行ったりすることで，子ども同士それぞれの特性を生かしながら活動に取り組むことができた。

オ　まちづくり発表活動…「まちづくり授業」

まちの紹介は，体育館で行った。それぞれのグループのテーマや，まちの模型を展示した。1グループ約 10 分の発表で行い，景観や建築界のたくさんの先生方を迎え，発表を行った。篠原，内藤先生には，一つ一つのまちに対して，賞賛の言葉やアドバイス，質問などをしていただくようお願いをした。子どもたちは，質問に対して自信を持って，先生方に，生き生きとした表情で答えていた。

（3）事後指導

ア　まとめる活動

この活動を終えての感想を書かせることで，この活動のまとめとした。また，3 月下旬

には，このまちづくり授業で学んだことや学級での思い出，未来への自分への手紙などを入れたタイムカプセルを学校内に埋めて，この活動を終えた。

3　体験活動の実施体制

（1）学校の体制づくり，家庭や地域，関係機関等の連携

連絡調整は，主に学年主任，教務が行い，関係諸機関との打ち合わせなどを行ってきた。篠原，内藤先生との連絡は，県土木課，市土木課を通して行ってきた。

（2）活動の場や指導者の確保等の手立てや工夫

今回は，平成 14 年度日向地区鉄道高架プロジェクトの一環として，景観，建築界で活躍されている篠原，内藤先生を招いての「課外授業」であった。

（3）配慮事項等

まちかど調査（駅周辺）については，県や市の土木課の方々に安全確保やまちづくりについての話などを行っていただくよう打ち合わせを行い，実施した。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善

評価においては，子どもに活動終了ごとに，A５の用紙に感想を書かせ，自分の活動を反省してきた。その際，子どもの活動の様子を見て特筆すべきことは，評価項目に○を付けて，メモをとってきた。このことにより，次の活動の準備や手立てが明確になってきた。また，子どもの活動への参加の仕方を振り返るよい材料となった。

評価項目例

評価項目 ①　自ら学ぶ力…活動の意欲、課題設定能力、課題追求能力、表現力（立体化する，発表するなど） ②　自己の生き方を考える態度…自分の生活を見直す能力、自分との関わりで物事を判断する能力 ③　学習技能…調査する技能，情報収集する技能，情報を活用する能力、まとめる技能，整理する技能（意見をまとめる)、企画する能力（町の構成を考える）

5　活動の成果と課題

（1）成果

・　「日向のまちがどのように変わっていくのか楽しみ。」「10 年後の日向市を見てみたい。」など，まちづくりやふるさとに関心を持つ子どもが増えた。
・　この活動を通して，子ども達は，自分のまちを再認識するとともに，まちは人がつくっていくということに気づくことができた。
・　様々な体験活動を通して，協力してやり遂げたことによって，友達のすばらしさに気付き，心豊かな人間関係を築いていくことができた。

（2）課題

・　子ども達が，継続して取り組んでいける活動へ，工夫改善していくことが大切である。
・　体験活動を通しての評価のあり方をさらに明確にしていく必要がある。
・　外部指導者との連絡調整方法などを記録しておき，次年度に生かす必要がある。

中　　学　　校

【中学校　勤労生産、自然に関わる体験活動】

農業体験活動を中心とした自然体験学習

青森県名川町立剣吉中学校

学　校　の　概　要

① 学校規模

○　学級数：５学級

○　生徒数：１２８人

○　教職員数：１４人

○　活動対象学年：１学年・３３人

② 体験活動の観点から見た学校環境

○　名川町は青森県の南端に位置し、北西部は丘陵が続き、南東部は平坦地で町の中心を馬淵川が流れて八戸に至り、太平洋に注いでいる。馬淵川流域は、低い大地をなし、肥沃な土地と温暖な気候条件の下に、水田が開け、畑地では、サクランボやリンゴなどを主とした果樹園芸の生産活動が盛んである。

○　豊かな心を育む教育活動

昭和２２年、剣吉中学校ＪＲＣを結成。以来５０有余年にわたる奉仕活動を継続している。近年は町のボランティアスタッフとして、各種イベントに参加する生徒も増えている。

○　進路学習の一環としての体験活動

- １学年…勤労生産体験及び自然体験活動
- ２学年…職場体験（地域の職場を訪問し、職業に関する体験活動を実施）
- ３学年…福祉体験（福祉施設での体験活動、子育て体験学習等を実施）

③ 連絡先

○〒０３９―０６１２

三戸郡名川町大字剣吉字桜町１５８

○電　話：０１７８－７５－００２６

○ホームページ：

http://www.hi-ne.jp/~hiscna05/index.html

○電子メール：hiscna05＠hi-net.ne.jp

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい

○　勤労生産に関わる体験活動

地域や農業高校の農園で、農産物の栽培から収穫までを体験することにより、自分の生まれた郷土を愛する意識の高揚と地域社会との好ましい関係づくりを推進する。

○　自然に関わる体験活動

２泊３日で野外生活をしながら、海や山などの自然に親しみ、自然への関心を高める。また、基礎的生活技能に習熟させるとともに、創造性や協力性を高めさせる。

未知の活動に挑戦させることにより、生徒の意欲を高め、たくましい精神力や生きる力を高める。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

＜勤労生産に関わる活動＞

○　勤労体験

（総合的な学習の時間　２時間）

- サクランボの収穫と梱包
- サクランボの販売

○　農業体験

（総合的な学習の時間　１６時間）

- 果樹（リンゴ）の摘果、摘花
- リンゴの袋かけ、文字入れ
- 野菜の播種と定植、草取り
- 野菜の収穫
- 畜産（鶏、豚、肉牛）の作業体験
- 鶏卵の採集、選別、箱詰め

＜自然に関わる活動＞

○　野外キャンプ（２泊３日）

（総合的な学習の時間　１８時間）

- 魚釣り（自然の物を生かした調理の学習）
- 登山（ロープやひもの結び方等の学習）
- 牛の乳搾り（農業体験と関連させて）

1　活動に関する学校の全体計画

（1）昨年度の取り組み（自然、勤労体験学習　1学年で実施）

自然に関わる体験活動、勤労生産に関わる活動をとおして、「将来の生き方を考える力」を育てるとともに、自分の生まれた郷土を愛する意識の高揚と地域社会との好ましい関係づくりを推進する。

①　農業体験(6月から11月)

名久井農業高等学校において、農業（農作物の栽培、管理、利用等）に関する体験学習

②　野外体験（7月）

2泊3日のキャンプを行い、地域の農園でのサクランボの収穫と梱包・販売、種差海岸でのいかだづくり、そば打ち等の体験

③　活動の成果

・他者への思いやりの心が育ってきた。

・自分たちの生活環境を自分たちで作り、改善していく喜びを知った。

・自然の中で何にでも挑戦してみる意欲と勇気が育った。

（2）今年度の取り組み（自然、勤労体験学習　1学年で実施）

①　活動のねらい

自然に関わる体験活動、勤労生産に関わる活動をとおして、「将来の生き方を考える力」を育てるとともに、自分の生まれた郷土を愛する意識の高揚と地域社会との好ましい関係づくりを推進する。

②　全体の指導計画

活動の名称	主な活動内容	教育課程上の位置づけ	実施学年
生産体験	地域の農園、道の駅 サクランボの収穫と梱包 サクランボの販売	総合的な学習の時間 7月4日（2時間）	1学年 （33名）
農業体験	名久井農業高等学校 果樹（リンゴ）の摘果、摘花、摘葉 リンゴの袋かけ、文字入れ 野菜の播種と定植、草取り、 野菜の収穫 畜産（鶏、豚、肉牛）の作業体験 鶏卵の採集、選別、箱詰め	総合的な学習の時間 5月21日、6月11日 6月25日、7月9日 9月3日、9月17日 9月24日、10月15日 （計8回、16時間）	1学年 （33名）
自然体験 (野外キャンプ)	新郷村キャンプ場 魚釣り(自然の物を生かした調理の学習) 登山（ロープやひもの結び方等の学習） 牛の乳搾り（農業体験と関連させて）	総合的な学習の時間 8月27日から29日 （2泊3日）	1学年 （33名）

③　学習指導との関連

総合的な学習の時間のテーマ「将来の生き方を考える」の中での活動で、体験は「進路」の学習の一貫として行っている。また、道徳及び教科と関連させながら指導を行っている。特に体験の「生産・農業体験」は教科「社会」での「地理（身近な地域の調査)」の学習活動に生かすことになっている。

2　活動の実際　～　名久井農業高等学校での農業体験　～

名久井農業高等学校において、農業高校の教職員・生徒の協力のもと、「果樹」、「野菜」、「畜

産」の３つのグループに別れ、５月から１０月までの水曜日（計８回）農業体験を実施した。

（１）果樹

①　参加者　１学年　１３名（男９名　女４名）　引率教員１名

②　活動内容

〇割当てられたリンゴの木の世話

〇摘花、摘果、袋かけ、文字や絵のシール作り
シールつけ、外袋はずし、内袋はずし、摘葉、収穫

③　８回の活動をとおして（生徒の感想）

〇初めはそんなに手をかけなくても勝手に育つものだと思っていたけれど、今は手をかけないと大変なことになるんだと思う。すべての生物は姿形が違っても、人間と同じようなところがあるから、大事にしなければいけないと思った。

〇最初のころは、（この木の実を収穫するのが楽しみだ。）と思っていたけれど、次第に（行ったとき、実が落ちていないか。）などと不安な気持ちになった。その分愛情をたくさん注ぐことができた。

（２）野菜

①　参加者　１学年　１１名（男子７名　女子４名）　引率教師１名

②　活動内容

〇スイカとメロンの苗植えや葉切り、草取り、
セロリの定植、大根の草取り、かぶの間引き
ビニールはりと取り、ジャガイモ・サツマイモ掘り
ナスやししとうの収穫、食用菊の収穫と袋詰

〇名久井農業高校の２年生との共同学習

③　８回の活動をとおして（生徒の感想）

〇今までより、作ってくれた人のことを考えて、食べ物を大切にするようになった。

〇体験活動を始めてから、祖父母の畑を手伝うようになった。

〇野菜を栽培している人は、大変だと思った。なぜなら、きちんと世話をしていても、その年の天気によって、少ししか収穫できないかもしれないのに、全国の人たちのために栽培しているからだ。僕もそんな人になりたいと思った。

（３）畜産

①　参加者　１学年　９名（男７名　女２名）　引率教師１名

②　活動内容

〇鶏卵の採集、卵のサイズ分けと箱詰め、えさやり、
鶏舎の清掃

〇豚の体重測定、子豚に薬を飲ませる、
豚舎の消毒・清掃

〇肉牛のブラッシング、牛舎の清掃、えさやり、冬の準備

③　８回の活動をとおして（生徒の感想）

〇動物には興味がなかったが、畜産を体験して、だんだん興味がわいてきた。

〇最初は、動物が臭くて、汚くて嫌だと思っていたけど、

だんだん行くうちに臭くなくなってきて、かわいいいと思うようになった。

〇体験活動を始める前より動物に慣れた。もっと動物を恐れずに触れ合いたい。

（４）事前指導・事後指導について

① 事前指導

全ての活動において、疑問や質問をあらかじめ考えさせ、課題意識を持たせて活動を行った。

② 事後指導

活動ごとにまとめを行い、参観日を利用して報告会を開き、互いの活動や考えを確認させ、今後の学習活動や学校生活及び社会生活に生かすよう指導している。

３ 体験活動の実施体制

（１）校内推進委員会

校長、教頭、教務主任、主担当教員（１名)、各学年主任（３名）

（２）学校支援委員会

校長、教頭、１学年主任、ＰＴＡ会長、地域・保護者

４ 体験活動の評価の工夫と指導の改善

活動の評価として、生徒の体験後の自己評価、体験中の教職員の観察評価などを行った。また、第一回目体験の感想と最終体験の感想からの生徒の変容をとらえることも評価の一つと考え、毎回感想文を記入させた。さらに、発表会を実施し、発表の内容も評価の一つとした。

（１） 生徒の自己評価例（４段階で実施）

「活動に対して意欲的に取り組めたか。」「楽しく活動に取り組めたか。」

「協力して取り組めたか。」「体験後の感想」等

（２）名久井農業高等学校での体験活動（計８回）自己評価結果

項　　目	1（まだまだ）	2	3	4（満足）
活動に対して意欲的に取り組めたか。	０人	０人	５人	２８人
楽しく活動に取り組めたか。	０人	０人	４人	２９人

５ 活動の成果と課題

（１）活動の成果

① 生産体験（農業体験）をとおして、自分たちの住む地域を意識して見るようになり、郷土の良さを再確認することができた。また、郷土に対して愛着を示すようになった。

② 体験をとおして、農作物は天候に左右されることを体験し、食べ物を大切に扱おうとする姿勢が見られるようになった。また、苦手意識を持っていた生徒が、動物に抵抗なく接するようになり、進んで活動するようになった。さらに、動植物に対していとおしむ心が育った。

③ 自然体験（キャンプ）をとおして、自然の中で、自分たちの生活環境を自分たちで作り、改善していく喜びを知ったとともに、多少の困難に対してくじけず、前向きに取り組もうという意欲が育ってきた。

（２）今後の課題

① 体験をとおして高められた意欲を、今後の活動にいかに生かしていくかを検討し、次の体験活動へとつなげていく必要がある。

② 具体的・計画的な評価方法をさらに工夫し、指導改善に役立てる必要がある。

【中学校・交流に関わる体験活動】

小中連携の活動を通した自己有用感を育てる体験活動
兵庫県神戸市立向洋中学校

学　校　の　概　要

① 学校規模
- ○ 学級数：１４学級(内障害児学級１学級)
- ○ 生徒数：４６６人
- ○ 教職員数：２８人
- ○ 活動の対象学年：第２学年・１５０人

② 体験活動の観点などから見た学校環境
- ○ 本校は、神戸市が開発した人工島六甲アイランドを校区とする。地域の人々はコンパクトタウン化を目指して街作りを進めており、島内で生活が完結できる。従って、生徒が島外の人々と交流する場面が少ない。また、人工島であることから自然とのふれあいが少ない。
- ○ 外国人の居住が多く、外国人だけの住む住居棟や外国人をサポートする商店、外国人学校もある。また、生徒も英語実用検定に多数受験し資格を得ている。
- ○ 学校に対する支援や児童・生徒の育成に対して地域は熱心である。トライやる・ウィークの受け入れ先でも、島内だけで 55 カ所の事業所に加え、３名の指導ボランティアの方の協力があった。

③ 連絡先

○〒６５８－００３２
神戸市東灘区向洋町中２丁目
○電　話：０７８－８５７－２４８１
○ＦＡＸ：０７８－８５７－２４８２
○ホームページ：
http//:www.kobe-c.ed.jp/koy-ms/

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい
- ○ 体験活動を通して、自己有用感や自尊感情を育てる。
- ○ 異文化への理解と日本との同質性の発見、日本の良さの再発見を通して、21 世紀に生きる国際人と資質を磨く。
- ○ 色々な人々との交流を通して、コミュニケーション能力を育てる。
- ○ 人や社会に奉仕する心を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
（単位時間数、日数）
- ○ 帰国生徒を迎えた交流会
（総合的な学習の時間４時間）
- ○ 外国人研修生との交流会
（総合的な学習の時間６時間）
- ○ ＪＩＣＡのＯＢ・ＯＧとの交流会
（総合的な学習の時間６時間）
- ○ 小学生児童との交流・英語ゲストティーチャー
（総合的な学習の時間４時間）
- ○ アイマスク体験と講演会
（総合的な学習の時間６時間）
- ○ 校区内清掃活動
（総合的な学習の時間４時間）
- ○ 校区を紹介する
（総合的な学習の時間４時間）
- ○ 三土中学校との交流
（学校行事５時間、授業１時間、総合的な学習の時間２時間）

１　活動に関する学校の全体計画

（１）活動のねらい

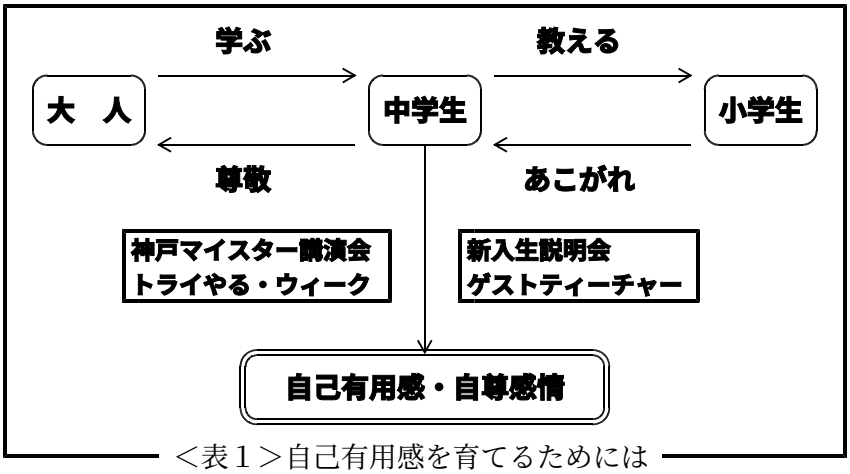
昨年度の本校での活動は、これまでの本校教育活動の中にあった様々な体験活動を、新教育課程に位置付けることから始まった。従って、昨年度は多様な体験活動が混在し、系統立てることなく実施することとなった。また、本校と小学校・高等学校との連携も、年度当初に打ち合わせができなかったため、時間的な制約などから十分に行うことができなかった。

このような反省から、本年度は、①各学期に核となる体験活動を一つずつ行う（特に本校の環境から２～３学期の国際理解単元に重きを置く。）、②小学校、高等学校との交流活動を年度当初に決めておく、③関係諸機関との打ち合わせを十分行うことなどを課題としてまとめた。そうして、第１学年３学期の活動を引き続く形で、生徒の自己有用感と自尊感情が育つ体験活動を行うこととした。（表１参照）

※　自己有用感とは、自分がこの集団の中で役に立っている、この集団に必要な人間であるという実感のことである。これを持つ時、人間のモチベーション、意欲が高まると言われている。この自己有用感を持つ生徒は、プラス思考であり何事にも積極的に参加し活動する。神戸市校長会編『変容する子どもたち』1)の中では、自己有用感、安定感、充実感の３つを「生き甲斐の３つの視点」としてまとめている。

さらに小学校や高等学校などの異校種間の交流、特に小学校との交流活動を行うことで、小中連携の課題について研究を進めることとした。特に、本年度、神戸市では、「アクティブプラン」)の中で「まっすぐ育て９年プラン」を策定することを定めている。本校では、本事業の交流活動の中で、問題点を探ろうとした。なお、そのプランの必要性については、以下のように述べられている。

「まっすぐ育て９年プラン」を策定し、児童生徒の健全育成をさらに進める。・・・小学校から義務教育の９年間を通じて規範意識や倫理観の育成を図っている。中学校２年生で急に規範意識の変容がみられるが、その素地は小学校期に形成される。・・・小学校と中学校が生徒指導の面で連携・協力していくことが大切であり、従来の情報交換から一歩進んで行動連携を図っていく。



＜表１＞自己有用感を育てるためには

（２）全体の指導計画

本年度第２学年で実施する体験活動を以下の＜表２＞にあげる。

	月	活動名称	時	活動内容、教育課程上の位置付け
1	4 ～ 7	トライやる・ウィーク	65	兵庫県全県で第２学年で１週間にわたり体験活動をおこなう。本校では 60 カ所の事業所ボランティアの方の協力で実施した。） ［総合的な学習の時間、特別活動、道徳］
	7 9	美しいまち・人・学校 **校区清掃活動**	4	校区内を全校生で分担し、保護者も参加して清掃活動。２学期は、小学校との合同作業も計画。　［総合的な学習の時間］
2	9	体育会 社会福祉施設との交流	2	デイケア施設のお年寄りを招待。付き添いやお世話は、六甲アイランド高校生徒。接待の係生徒を中心に、校内では高校生と協力してお世話をする。　［特別活動／学校行事］
	10 ～ 11	三土中学校との交流 **校区を紹介する** **文化祭** **授業公開ウィーク**	 4 5 3	本校と交流をしている佐用郡南光町にある三土中学校)との交流。文化祭及び授業公開ウィークにおける本校での交流。地域を紹介するレポートを作成し、三土中学校に送付。（これは英語版を製作する予定）　［特別活動／学校行事、総合的な学習の時間］
	10	文化祭展示	7	校歌額の作製　［総合的な学習の時間］
	11	人権旬間 **アイマスク体験・講演会**	7	ねらい：アイマスク体験（福祉体験）をすることで、人権に関する意識を高める。本校では、11 月に全学年で人権旬間として人権について考える時間を設けている。 ［総合的な学習の時間、特別活動、道徳］
	12	外国を知ろう **ＪＩＣＡのＯＢ・ＯＧによる講演会**	8	ねらい：外国事情の把握。外国で活躍する日本人を知る。ＪＩＣＡと連携して講演会を実施する。なお、国際理解単元の導入として道徳教材を利用する。また、社会科夏休みの課題として自分の興味ある国を調べる。　［総合的な学習の時間、道徳、社会］
	12	外国語を教えよう **小学校児童との交流** **総合英語での活動**	7	小学校総合の時間に、生徒が小集団でゲストティーチャーとして活動する。２つの小学校で実施。事前事後指導は英語科の時間におこなう。　［総合的な学習の時間、英語］
3	1	市民救命士講習会	4	１時間がビデオ、２時間が実習で心肺蘇生の実技を学習する。応急手当普及員が講師となる。　［総合的な学習の時間、道徳］
	2	外国を知ろうパート２ **外国人研修生との交流**	10	発展途上国から日本にきている研修生の方との交流。 交流を通して外国を知る。事前指導として、当該国の国調べを社会の時間におこなう。また、最後に外国の方とどのように交流するかを考える時間をもうける。　［総合的な学習の時間、社会］
	2	**新入生説明会**	7	新入生を迎えて、生活・学習について小学校６年生に説明をする。 ［総合的な学習の時間］

＜表２＞本年度第２学年の体験活動一覧　　太字が本事業の活動。時数は事前事後活動を含む。

２　活動の実際

＜表１＞であげたように、本校の活動は４つの大きな活動を２年間にわたっておこなう中で、当初のねらいを達成しようとしている。そこで、ここでは、昨年度実施した新入生説明会の活動と本年度実施した小学校生徒との交流を述べることとする。

（1）新入生説明会の活動

① 事前指導

事前・事後指導を含む全体の流れを右の＜表３＞に示した。このほか、班長のみの班長指導を行っている。

② 活動の展開

当日は、２小学校の６年生徒を 12 班ずつに分けて説明をした。本校生徒は 24 班に分かれて小集団で説明するようにした。当日は、14 教室を利用した。説明内容については、事前に担任教師がチェックをした。いろいろなパフォーマンスも認めた。そこで、標準服を見せたり、教科書を回覧したりする班もあった＜図１参照＞。教師は生徒の主体性を大切にしながら、側面から支援した。

事後指導で小学生にアンケートをとるという活動を事前に知らせていたので、中学生の方が緊張した面持ちであった。小学生は、当初緊張していたが、だんだんリラックスして説明を聞いていた。

③ 事後指導

事後に、小学校生徒へのアンケートを実施し､その集計をもとに自己評価をさせた。

＜表３＞ 新入生説明会 単元の流れ

時	日時	［ テ ー マ ］ ね ら い
	1/22 集会	[活動のねらい] １．活動のねらいについて、説明を聞き、全体の流れを確認できる。
1	1/24 総合	[発表の分担] １．発表の内容を大まかに決めることができる。 ２．班員で、役割を分担することができる。 ３．発表の原稿を作成することができる。
2		[原稿作り] １．わかりやすさを考えて発表の原稿を作成することができる。
	2/5 集会	[全体注意] １．全体の流れについて再確認することができる。 ２．会場準備の要領について確認できる。
3	2/5	[会場準備] １．班員で協力して会場を準備することができる。
3 ・ 4	2/5 2/6	[事前練習] １．班員で協力して、発表の事前練習ができる。 ２．練習の反省から、発表内容を練り直すことができる。
5	2/6	[新入生説明会] １．班員で協力して、新入生に向洋中学校の生活・学習について説明できる。
6	2/7	[ふり返り] １．活動内容についてふり返りをして、自己評価をすることができる。 ２．ワークシートをまとめることができる。

（2）外国語を教えよう－小学校総合でのゲストティーチャーでの活動

① 事前指導

英語の時間に３時間実施。10 月の考査時に、活動の趣旨を伝えやりたい活動をあげさせていた。その後、英語によるゲームを各班ごとに企画し練習する。

② 活動の展開

当日は、２小学校の４年生徒を対象に交流活動を行う。今回は、中学生が小学校に出向いて活動する。新入生説明会同様小集団に別れて活動する。小学校は、総合的な学習の時間を充当する。

③ 事後指導

国際理解単元の最初の部分に当たる活動である。国際理解単元終了後、まとめて評価をする。

＜図１＞ 新入生説明会の様子

３ 体験活動の実施体制

（1）学校支援委員会の体制

本校では、学校支援委員会として、これまであった「トライやる・ウィーク推進委員会」を基礎に組織している。メンバーは、校長、教頭、地域振興会代表、自治会代表、婦人会代表、青少年育成協議会代表、児童館館長、２小学校校長、高等学校長、ＰＴＡ代表、３校担当者である。すでに、トライやる・ウィークの活動の中で、地域の人々の意向を十分にくみ上げる組織として機能している組織を拡大した。本年度は、校区内の外国人の方について紹介をして頂いたりして、側面からの支援をいただいている。また、校内には豊かな体験活動推進委員会を組織し、月１回定例的に会議を持っている。

４ 体験活動の評価の工夫と指導の改善

前記の２つの体験活動では、ポートフォリオ評価を行った。活動終了後に評価表を書かせた。体験活動全体の評価は、年度末の総合的な学習の時間の評価活動の中で行うことにしている。

５　体験活動の成果と課題

昨年度の新入生説明会などの活動を通して見られた体験活動の成果と課題は以下の通りである。

○成果　①小学生の不安を取り除き中学生活に希望を持たせることができたこと。
②中学生に自己有用感、自尊感情を育てることができたこと。
③神戸マイスター講演会やトライやる・ウィークの活動を通して、大人への尊敬とあこがれを持つ生徒が増えたこと。
④小学校と中学校の教師間での連絡が密になったこと。また、ＪＩＣＡなどの関係諸機関との連携が、これまで以上にとれるようになったこと

○課題　①小中で活動のねらいが異なること。従って、ねらいをお互いに明確にする必要があること。
②中学校は各小学校で、同時期に同様の内容で活動を行う必要があること。
③教育課程や時程のちがいから日程の決定が難しいこと。
④交流の意義の再確認をする必要があること。

＜表５＞にあげたように、中学生の自己評価は大変厳しい。これは、これまでの各種活動での自己評価で共通してみられる傾向であり、そのままの数値だけで計ることはできない。現に記述部分では、「小学生の人全員を中学生になる希望を持てるようにしないといけなかったと思う」というように、全員を満足させられなければ活動が失敗であると考えていることがわかる。さらに、「今まで一番下の学年で、教えるんじゃなくて教えられる方が多かったので、やっぱり緊張したけど、そういうものになれておかないと、４月から困るなあと思った。あと、先輩ってこんなのかと、少しつかめた気がした」、「今度入学してくる新入生に、先輩としてふさわしい態度で親切にしてあげたいと思う。先輩という自覚を持って行動したい」という記述も見られた。このことから、生徒たちに「自分が学校の代表として、先輩として接している」という感覚が生まれていることがわかる。

また､小学生も＜表４＞にあげたように、大多数の児童が肯定的な評価を下している。記述部分では「とてもやさしく、わかりやすかったです｡いい先輩たちだと思い、中学校に早く行きたくなりました。ありがとうございました」や「最初は不安でしたが中学生の人たちが楽しそうにしていたので、不安がなくなりました。説明ありがとうございました」という記述が多くあった。このことから、小学生にも肯定的な感覚をよび起こした活動であったことがわかる。

評　価　項　目	◎	○	△	×
中学校の生活やようすがわかったか	23.4	73.0	3.6	0.0
中学生の説明はどうだったか	29.2	55.5	15.3	0.0
説明の声はどうだったか	34.3	49.6	16.1	0.0
中学生の態度はていねいだったか	35.0	56.9	8.0	0.0
中学生になる希望を持てたか	29.2	58.4	10.9	1.5

＜表４＞　小学生による評価

さらに、評価で留意すべきは、２年間の活動の中で個々の生徒が如何に変容したかを見ていくことが必要だという点である。この点では、新入生説明会、神戸マイスター講演会、トライやる・ウィーク（特に事後発表会)、小学校でのゲストティーチャー活動で、発表する力やコミュニケーション能力が養われてきている。

自　己　評　価　項　目	4	3	2	1
活動を始める前にこの活動に大変興味関心を持っていた	15.4	48.5	33.1	2.9
活動のねらいがよくわかりそれに従って毎時間活動できた	8.1	56.6	34.6	0.7
班員で役割分担ができた	53.7	34.3	10.4	1.5
自分の役割分担を確実にやり遂げた	34.8	48.1	15.6	1.5
原稿をしっかり書くことができた	22.2	50.4	23.0	4.4
中学校の生活と学習について小学生に伝えることができた	15.8	59.4	21.1	3.8
大きな声ではきはきと発表できた	19.4	41.0	37.3	2.2
小学生の立場に立って行動ができた	4.5	44.0	47.8	3.7
上級生らしい活動ができた	8.2	55.2	35.1	1.5

表中の項目
４：大変よくできた
３：よくできた
２：あまりできなかった
１：できなかった

＜表５＞　中学生による自己評価

参考文献

１）神戸市立中学校校長会編『変容する子どもたち』2003　みるめ書房　ISBN4-901324-10-1
２）神戸市教育委員会「平成１５年度　特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」2003
３）トライやる・ウィークについては、兵庫県教育委員会「地域に学ぶ中学生・体験活動週間　トライやる・ウィーク指導の手引き　Ｈ１５」参照。また、神戸市内の中学校の活動については、伊藤博「兵庫県の「トライやる・ウィーク」に学ぶ地域教育プランとしての総合的な学習」（今谷順重編『総合的な学習で人生設計能力を育てる』2000　ミネルヴァ書房　ISBN4-623-03235-3 所収）に詳しい。本校の活動については文集を製作している。
４）佐用郡南光町宍粟郡山崎町三土中学校事務組合立三土中学校「宍粟郡へき地教育研究発表会研究紀要」2002

【 中学校・勤労生産，福祉，職場に関わる体験活動 】

地域を知ろう（地域に学び,地域と自分を考える）
― 職場等に関わる体験を通して ―
徳島県小松島市立江中学校

① 学校規模
- ○ 学級数：５学級
- ○ 生徒数：１３３人
- ○ 教職員数：１８人
- ○ 対象学年：全学年

② 体験活動の観点からみた学校環境
- ○ 立江町は古くから四国八十八ヵ所札所立江寺の門前町であり，また喜田博士を始めとして多数篤学の先輩を生んだ学問の町でもある。校区は立江町，櫛淵町から通学している。保護者の職業も農業中心から給与所得者が増加している。
- ○ 校区の西部は山に囲まれ，東部は田園地帯の地域性からか，子どもたちは全体としておとなしく， 真面目である。しかし主体性に乏しく，行動力に欠ける一面がある。そこで、いろいろな取り組みを通して，子どもたちの意欲と行動力，または，国際化や高度科学技術に対応できる積極的な子ども，少子高齢化やグローバル化などに対応できる子どもの育成のため，本校教育目標実現に向け，現在取り組んでいるところである。
- ○ １９番札所立江寺も職場体験に理解を示してくださる事業所の一つである。
  また、櫛淵町の椎茸栽培（椎茸組合）は、校区内の特色ある産業である。

③ 連絡先
- ○ 〒７７３－００１７
  徳島県小松島市立江町字鍋寺３６番地
- ○ 電　話：０８８５３－７－１０５５
- ○ ＦＡＸ：０８８５３－７－３３４４
- ○ 電子メール：tatsuejhs@tk3.nmt.ne.jp

① 活動のねらい
- ○ 生徒は地域で“育ち・生き・成長”し，地域の一員としての役割をも果たさなくてはならない。そこで，地域のことを知る１つの手段として，地域でどのような職場があり，どのような産業が盛んか体験活動を通して知らせたい。また，その中で，どのように行動し，他者と関わっていけばよいかを考える絶好の機会である。
- ○ 協力して作業したり，活動したりすることによって体得した労働の厳しさやすばらしさを知り，職業選択を考えるきっかけになってほしい。
- ○ 地域にはどのような職業があるかを知り，保護者の働く姿をみて働くことの厳しさ，意義を知る。
- ○ 共に生きるためにお互いの立場を理解し，尊重しようとする態度を身につける。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

１年 勤労体験活動（２４単位時間・４日）
古代米収穫体験（１２単位時間・２日）
自然体験遠足（６単位時間・１日）

２年 福祉体験活動（２４単位時間・４日）
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ・車いす体験（１２単位時間・２日）
自然体験遠足（６単位時間・１日）

３年 職場体験活動（２４単位時間・４日）
植樹（手入れ）（１２単位時間・２日）
自然体験遠足（６単位時間・１日）

※ 全学年実施の豊かな体験活動は，総合的な学習の時間に位置付けている。

1　活動に関する学校の全体計画

（1）これまでの取り組み（平成１０年度～１４年度）・活動のねらい

<table>
<tr><td></td><td>活動のねらい</td><td>1　年</td><td>2 年</td><td>3 年</td></tr>
<tr><td>平成
１０年度</td><td>特色ある学校
をめざして</td><td>社会見学
県庁
四国放送</td><td>職場体験活動
２月　事業所（４）
（１日間）
学校が確保</td><td>大谷焼「実習」
鳴門「うずしお」
観潮船に乗船</td></tr>
<tr><td>平成
１１年度</td><td rowspan="3">チャレンジ
トゥゲザ
推進事業
スタート
（３年間）
県単事業
↓

地域の方々の支援を，子ども一人ひとりの興味関心に基づく体験活動を通して，様々な事を学び，心を耕し「生きる力」の育成。</td><td>社会見学
県庁
四国放送
社会見学
お菓子工場
「社会福祉法人
春そう園」</td><td>職場体験活動
11/1~11/4　事業所（２６）
（３日間）
学校・推進委員会が
受け入れ事業所確保
１事業所・・２人以上</td><td>職場体験活動
11/1~11/4
（３日間）</td></tr>
<tr><td>平成
１２年度</td><td></td><td>職場体験活動
8/22~8/24　事業所（４２）
（３日間）
生徒自らが行きたいと思う事業所を
保護者の協力を得ながら見つける
１事業所　・・・１人以上
事業所さがし・・約１ヶ月間</td><td>職場体験活動
8/22~8/24
（３日間）</td></tr>
<tr><td>平成
１３年度</td><td></td><td>職場体験活動
7/9~7/11（３日間）
職場体験の基本体制確立</td><td>職場体験活動
7/9~7/11（３日間）</td></tr>
<tr><td>平成
１４年度
（１年次）</td><td>豊かな体験活動
推進事業
スタート
（２年間）
↓</td><td>職場体験活動
10/8~10/11（４日間）</td><td>職場体験活動
10/8~10/11（４日間）</td><td>職場体験活動
10/8~10/11（４日間）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="3">自 然 に 関 わ る　体 験 活 動（２日間）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="3">大神子海岸での「飯ごう炊飯」・海岸清掃活動（１日間）</td></tr>
</table>

（２）全体の指導計画

○ 全体の指導計画「総合的な学習の時間」における「豊かな体験活動」の位置付け・・改善点

総合的な学習の時間の目標	・自らが課題を見つけ，学び，考え，判断し，主体的に行動できる。 ・自己の生き方を考え，豊かな人間性を身につける。
豊かな体験活動 昨年度の課題と本年度の改善点（ねらい）	・昨年度，全学年が職場体験にチャレンジしたが，１年生で職場体験の目的の確認や事業所選びができず，期限ぎりぎりに母校の保育所・幼稚園・小学校を選ぶ者が目立った。そこで１年生は本年度学校や周辺での勤労体験活動に変更した。 ・昨年度，活動内容（事業所）においてボランティアなど社会福祉に関わる体験活動が少なかった。そこで，社会福祉体験活動に少しでも多くの生徒が興味・関心を持って取り組めるように，２年生は福祉体験活動に限ってみた。 ・職場体験活動から得られた生徒の学びや気づきを，学校や家庭での生活の中でどのように具現化し定着させていくか，そのための筋道を確立していきたい。
総授業時数	１年（８５　時間）　２年（７０　時間）　３年（１１５　時間）

各学年の計画

第１学年

テーマ等：地域を知ろう

- 校庭の設計をしよう（13時間）
  - ・校庭の現状を観察
  - ・新しい校庭のｱｲﾃﾞｨｱｽｹｯﾁをしよう
  - ・発表会
  - ・設計図を書こう
- 勤労体験をしよう（50時間）　9/9 ～ 9/12（４日間）
  - ・地域の産業について
  - ・農業生産について
  - ・花壇　葉ぼたん
  - ・報告会とお礼
- 古代米収穫
- 自然体験遠足（飯ごう炊飯）（8時間）（１日間）　11/26
- 理科「植物のなかま」（２日間）
- 社会・道徳「私たちの郷土」

第２学年

テーマ等：住みやすい地域をつくろう

- 住みやすい町を つくろう（10時間）
  - ・バリアフリー（東京修学旅行）
  - ・車いす体験
- 福祉体験をしよう（52時間）　9/9 ～ 9/12（４日間）
  - ・体験場所を決める
  - ・福祉体験
  - ・報告会とお礼
- （２日間）
- 自然体験遠足（飯ごう炊飯）（8時間）（１日間）　11/26
- 道徳・理科「環境」
- 特別活動・道徳「福祉について考えよう」

第３学年

テーマ等：地域を発展させよう

- 地域を知ろう（57時間）
  - ・立江川を調べる
  - ・よごれている原因を調べる
  - ・立江川の美化活動
- 職場体験をしよう（50時間）　9/9 ～ 9/12（４日間）
  - ・各自・グループで依頼に出向く
  - ・職場体験
  - ・報告会とお礼
- （２日間）
- 植樹（手入れ）Ｈ１４～
- 自然体験遠足（飯ごう炊飯）（8時間）（１日間）　11/26
- 理科・社会「自然と環境」
- 特別活動・道徳「進路について」

特色ある取組例	・地域の農家で農業体験をする。（古代米）・・・・・・・・・・・・・・１年生 ・東京修学旅行で「バリアフリー」のテーマで各班調査する。・・・・２年生 ・生徒が自主的に，体験したい場所を探し，体験場所を決定する。・・３年生

2　活動の実際

（1）事前指導・活動の展開・事後指導　　実施計画（3年生職場体験の場合）

学　習　過　程	学　　習　　内　　容	時間
問題意識を持つ	自分を正しく理解する　　1学期	4
課題の設定	職業・福祉について調査する　　1学期	3
職場・福祉体験の準備	目的の確認，挨拶の仕方を習得する　　1学期	3
受け入れ事業所の決定	事業所を訪問（下見）し決定する　　（夏休み中）	8
職場・福祉体験（4日間 ）	進路体験を通して生き方を学ぶ　　(9/9~9/12)	24
成果のまとめ	感想・成果・反省・礼状を書く　　(9/16・17・18)	4
発表会	事業所の方々を招き報告会を開く　　(9/20)	4

3　体験活動の実施体制　　５０時間

（1）学校支援委員会の体制

市議会議員　校区内公民館長（2名），校区内商工会長，ＰＴＡ代表者（3名） 学校教職員

- 職場体験のよき理解者や新たな職場体験活動の場の開拓者になっていただく。
- 活動内容・方法の検討などの指導助言をいただく。
- 事業所への挨拶まわりをしていただく。
- 職場体験活動の発表会に参加していただき，生徒への感想・意見等をお願いする。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善

個人のファイルをつくり，配布したプリントや感想等をつづっている。1つの体験活動ごとに5つの観点（1積極性・2協調性・3工夫・4集中力・5発見）で自己評価し，保護者の評価，担当教師の評価をもらうようにしている。（ポートフォリオ）

5　活動の成果と課題

体験活動により，一人ひとりの生徒がよりよく生きることを考え，自分を見つめ，自己を理解し，将来への展望を持とうとする姿勢が培われたと思う。この体験活動で得た成果を生徒の心に深め，広げ，つなげていかなくてはならない。そのためには，生徒一人ひとりを見つめた事後指導が大切である。体験活動が単なるイベントに終わるのではなく，生徒にとって，本当に必要なことは何かをこれからも問い続けなければならない。

本年度は1年生－勤労体験・2年生－福祉体験・3年生－職場体験と各学年異なる体験活動を実施した。特に時期について考えてみると，1学期から事前指導に入り，夏休み中にじっくりと考えて事業所を訪問し決定した。2学期初旬体験活動実施，体験活動終了1週間後に発表会を開いた。本年度は事業所選びは，学校支援委員さんに頼ることなく決定できた。時期に ついてはいろいろなパターンを試してきたが今までの中で今回の時期が適していると考えられる。

6年目を迎えた職場体験活動であるが，校区内での受け入れ事業所の拡大，地域・保護者・事業所・学校との協力体制の強化など，今後更に検討していきたい。これからの，不透明で厳しい時代社会を生きなければならない中学生にとって，知識理解だけでなく，ものの見方，考え方，そして生き方を追求する力，学び方などをどう「総合的な学習の時間」の中で効果的に身につけさせることができるか研修していきたい。

【中学校・社会奉仕，就業に関わる体験活動】

「　２１世紀のまちづくり　」をめざした体験活動

長崎県平戸市立南部中学校

学　校　の　概　要

① 学校規模
- ○ 学級数：７学級（内特殊学級１学級）
- ○ 生徒数：１７３
- ○ 教職員数：１７人
- ○ 活動の対象学年：全学年

② 体験活動の観点からみた学校環境
- ○ 平戸市は，人口約２万４千人，長崎県北部に位置し，平戸大橋で本土と結ばれた島である。修学旅行生など年間１００万人以上の観光客が訪れ，歴史とロマンの島として，観光産業を中心に漁業・農業なども盛んで自然豊かな町である。
- ○ 学校は，その名の通り，平戸市の南部に位置し，校区は分校を含む５つの小学校区からなる。学校のすぐ側には，川が流れており，そこから海が広がっている。周囲には山もそびえ，緑豊かな自然に囲まれた環境の中で，生徒は「長崎県一のあいさつ校」を目指し，生徒会を中心にあいさつ運動などに積極的に取り組んでいる。
- ○ 南部地区から市の中心部まで，車による移動で３０分以上はかかる。高校卒業後は市外や県外へと出て行く者が多く，市全体としても高齢化が進んでいる。これからの平戸市を考えるとき，地元での雇用問題をはじめ，高齢者問題など，様々な課題がある。

③ 連絡先
- ○ 〒８５９－５５１２
  平戸市津吉町２４１番地
- ○ 電　話：０９５０－２７－００２９
- ○ ＦＡＸ：０９５０－２７－００３３
- ○ 電子メール：
  nancyu@educet. plala. or. jp

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい

《 体験活動のねらい 》
- ○ 郷土の自然や社会とのふれあい，様々な体験活動を通して主体的に課題解決する能力や態度の育成を図る。

《 総合的な学習のねらい 》
- ○ 様々な体験活動を通して課題を解決する能力や態度を養う。
- ○ 郷土の自然や社会とのふれあいを通して，他者を思いやり感謝する心や進んで奉仕する態度を育成する。
- ○ お互いの個性を認め合い，共によりよく生きていこうとする心情・姿勢を育成する。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
- ○ １年生：ボランティア体験
  「環境」をテーマとした奉仕活動
  （ 総合的な学習の時間　３５時間 ）
- ○ ２年生：職場体験
  （ 総合的な学習の時間　３５時間 ）
- ○ ３年生：ボランティア体験
  「福祉」をテーマとした奉仕活動
  （ 総合的な学習の時間　３５時間 ）

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

本年度は，昨年度行った「豊かな体験活動推進事業」における取組を「総合的な学習の時間（本校ではＮＣＴと名称づけている）」として完全実施することになった。そのため，活動のねらいは，１４年度に設定したものを，１５年度の総合的な学習のねらいに組み込む形となった。

《平成１５年度　総合的な学習のねらい》

○　様々な体験活動を通して課題を解決する能力や態度を養う。

○　郷土の自然や社会とのふれあいを通して，他者を思いやり感謝する心や　進んで奉仕する態度を育成する。

○　お互いの個性を認め合い，共によりよく生きていこうとする心情・姿勢を育成する。

（2）全体の指導計画

①　活動の名称

（　総合学習のテーマ　）

『　２１世紀のまちづくり　』

（　各学年のテーマとねらい　）

１　　年	２　　年	３　　年
ふるさとを知る ～とりまく環境を通じて～	ふるさとの産業を知る ～職場体験を通して～	ふるさとの未来を考える ～ボランティア活動を 進めていく中で～
○生まれ育った郷土の現状（環境）を知り，郷土を愛する心を育てる。 ○体験活動を通じて，よりよい環境の創造のため，主体的に取り組む心を育てる。	○生まれ育った郷土の現状（産業）を知り，ふるさとに貢献する心を育てる。 ○職場体験や修学旅行など社会の実際を知ることにより，地域や社会との関わりについて考えを深め，よりよく生きていこうとする態度を育てる。	○ふるさとの人々との交流を図り，将来にわたる「共生」についての感性を磨いていく。 ○ボランティア活動を通して，奉仕の精神や思いやりの心を育てる。
○学び方の基礎を培い，自ら課題を見つけ，解決していく力を育てる。 ○協力して研究を進めることで，個性を出し合い，共に学び合う態度を育てる。		

②　実施学年

全学年（　第1学年：５５人，第2学年：５２人，，第3学年：６６人　）

③　活動内容　　※（　）総合的な学習の時間数

学年	体験活動の種類・内容	単　位 時間数	教育課程上の位置付け
1年	ボランティア体験 （環境美化・浄化活動）	３５ (70)	総合的な学習の時間
2年	職場体験	３５ (100)	総合的な学習の時間
3年	ボランティア体験（福祉体験）	３５ (100)	総合的な学習の時間

2　活動の実際

○ 事前指導，活動の展開，事後指導

（　第２学年　指導計画　）

学期	月	過程	学習活動の流れ	教師の支援・指導上の留意点
1学期	4月（4）	ふれる	○ オリエンテーション（1時間） ○ テーマとまとめの形態について（1時間） ○ 問題提起「私たちの住む南部地区に未来はあるのか～10年後の南部地区と私～」（2時間）	○ 学習が生徒自身の自主的な学習であることを理解させ，ＮＣＴのねらい（めざす力）を確認させる。 ○ ３年間の系統性をふまえ，２年生のテーマとその位置づけを確認できるようにする。また，発表の仕方をふくめ，まとめの形態についてもあらかじめ例を提示して参考にさせる。
	5月（11）	つかむ	○ 班編成（1時間） ○ 職業調べ〔リストアップ〕（4時間） ○ 小集団編成（2時間） ○ 活動計画立案・作成（2時間） ○ 事前学習・準備（2時間）	○ 学級ごとに5，６人の班を編成する。 ○ ブレーンストーミングの手法を使って，思いつくままできるだけ多く調べる。 ○ 小集団編成に関して，お互いのことを考えて，みんなが気持ちよく学習･活動できるよう事前指導を行う。 ○ 自ら活動計画を立てることで，研究の見通しを立てさせる。※研究仮説を立てさせる。
	6月（12）	行動する	○ 体験依頼・事前打合せ（2時間） ○ 第1回　職場体験(職場見学)～見てみよう～ 第1日（6時間） 第2日（4時間）	○ 事前に南部地区（各事業所）には案内を配布し，活動への理解を求める。 ○ 第1回のしおりは，教師の方で原稿を準備する ○ 活動の様子を写真やビデオに記録しておく。
	7月（9）		○ 礼状作成（下書き・清書）・持参（4時間） ○ 職場体験の反省〔自己評価〕（2時間） ○ 工場見学　事前学習・準備（3時間） ※夏休みの課題：職場訪問・取材	○手紙の書き方等も指導する。 ○第２回目につなげるように評価項目等を設定する。
2学期	9月（10）	ふかめる	○ 工場見学　事前学習・準備　（4時間） (修学旅行) ○ 工場見学のまとめ（6時間）	○ 事前に工場で何をみてくるのか，その視点を明らかにさせる。 ○ 見学前と見学後の違いなどをまとめる。
	10月（14）		○ 中間発表　準備（6時間） (文化祭) ○ 職場体験希望調査・職場決定（2時間） ○ 職場体験準備〔しおり作成〕（4時間） ※小集団は第１回に同じ ○ 体験依頼・事前打合せ（2時間）	○ 第１回職場体験や修学旅行の工場見学についてまとめ，分析を含めた中間発表となるように指導する。 ○ しおり作成のために実行委員等を組織する。 ○ 生徒自身が事業所と連絡をとり，職場体験の依頼を行い，承諾をもらうことができるよう支援する。
	11月（18）	活かす	○ 第2回　職場体験～やってみよう～ 第1日（6時間） 第2日（6時間） 第3日（6時間）	○ 活動の様子を写真やビデオに記録しておく。
	12月（9）	まとめる	○ 礼状作成（下書き・清書）・持参（4時間） ○ 職場体験の反省〔自己評価〕（2時間） ○ 職場体験のまとめ〔実践報告作成〕（3時間）	○ 感謝の気持ちを込めて，丁寧に書かせる。また，次年度へつなげていくことを意識させる。 ○ 各班で原稿を作成し，冊子にまとめさせる。冊子は各事業所へも生徒により配布させる。 ○ ビデオを鑑賞することにより，それぞれの活動の様子を振り返ることができるようにする。
3学期	1月（5）		○ ＮＣＴのまとめ（5時間）	○仮説の検証を行い，研究のまとめをするように指導する。
	2月（6）		○ 発表会準備（4時間） ○ ＮＣＴ発表会（2時間）	○ 班ごとに発表の形態を選択し，まとめたことを発表する。 ○ 職場体験でお世話になった事業所の方へも発表会の案内を生徒により作成・配布させる。
	3月（2）		○ １年間の反省（2時間）	
	合計		１００時間	

3　体験活動の実施体制

（1）学校支援委員会の体制

昨年度，はじめて取り組んだ職場体験学習を実施するにあたっては，事業所の確保が大きな課題であった。他に，ボランティア体験に関しても，地域の福祉施設等の協力を得るため，学校支援委員会を設立し，支援体制を整備した。その構成は，地区から農協，漁協，郵便局，商店街共同組合，ＰＴＡ，地区長の各代表，そして，学校から校長，教頭，教務主任，研究主任，事務職員の計１２名である。

また，職場体験の事業所確保については，公民館を通じて地域の全世帯へ取組の案内と協力依頼を行い，学校においては生徒を通じて，保護者へ事業所紹介の協力を依頼した。その結果，昨年度は２３事業所の協力を経て，職場見学や職場体験を実施した。

（2）配慮事項等

職場体験の実施にあたっては，生徒の安全面はもちろん職場における事故等に備え，体験期間中は損害保険へ加入した。また，合わせて各事業所や保護者へは，万一の場合，学校の教育課程行事として「独立行政法人日本スポーツ振興センター」適用の対象になることも案内の中に明記した。損害保険の諸経費については，本事業の予算の中に必須項目として計上した。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善

○　活動の成果をまとめるにあたって，様々な体験活動を具体的にどのような方法で評価するかが大きな課題であった。昨年度は，活動を計画し，実践することに終始した感が強い。そのため，生徒・職員による自己評価及び生徒へのアンケートによる意識調査等，限られた資料をもとにした評価・考察となった。

本年度は，総合的な学習の評価とも関連づけ，体験終了後の感想やまとめ・自己評価以外に，総合的な学習で身につけさせたい力をもとに教師側で項目を設定し，実際の活動において観察法による評価にも心がけた。

○　昨年度は，教師の方で計画したものを生徒が実践するという傾向が強く，生徒が主体的に課題を解決するという点では，活動のねらいが十分に達成できなかった。

本年度は，計画の段階で，企画から生徒自身に取り組む機会を設定し，できる限り生徒が立てた計画のもとに活動できるよう支援・指導に努めた。

5　活動の成果と課題（昨年度の考察から）

○　地域の自然や社会とのふれあいの中で，様々な体験活動が，生徒にとって地域を見つめなおす機会となり，地域の人と交流を深めることにつながったといえる。また，生徒が自ら学ぶきっかけをつくることできたことが，成果として挙げられる。

○　昨年度は，「体験活動」そのものに価値がある体験と「体験活動」を計画したり，準備したりすることに価値がある体験の区別が，私たち自身，わかっていないところがあった。さらに，「その体験活動で生徒に何を学ばせたいのか」という視点が明確でなかったことも反省として挙げられる。今後は，準備や計画，研究の進め方等，総合的に見直しを行い，３年間の学習活動が系統性のあるものにしていきたい。

高　等　学　校

【高等学校　複合した体験活動】

豊かな郷土の環境にふれ、郷土を愛する心を育てる

青森県立名久井農業高等学校

学　校　の　概　要

①　学校規模
- ○　学 級 数：　１２学級
- ○　生 徒 数：　３４１人
- ○　教職員数：　　６２人
- ○　対象学年：　第１学年１０９人
  第２学年１１３人

②　体験活動の観点から見た学校環境
- ○　名川町は、名久井岳の東方にひらけた丘陵地帯に位置し、町の中心部を馬淵川が流れる自然豊かで温暖な気候の町である。
- ○　産業は、果樹や野菜を主とした農業が中心である。また、南部手踊り発祥の地で、古くから伝統芸能が盛んな地域である。
- ○　近年、少子化が進み、農業離れが目立つようになり、非農家出身の生徒が増えている。生徒の自然体験や農業体験も著しく減少してきている。

③　連絡先
- ○　〒０３９－０５０２
  青森県三戸郡名川町大字下名久井字下諏訪平１番地
  電　話：０１７８－７６－２２１５
  ＦＡＸ：０１７８－７６－２２３４
- ○　ＨＰ：http//www.sanpachi-s.asn.ne.jp/~ah/
- ○　電子メール：nakui-ah@asn.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要

①　活動のねらい
- ○　豊かな郷土の環境にふれ、豊かな人間性を育て、郷土を愛する心を育てる。

②　活動内容と教育課程上の位置づけ
- ・　時間外総合実習（１単位３５時間充当）
  各科の教科の時間（２～８時間）
- ・　活動場所：三戸郡内、八戸市内、本校

○社会奉仕に関わる体験活動　（１０時間）
〈環境緑化活動〉
- ・地域への草花植栽

○交流に関わる体験活動
（教科の時間※各科による　２～８時間）
〈子どもたちの農業体験学習〉
- ・幼稚園児のリンゴ人工授粉、摘果、収穫、サツマイモ植えの支援
- ・小学生のリンゴ加工の支援
- ・中学生のリンゴ・野菜栽培の支援

○文化や芸術に関わる体験活動（１０時間）
〈名川秋祭り参加〉
- ・手踊りの練習、神輿作り
- ・名川秋祭り参加

○自然に関わる体験活動　　（１５時間）
〈鮭の稚魚の育成と放流〉
- ・鮭の捕獲、採卵、授精
- ・鮭の稚魚の育成、鮭の放流

１　活動に関する学校の全体計画

（１）活動のねらい

豊かな郷土の文化や自然環境にふれ、人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育て、郷土を愛する心を育てる。

ア　「社会奉仕に関わる体験活動」

郷土に草花を植え、郷土を愛する意識の高揚と地域社会との好ましい関係作りを推進する。

イ　「交流に関わる体験活動」

本校生徒が農業体験の講師となり、人を思いやる心や正しい勤労観、職業観を身につける。

ウ 「文化や芸術に関わる体験活動」

「名川秋祭り」への参加を通して、郷土の文化に触れ、郷土を愛する心を育む。

エ 「自然に関わる体験活動」

鮭の育成、放流を体験し、郷土の豊かな自然環境及び、生命誕生の神秘と尊厳を体得する。

（２）全体の指導計画

ア 実 施 学 年 ： １学年１０９名、２学年１１３名

イ 教育課程上の位置づけ： 時間外総合実習の中に位置づけ、放課後の活動が主である。

ウ 活 動 内 容（時間）

月	社会奉仕・体験活動	交流・体験活動	文化芸術・体験活動	自然・体験活動
	環境緑化活動	子ども達の農業体験学習	名川秋祭り参加	鮭の稚魚の育成と放流
5	環境緑化の日 （２） 校内環境整備 （２） 郡内花苗の植栽(２)	リンゴ人工授粉(２)		
6		サツマイモ植え(２) リンゴ摘果 （２）		
7	郡内花壇草取り(２)			
9		野菜管理 （２）	流し踊り練習・神輿作り （６） 秋祭り参加 （４）	
10	花壇残滓片付け(２)	リンゴ収穫 （４） 野菜収穫 （２） サツマイモ収穫(２) サツマイモ調理(２)		
11		リンゴ加工 （２）		

月	
11	鮭の捕獲、受精(２)
1	鮭の孵化、育成(４)
2	鮭の育成 （６）
3	鮭の育成、放流(３)

（３）学習指導との関連

「環境緑化活動」では、実習で栽培した花を植栽し実習に目的意識を持たせている。また、「子ども達の農業体験学習」では、生徒の専門性を生かすことで教科の学習の見直しにつなげている。

２ 活動の実際

事例１「環境緑化活動」

○事前指導

ア 学校の緑化を推進し、昭和６０年「緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞」を受賞した先輩たちの業績を引き継ごうと、生徒代表が全校生徒に呼びかける。

イ 環境緑化講演会 講演題「国立公園は今！」 環境省自然公園指導員 小関孝一

ウ 事前に環境緑化に関わるスローガンを募集し、環境緑化を身近なものとする。

エ 農業クラブ地域分会で、各地域でどういう活動をするのか、話し合いの時間を設ける。

○活動の展開

ア 校内環境緑化活動

校内に植樹してある約８千本の樹木の剪定作業や清掃活動を、生徒と全職員で実施した。

イ 郡内環境緑化活動

三戸郡内１６カ所の花壇に１万本の花の植栽を行い、夏に草取り、秋には残滓整理を行う。

【長老園の花壇に花の植栽】

【保育園児とサツマイモの収穫】

事例２「子ども達の農業体験学習」

○活動の展開

幼稚園児、小学生、中学生を対象に、本校生徒が各科ごとに講師になり指導する。

ア　リンゴの栽培（農業科）幼稚園児に、リンゴの人工受粉、摘果作業、収穫を指導する。

イ　野菜の栽培　（園芸科）中学生にスイカ等の定植、整枝、ジャガイモの収穫等を指導する。

ウ　リンゴの加工（農芸化学科）小学生にリンゴジュース、リンゴジャム作りを指導する。

エ　サツマイモの栽培と調理（生活科学科）保育園児にサツマイモの定植、収穫指導。感謝祭。

事例３「名川秋祭り参加」

○活動の展開

ア　活動の内容

男子はかつぎねぶた、案山子の作製等、女子は、名川音頭の練習。当日は、開始時刻直前から雨が降り、女子の流し踊りは急遽中止となったが、男子は雨合羽を着て強行した。

雨の中、地元の人たちから温かい声援を受け、最後までやり遂げた。

イ　指導者、協力者

名川町人材派遣センターに登録している２名に手踊りの指導をお願いした。

【雨の名川秋祭り】

【鮭の採卵】

事例４「鮭の飼育と放流」

○事前指導

全校集会を開き、鮭の飼育や放流をする意義について講話を行う。

○活動の展開

学校からおよそ５００m離れた場所にある鮭の孵化場を活用する。

ア　活動の内容

「鮭の捕獲作業の見学、人工授精作業」

・鮭の捕獲作業の見学（１日千匹以上の捕獲量)。クラス代表による採卵と人工授精。

「鮭の孵化、稚魚の飼育、鮭の放流」

・発眼卵１００個を教室前の廊下の水槽に入れる。水槽は暗くしておく。１０日で孵化。

・孵化（授精後４０日くらい）し、稚魚が水面に浮くようになったら餌をやる。

・体長４ｃｍに成長したら放流する。

・毎日記録日誌をつける。特に気温と水温。生育数。稚魚の様子。

・放流実施日：平成１５年3月１７日（月）馬淵川孵化場の川沿いで放流する。

イ　指導者、協力者

鮭の孵化、飼育事業に当たっては、馬淵川鮭鱒魚業協同組合の全面的な支援をいただいた。

３　体験活動のための実施体制

（１）学校と地域の諸団体との連携

各地域に草花の埴栽をするに当たって、各地域の諸団体と事前に連絡をとり活動を行った。

「ＪＲ三戸駅、剣吉駅、八戸駅等各駅」、「名川老人福祉センター」等　１４団体

４　評価の工夫と指導の改善

活動ごとに感想文やアンケートを実施し、変容を見る。

５　成果と課題

（１）成果

ア「環境緑化活動」

地域の美化や環境改善に寄与しているという自信や誇りにつながり、地域民との好ましい関係作りに役立っている。

イ「子ども達の農業体験学習」

人を思いやる心が育ち、農業を自分のこととして主体的に考えられるようになった。農業教科への学習意欲も向上した。

ウ「名川秋祭り参加」

若い人が少なくなった地元の祭りへの参加は、地元の方々から大きな歓迎を受け、地元との心の絆が太くなった。伝統ある地域の文化に直接触れ、地域への愛着が増した。

エ「鮭の飼育と放流」

生命の神秘や尊厳を実感できると予想して取り組んだが、生徒の中には誕生した稚魚に思いを込める生徒もいた。

・毎日水槽をのぞいていると、日に日に大きくなっていくのがわかります。その様子を見ているとなんだかうれしくなります。そして、なぜか心が落ち着いてきます。

・飼育の途中で死んだ鮭が何匹かいて、残りも死んでしまうんじゃないかって心配になります。残り全部が川に放流する時まで生きていて欲しい。　（生徒の感想文から）

（２）今後の課題

ア　体験は生徒によって感じ方が多様である。生徒のやりたい内容を事前調査したり、意義付けの指導を徹底するなど、多くの生徒が目標に近づける方法をさらに検討して実施したい。

イ　学校挙げての推進体制や地域との連携体制を今後ますます強化していく必要がある。

【高等学校　職業・就業にかかわる体験活動，社会奉仕にかかわる体験活動等】

自己のあり方・生き方をみつめる体験活動

宮城県立飯野川高等学校

学　校　の　概　要

①　学校規模

○　学級数：９学級
（普通科６学級，生活福祉科３学級）

○　生徒数：２４５人

○　教職員数：２７人

○　活動の対象学年：１年生
（普通科３８人、生活福祉科３５人）

②　体験活動の観点などからみた学校環境

○　本校が位置する河北町は石巻市の北に隣接する。町の主産業は稲作や施設園芸を中心とした農業，長面浦の牡蠣養殖及び北上川内水面のしじみ漁やさけ漁などの漁業といった一次産業である。また，町としては企業誘致や地元企業の育成にも積極的に取り組むとともに，スポーツや文化活動等の生涯学習，情報関連施設等も推進している。さらに，自然環境にも恵まれ，東北随一の大河である北上川（追波川）や，日本の音風景１００選に指定された北上川のヨシ原，天然記念物である翁倉山のイヌワシ等は有名である。

○　生徒は主に河北町を中心とした近隣１市７町から通学しており，通学圏内には体験活動に適した教材や活動の場として利用できる施設・設備が多く，比較的恵まれた環境といえる。

③　連絡先

○　〒９８６－０１０１
宮城県桃生郡河北町相野谷字五味前上４０番地

○　電　話：０２２５－６２－３０６５

○　ＦＡＸ：０２２５－６２－２２４７

○　ホームページ：http://iikou.myswan.ne.jp

○　電子メール：iinoga_h@sn.myswan.ne.jp

体　験　活　動　の　概　要

①　活動のねらい

○　本校の教育課程は，普通科に類型別学習（２年生より３類型：進学教養・商業メディア・地域産業），生活福祉科に訪問介護員２級の資格取得と連結した福祉科目を導入している。生徒は性格的に明るく素直な者が多く、学習面で目的意識をもち、各種資格取得に積極的に取り組む者も増加している。しかし，基礎学力や自分を客観的にみる力が不足する者，生活体験に乏しく明確な目標をもてない者，さらに生活規律の面で問題を抱える生徒が混在する。進路希望状況は，就職希望者が多くを占めるが，社会情勢の変化により就職率は低下傾向である。また，就職後の定着率もあまりよいとはいえない。そこで，本校１学年「総合的な学習の時間」では生徒の望ましい勤労観・社会観を培うとともに，学校生活及び地域社会における自己のあり方・生き方について考える姿勢をもたせ，主体的に進路選択や進路設計する能力の育成をねらいとした。

②　活動内容と教育課程上の位置付け

○【職業・就業にかかわる体験活動】は，主に第１学年「総合的な学習の時間」普通科「ガイダンス」で展開し，その他の体験活動も含めると，総授業時数は４０時間となった。

○【ボランティアなど社会奉仕にかかわる体験活動】および【交流にかかわる体験活動】は，おもに第１学年「総合的な学習の時間」生活福祉科「ボランティア活動」で展開し，その他の体験活動を含めると，総授業時数は３６時間となった。

※　前年度は，主に【自然にかかわる体験活動】を実施した。

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

本校は前年度，理科及び地歴公民科の横断的・総合的な学習を効果的に進めるために，地域の自然環境や産業等を教材とした体験活動を積極的に導入した。具体的な成果としては，学習活動に対する意欲喚起を促すことができ，総合的にものを見たり，考える力が身に付いたことである。また，校外の方々と接することは，社会人としてのあり方や生き方について考えるきっかけを充分に与えることができることもわかった。本年度はこれらのことをふまえ，第１学年次「総合的な学習の時間」において，積極的に体験活動を取り入れ，本科目の目標とする生徒の育成を目指し，事業を展開した。

（2）全体の指導計画

ア　活動の名称（教育課程上の位置づけ）と実施学年（平成１５年度）

第１学年「総合的な学習の時間」（２単位時間：毎週金曜日５・６校時に展開）

普通科「ガイダンス」（校内通称），生活福祉科「ボランティア活動」（校内通称）

イ　活動内容（平成１５年度）

普通科「ガイダンス」の年間計画は「自己理解」，「学習計画」，「職業理解」，「地域理解」，「進路選択」の５項目，生活福祉科「ボランティア活動」では「自己理解」，「勤労・奉仕」，「介護・福祉」，「進路選択」の４項目で構成している。この年間計画のなかで各項目に応じた，さまざまな体験活動を展開した。

ウ　年間指導計画（平成１５年度）

月	普通科　総合学習「ガイダンス」		生活福祉科　総合学習「ボランティア活動」	
	項　目	内　　容	項　目	内　　容
	自己理解	総合学習開講式・プロジェクトアドベンチャー　※		
4	進路選択	職業を調べる・進路適性検査	勤労・奉仕	ボランティア活動とは
5	学習計画	類型科目説明会・類型登録Ⅰ	ボランティア	リサイクル作品づくり
		校内パソコン実習		◆フラワーボランティア【２】
	進路選択	職場インタビュー事前学習		◆地域の清掃活動【２】
6	職業理解	◆職場インタビュー【２】	介護・福祉	施設実習事前学習
		職場インタビュー事後学習		◆福祉施設での活動Ⅰ【２】
	進路選択	◆上級学校見学会【６】　※		
		適性検査結果分析・類型登録Ⅱ	介護・福祉	◆救急救命法講習会【２】
	地域理解	◆地域の清掃活動【６】　※		◆フラワーボランティア【２】
8	自己理解	高校生活について考える　※		
9	進路選択	就職について考える	研究発表	飯高祭展示発表準備Ⅰ
		進学について考える		飯高祭展示発表準備Ⅱ
	（発　表）	飯高祭発表準備	介護・福祉	◆キャップハンディ体験Ⅰ【２】
10	学習計画	◆類型コース別体験活動【４】		◆キャップハンディ体験Ⅱ【４】
	地域理解	◆郷土理解学習Ⅰ（北上川）【２】		保育所訪問準備
		◆郷土理解学習Ⅱ【４】		◆保育所訪問【４】
	学習計画	類型登録Ⅲ・体験活動のまとめ		◆福祉施設での活動Ⅱ【２】
	職業理解	職場体験実習事前学習		◆高齢者の介護【２】

11	進路選択	◆職場体験実習【１６】	
	自己理解	ライフプラン作成Ⅰ　※	
	進路選択	ライフプラン作成Ⅱ　※	
1		ライフプラン作成Ⅲ　※	
		ライフプランクラス発表準備　※	
	（発　表）	ライフプランクラス発表会　※	
2		「私のライフプラン」発表会　※	
	学習計画	総合学習閉講式・２年生へむけて（類型・専門科目オリエンテーション）　※	
	体験学習総授業時数　４０時間		**体験学習総授業時数　３６時間**

〈注意〉　①　◆は体験活動を示し【　】の数字は活動に要した時間を示す。
②　※印の活動は、普通科・生活福祉科合同の活動を示す。

2　活動の実際

（1）事前指導

第１学年「総合的な学習の時間」の指導は，ホームルーム正・副担任によるＴＴで実施している。年間計画では体験活動実施前に事前指導の時間をできるだけ設定し，活動の目的や留意事項を浸透させるよう配慮した。しかし，限られた時間内では不充分な場合もあり，関連教科の授業時間やＬＨＲを積極的に利用して事前指導を行うこともあった。また，事前指導の一部は，体験活動と結びつけた製作活動などに取り組み，体験活動がふくらみを増すよう配慮した。

（2）活動の展開

年間を通して複数回にわけて体験活動を実施した。学習プログラムによっては，特別時間割を編成し，まとまった時間数を確保した。一部の活動では，生徒の興味・関心に応じたコース別体験活動とするなど展開方法に工夫を凝らした。また，体験活動の指導者はできるだけ２名以上とし，生徒の体験活動への積極的な参加および学習への取り組みを支援した。教材は，生徒の発達段階や学習内容に応じて担当教員が自主教材を作成した。また，連携事業所から補足資料などをいただき活用することもあった。

（3）事後指導

毎回の体験活動終了後には，使用したワークシートや活動報告書，感想のまとめ等を課題として提出させた。まとめに要する時間確保が困難な場合は，事前指導と同様の方法で指導をしてきた。活動によっては，生徒並びに受け入れ先事業所に活動に関するアンケート調査等も実施し，自己評価と客観的評価の内容を照らし合わせ，その結果を生活指導にも活かせるよう配慮した。

3　体験活動の実施体制

（1）学校支援委員会の体制

「総合的な学習の時間」の企画・運営は，第１学年所属教員，教務部員，進路指導部員，普通科類型担当者及び生活福祉科代表者からなる推進委員会が主幹となり行った。生徒に対して直接的な学習指導・支援を行うのは第１学年所属教員であるので，学年会議などを通じて連絡を緊密にして運営した。また各家庭に対しては，保護者会や生徒向け新聞などを通じて活動のねらいや活動内容を説明した。保護者の中には本校の教育活動に理解を示し，積極的に協力して下さる方もいた。活動の場や事業所の選定，外部指導者の確保は，主に学校支援委員（学校評議員）や関連機関による照会，地域の広報誌やインターネットによる検索を活用して行った。なお，学校支援委員会は年間２回程度開催しているが，ほとんどが同窓生ということもあって，非常に参考に

なるアドバイスをいただくことができたことも本研究の大きな成果といえる。

（２）配慮事項等

体験活動の内容によっては，事故に対する安全意識を事前にもたせることに努めた。自分自身が安全に活動するとともに，他者に対しても配慮を怠ることのないように活動することは，体験活動の内容を問わず重要なことである。また，借用物品についても取り扱いに関する注意を促した。生活福祉科「ボランティア活動」では，高齢者および幼児の心理的・身体的特徴についての学習も同時に行ったり，普通科「ガイダンス」における自然体験活動では複数回にわたる実地踏査を実施し，当日の天候変化などにも注意を払う等して安全確保に努めた。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動の評価は，事前指導や体験活動当日，事後指導の各段階において，指導者間で共通した観点（関心・意欲・態度，聞く力，まとめる力，発表する力）をもって行ってきた。また，毎時間の学習シートには自己評価欄を設け，生徒自身による評価を参考にしたり，体験活動ではとくに外部指導者の評価も参考にしている。活動の評価が低い生徒については，その後の活動で役割をもたせる等して，生徒全員が何らかのかたちで力を発揮できるよう配慮した。一部の体験活動では関連の外部指導者に対して，学習プログラムの運営や教育上の成果に関するアンケート等も行っており，反省点を把握し次年度以降の改善に活かすようにした。中には，本校生徒の実態をふまえて事前指導や事後指導のあり方について前向きな助言をして下さる方もいた。

5　活動の成果と課題

（１）成果

普通科「ガイダンス」では，年間計画の項目にしたがった様々な学習活動をとおして，進路選択の手立てや２年生からの類型別学習，職業や地域社会に対する理解を深めることができた。多くの生徒は，外部指導者との交流を通して社会人としてのあり方や生き方について考える姿勢をもつとともに，進路設計（ライフプラン作成）に積極的に取り組み，高校生活に見通しや新たな目標をもつことができた。また，生徒の中には，自分なりに考えた勤労観や職業観をライフプランに綴る者もいた。一方，生活福祉科「ボランティア活動」では，年間を通して様々な学習活動に取り組むことで，学校や家庭，社会においてより良く過ごすためにどうあるべきか考える姿勢が見られ，ボランティア精神の涵養を図ることができたと思われる。そして，介護・福祉に関する専門的要素を含んだ活動を取り入れたことで，訪問介護員２級の資格取得に対しての意欲喚起につなげることもできた。さらに，普通科と同様の学習活動も導入していたことから，高校生活についてより深く考え，主体的に進路設計することもできた。いずれの科目でもこのような成果が見られたのは，年間計画の中に体験活動を導入したことが大きく影響したものと思われる。理解力や生活体験に乏しい本校生徒の実態をふまえると，主体的に目で見て，手で触れ，確かめることのできる体験活動は，新たな発見や感動をもたらすと同時に，実体験を伴った知識の定着と自己啓発を図るのに非常に効果的であることが，前年度の実績と合わせていうことができる。

（２）課題

今後は，第１学年「総合的な学習の時間」の学習内容を，その後の高校生活にどのように発展させていくかを考えた学習プログラムを検討していきたい。また，並行して小・中学校における「総合学習」との関連もふまえた教材研究や，本年度までの連携事業所とさらに連絡を緊密にし，より良い体験活動のあり方を模索することも必要であると考えられる。

【交流に関わる体験活動】

地 域 と 連 携 し た 交 流 体 験 活 動

富 山 県 立 八 尾 高 等 学 校

学 校 の 概 要
① 学校規模
○ 学 級 数：１３学級
○ 生 徒 数：５１０人
○ 教職員数：５５人
○ 活動の対象学年：全校生徒５１０人
② 体験活動の観点などからみた学校環境
○ 全国的に有名な「越中おわら風の盆」に代表される伝統文化や自然に恵まれた地域にある。
○ 人口約２万２千人の小さな町で、少子高齢化が進んでいるが、観光イベントや産業（テクノポリス構想）をはじめ、町全体が活性化を目指している。
○ 昨年度、八尾町の幼・保・小・中・高が連携し「八尾学園推進協議会」を設置して児童・生徒の健全育成を推進する様々な活動を行っている。
③ 連絡先
○ 〒９３９－２３７６ 富山県婦負郡八尾町福島２１３
○ 電 話：０７６－４５４－２２０５
○ ＦＡＸ：０７６－４５４－５９９９
○ ホームページ：www.tym.ed.jp./sc344/
○ 電子メール：yatuo-hs.@tym.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要
① 活動のねらい
○ 八尾町という地域にある学校として、積極的に地域の行事に参加して地域住民との交流をとおして地域社会に対する理解を深める。
○ 地域の子どもやお年寄り、障害者の方との交流をとおして乳幼児期の発達や高齢者・障害者の福祉に対する理解を深める。
○ 活動をとおして得られる自己理解をもとに将来の進路を考える一助とし、また、これからの社会で必要なコミュニケーション能力や自己表現力を育てる。
② 活動内容と教育課程上の位置付け
○ 交流に関わる体験活動
・販売実習「高啼エイト」 （商業４０時間）
・保育実習・独居老人宅訪問（福祉３８時間）
・福祉施設訪問 （福祉３６時間）
○ 文化や芸術に関わる体験活動
・地域行事「坂のまちアート」作品作り （芸術４６時間）
・郷土芸能「越中おわら」体験活動 （体育３６時間）
○ 社会奉仕に関わる体験活動
・ボランティア活動 （総合的な学習の時間３５時間）

１ 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

（1）販売実習「高啼エイト」

・ 「坂のまちアート」と連携して地域との交流を図るとともに、より実践的な活動を目指す。

・ 昨年度は、情報会計科２・３年生の２クラスで実施したが、今年度は、３年生の１クラスによる実施となるため、普通科からボランティアを募集して参加生徒の拡がりを図る。

（2）保育実習・独居老人宅訪問

・ 地域の保育所・幼稚園施設、独居老人宅を訪問して、授業で学んだことについて理解を深める。今年度は、地域の子どもや高齢者との交流を活動後も継続して行えるようにする。

（3）福祉施設訪問

・ 地域の福祉施設や病院で実習を行い、少子高齢化社会で必要とされる豊かな人間性を育む。

（4）「坂のまちアート」作品作り

・ １年生の美術選択者が「坂のまちアート」の併催行事である「未来の芸術家達のアート展」への作品づくりをとおして地域行事に参加する。

（5）「越中おわら」体験活動

・ 郷土芸能である「越中おわら」の踊りを全校生徒が体験することにより地域の伝統文化につ

いての理解を深める。

（6）ボランティア活動

・　これまでの地域との交流活動を生かしながら、１年生が地域と密着したボランティア活動を行い、自己の成長を期待するとともに地域社会の一員として貢献する態度を養う。

○　全体の指導計画

活動の名称	実施学年	活　動　内　容	教育課程上の位置付け	時間数
販売実習 「高啼エイト」	３　学　年 情報会計科	生徒自身で企業組織を作り、仕入れから販売まで実践する。	商　業 課題研究	４０時間
保育実習 独居老人宅訪問	３　学　年 生活福祉科	保育所・幼稚園、独居老人宅を訪問して交流を深める。	家　庭 福　祉	３８時間
福祉施設訪問	２　学　年 福祉コース	地域の福祉施設を訪問して交流する。	福　祉	３６時間
「坂のまちアート」作品づくり	１　学　年 美術選択者	地域行事「未来の芸術家達のアート展」へ出品する。	芸　術	４６時間
「越中おわら」体験活動	全 校 生 徒	「越中おわら」の踊りを学び、体育大会で発表する。	体　育	３６時間
ボランティア活動	１　学　年	地域と密着したボランティア活動を行う。	総　合	３５時間

２　活動の実際　―　交流体験活動を中心として　―

①　販売実習「高啼エイト」

○　事前指導

・　「坂のまちアート」実行委員会や八尾町商工会と念入りに打ち合わせを行った。

・　外部講師招聘…大学や地元商工会から専門家を招聘し、専門的知識を学んだ（昨年度）。

講　義　内　容	日　　程	講　　師
市場調査・販売促進	7/10　1.2限2年生 3.4限3年生	富山国際大学　地域学部教授
経営計画	7/11　1.2限3年生	八尾町商工会　事務局長
販売戦略	7/12　1.2限2年生 3.4限3年生	会社　　課長

・　「坂のまちアート」出店店舗との連携…手打ちそば講習会、甘味所、ベンチャーキッズなど（今年度は、手打ちそばなどに、普通科生徒からボランティアを募集した。）

・　組織づくり（株式会社組織、各店舗での役割）を行い、生徒自身ですべて企画をした。

○　活動の展開

・　１５年１０月１１日（土）～１３日（月）

・　「高啼エイト」は、生徒自身で行う伝統行事（今年で第１３回）であり、昨年度から初めて地域へ出店した。それに伴って、場所（学校から町内へ）や購入者（生徒・保護者から町内の住民・観光客）などの販売環境の変化に対応した活動となった。

・　理論と実践とのギャップを生徒は感じているようであったが、持ち前の若さで大きな声で販売を行っており、生徒たちの生き生きとした表情が目立った。

・　生徒一人ひとりが責任を持って活動に取り組み、天候やその日の売り上げ状況を見ながら、計画を変更したり追加注文をしたりするなど柔軟な対応が見られた。

○　事後指導

・　お客さんのアンケートを集計し活動を見直した。株主総会の準備。

②　保育実習

○　事前指導

・　「保育」の授業で乳幼児期の身体発達や精神発達及び遊びの様子などを学んだ。
・　自分が学びたいテーマを持たせる。（「保育実習記録」冊子を作成し記入する。）
・　各自の実習先を決めてグループ編成をして、自作の教材作りや出し物の練習を行った。

○　活動の展開

・　１５年7月９日（水）～１１日（金）

・　八尾町内の８つの保育所、幼稚園でグループ別に３日間、それぞれの担当のクラスに入って保育士としての体験活動を行った。生徒たちは、保育士の方々の幼児たちとの接し方を見て学んだり、いろいろと教わったりしながら、からだ全体で幼児たちと触れ合ってよく遊んでいた。最終日には、それぞれ自作の教材（劇・歌・クイズ・ダンス・ゲームなど）を用いて発表した。
・　幼児の可愛さや素直さ、豊かな感性に触れ、自分の育ってきた過程を理解したり、「保育」の授業で学んだことについて理解を深めたりできた。また、保育士としての体験を通じて働くことの大切さを学ぶことができた。

○　事後指導

・　「保育実習記録」（感想レポート含む）の提出及び幼児たちへ手紙を送付した。

③　独居老人宅訪問

○　事前指導

・　２年次に「訪問介護員養成研修」を学んだ。３年次の「社会福祉基礎」、「社会福祉援助技術」の授業で高齢者の特徴や接し方について学んだ。
・　八尾和紙で高齢者向けのプレゼント作りを行った。

○　活動の展開

・　１５年6月１９日（木）、１０月１６日（木）、１１月6日（木）

・　八尾町福島地区の独居老人宅１４軒を２人グループで２軒を担当し、コミュニケーションを取りながら互いに理解を深めて交流を行った。初回訪問時に八尾和紙のしおりに手紙を添えてあげたり、３回目訪問時には手作りのプレゼント（小物入れなど）をあげたりした。思いがけないプレゼントに大変喜ばれた。お年寄りの方は、生徒と一緒にお茶を飲んだり、話し相手になったりすることを楽しみにしておられた。また、お年寄りの方から趣味の手芸作品をプレゼントされたこともあった。

○　事後の指導

・　「訪問記録表」（感想レポート含む）の提出及び八尾和紙の年賀状を作成して送付した。

④　ボランティア活動

○　事前指導

・　「総合」の時間では、１．共生社会に生きる　２．夢を実現する　３．生き方を考える、の３つのねらいのもとに、土・日曜日や夏季休業を利用してのボランティア活動を呼びかけた。
・　活動分野として「地域社会」、「福祉」、「自然環境保護」、「学校生活」、「国際」の５つの分野を設置して、年間活動計画を立てた。
・　「ボランティア基礎講座」を開催して、特に福祉施設で活動する際の心得について学んだ。
・　ポイント制度（１時間１ポイント）を導入して、１年間で１０ポイントを目標にする。
・　生徒全員、ボランティア活動保険に加入した。

○　活動の展開

・　「地域社会」分野の「八尾学園さわやか運動」では、町内の４つの小学校と２つの中学校へ行って、校門であいさつをとおして小・中学生と交流をした。参加した生徒は、「小学生が、元気よくあいさつをしてくれて気持ちよかった」、「１日が楽しく始まった」、「地域社会の役に立った」などの感想を述べている。

○　事後指導

・　ボランティア活動報告書を提出する。

３　体験活動の実施体制

○　学校支援委員会の体制

勤務先又は機関団体名及び職名	勤務先又は機関団体名及び職名
日本ペンクラブ会員　作家、同窓生	社会福祉法人フォーレスト八尾会　指導員
会社　社長、同窓会長	富山大学　人文学部教授、同窓生
越中八尾観光協会　理事	会社　課長
八尾老人健康施設「風の庭」　婦長	ＰＴＡ会長
学校関係者（校長・副校長・教頭・事務部長・教務主任・生徒指導主事・科主任）	

・　委員会は年３回実施した。支援委員の方々には、活動の計画から実施状況、評価まで貴重な意見や支援をしていただいた。活動の場や指導者の確保については、学校や学科の行事として年間行事計画に入れて対応した。

４　体験活動の評価の工夫と指導の改善

・　「高啼エイト」では、生徒の活動日報より自己評価を行い、お客さんのアンケートから各店舗での活動について反省会を行った。また２月にはプレゼンテーションと株主総会を行う。

・　保育実習では、事後の反省会を行い、保育所の先生から指導・講評をしていただいた。生徒は実習記録により自己評価を行い、またクラス全員の前で報告会を行った。

・　独居老人宅訪問では、生徒の訪問記録やクラス全員の前での報告会に加えて、お年寄りの方との会話の内容を全て書き出させて、コミュニケーションの取り方の事例研究を行った。

・　ボランティア活動では、生徒のボランティア参加状況と活動報告書により評価した。

５　体験活動の成果と課題

・　「高啼エイト」は、地域で行うことで、より実践的な活動になった。手打ちそばやアート展示場所の補助などに普通科生徒がボランティアで参加するなど、参加生徒の拡がりにつながった。

・　保育実習では、実習後の夏季休業中にボランティア活動として保育所を訪れたり、将来保育士を目指したりする生徒も出てきた。また、９月の体育大会では、幼稚園児を招いて一緒に見学したり参加したりして交流を深めた。

・　独居老人宅訪問では、生徒は各自の目標を持って訪問に取り組み、コミュニケーションを取ることに努め、お年寄りに対する理解が深まった。また、放課後や夏季休業中に継続して訪問した生徒もいた。

・　ボランティア活動では、生徒全員にボランティアを体験させるための促進剤として「ポイント制度」を導入した。これにより生徒にボランティアを体験する「きっかけ」を与え、その後は生徒自身が自発的にボランティアの芽を成長させるよう改善に努めたい。

・　これまでの体験活動は、情報会計科と生活福祉科を中心に行ってきており職業観の育成等に効果がみられた。しかし両科は今年度で閉科となり、来年度から完全に普通科単科高校となる。
そこで、これまでの体験活動のノウハウを情報・福祉両コースの活動に生かすとともに地域に密着した体験活動をボランティア活動へ継承させていきたいと考えている。

【養護学校・交流，文化や芸術に関わる体験活動】

地域のよさ（自然や人，もの）を生かした体験学習

島根県立益田養護学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

○ 設置学部・学級数・在籍児童生徒数

小学部	９学級	１４人
中学部	６学級	１７人
高等部	６学級	２６人

○ 教職員数 ： ６２人

○ 活動の対象学年：高等部　２６人

② 体験活動の観点からみた学校環境

○ 本校は，平成１２・１３年度盲・聾・養護学校等新教育課程推進実践研究の指定を受け，研究テーマとして【地域における特殊教育のセンター的機能を果たすために，どのような組織を作り実践していけばよいのか～「教育相談活動」と「理解啓発活動」を二つの柱として～】を設定し，研究に取り組んだ。

○ 「教育相談活動」は教育相談部を中心に，「理解啓発活動」は各学部が中心となって地域の学校との交流学習やボランティア活動などに取り組み，教育課程に生かせる実践を行った。

○ これらの活動により，地域の方々の養護学校や障害児（者）への理解が深められるとともに，本校の児童生徒の生活経験が広がり，豊かに生活していく契機になった。

○ このことを踏まえ，今年度も活動を継続し，児童生徒の豊かな心情を育成していくとともに生活を豊かにしていきたいと考えている。

③ 連絡先

○ 〒６９９－５１３２
島根県益田市横田町２１２０－１

○ 電　話：０８５６－３１－５１１１

○ ＦＡＸ：０８５６－３１－５１１４

○ 電子メール：
masudayougo-01@shimanet.ed.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

○ 地域の良さ（自然や人，もの）を生かして，それらに触れることにより，豊かな心情を養い，また地域の一員としての自覚を持ち，スムーズな社会参加ができ，豊かなつながりの中で，たくましく生きようとする児童生徒の育成をはかる。

○ 地域で生活する一員として，地域の環境整備に関する活動をとおして，ボランティア意識を育てると共に，豊かな心情を養う。

○ 文化芸術的な体験活動をとおして，豊かな心情や表現方法を養う。

○ 地域の人たちとのふれあいをとおして，スムーズな社会参加をはかる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

○ ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動〈全学年〉
（総合的な学習の時間６時間）

○ 文化芸術に関わる体験活動〈全学年〉
（特別活動、学校行事５時間）

○ 交流に関わる体験活動〈高等部〉
（総合的な学習の時間２４時間
《２０時間：地域講師による学習会，４時間：地域の各施設との交流会》
（地域講師による学習会は，内容的には文化芸術に関わる体験活動にもなりうるものである。）

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

地域のよさ（自然や人，もの）を生かして，それらに触れることにより，豊かな心情を養い，また地域で生活する一員としての自覚を持ち，スムーズな社会参加ができ，豊かなつながりの中で，たくましく生きようとする児童生徒の育成をはかる。

・　地域で生活する一員として，地域の環境整備に関する活動をとおして，ボランティア意識を育てると共に，豊かな心情を養う。
・　文化芸術的な体験活動をとおして，豊かな心情や表現方法を養う。
・　地域の人たちとの触れ合いを通して，スムーズな社会参加をはかる。

（2）全体の指導計画

活動の名称	実施学年	活動内容	教育課程上の位置づけ	期　間
横田地区環境整備活動	全学年	横田地区の方たちとの花植、プランターの設置	総合的な学習の時間	6時間
ふるさと大学	高等部	地域講師による学習会	総合的な学習の時間	20時間
一日校長事業	全学年	地域の方が一日校長になり授業を実施	特別活動　（学校行事）	5　時間
交流教育	高等部	地域の各施設との交流 （保育所・作業所・老人施設）	総合的な学習の時間	4時間

2　活動の実際

（1）事前指導・活動の展開　　＜地域交流～ふるさと大学＞　（交流に関わる体験活動について）

〇ねらい

地域の自然や人との関わりを通して「知りたい」「調べたい」「やってみたい」「表現したい」生徒を育てると共に，自分たちの住んでいる地域のよさを認識する。

〇参加者：本校高等部生徒，地域講師，地域住民

〇活動の状況

生徒たちのやってみたいという意見をしっかり取り入れ，５つのグループに分かれて学習を展開していくことにした。学習の流れは昨年度と同じようにすすめていくことで，より見通しを持って取り組めるようにした。

〇学習の流れ

今年はどんな勉強がしたい？（希望調査）　→　今年はどんな学習をするのかな？（ガイダンス）　→　講師先生に連絡を取ろう／どんなことが学びたいのかを考えよう　→　ふるさと大学で学習しよう　→　学習したことを振り返ろう

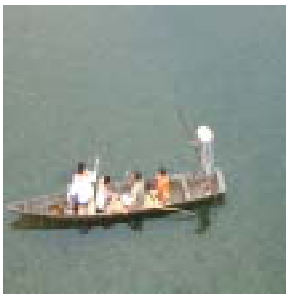
※1：希望調査やガイダンスを行った後、それぞれの班に分かれて学習を進める。

※2：グループ毎の活動を行った後は、校内での発表会をする。発表会では、他のグループがどのような学習を行っているのか情報を共有するようにしている。

〇活動の状況

	伝統芸能班	地域文化班	ダンス班	探検班	創作班
6月	和太鼓演奏Ⅰ	昭和初期の暮らし	ヒップホップⅠ	高津川の冒険	寿司に挑戦
7月	和太鼓演奏Ⅱ	縄文時代の暮らし	ヒップホップⅡ	海へ出かけよう	和菓子に挑戦
12月	和太鼓演奏Ⅲ	江戸時代の暮らし	ヒップホップⅢ	山を歩こう	わら細工
2月	公民館発表　※3				

※３：公民館発表では、地域の方々へ生徒のチラシを配り、有線放送などによる宣伝活動も行う。



＜探検班：高津川を「棟梁」と舟で川下りをした。＞

＜伝統芸能班　：１回目の発表会一人ひとりソロのパートを演奏した。＞

＜ダンス班：昨年より振りも音楽もグレードアップしている。＞

（２）事後指導

この「ふるさと大学」は，高等部全体での取り組み（総合的な学習の時間）であるが，この活動での学習の流れを基盤に，各クラス単位での，総合的な学習の時間の取り組みとして，「近隣の保育所との交流」（４組）「地元の方との行事交流（節分会）」（３組）「作業所との交流」（４組）「高齢者施設との交流」（１組）などを実施することができるようになった。ふるさと大学でお世話になった地域講師の方との連携で新しい交流へと発展していった取り組みもある。「川遊び」「米作り」（２組）など地域講師との当日だけの，１回だけの交流ではなく，次へのつながりもできつつあるように思われる。

また，今年度は，文化祭（ますようまつり）では，地元の「柿本人麻呂」を題材に「ミュージカル」を行ったが，その事前学習として地域の神社や郷土資料館等へ調べ学習に出かけるなどして，自分たちで，「調べたい」「やってみたい」「調べたことを発表したい」という意欲的な活動に発展した。この調べ学習の成果からミュージカルへの取り組みも意欲的で，当日の発表も盛況であった。

３　体験活動の実施体制

（１）学校支援委員会の体制

ア　校内推進体制

本校では研究部の中に「豊かな体験活動推進事業」の窓口を設け，校内推進委員会として，校長・教頭・総務主任・教務主任・各学部主事・高等部教員担当者によって構成した。

○　全校体制で行う活動については，各学部の連携を図るために，計画，当日の運営については，「教務部」「総務部」など分掌の協力を得て活動することができた。

イ　学校支援委員会

地元公民館長（１名）地元自治会関係者（３名）シルバーボランティア（１名）校長，教頭，各学部主事（３名）教務主任，総務主任，研究主任により構成した。

○　「地域の人材や資源（もの）」の情報が具体的に得ることができるよう，構成メンバーを昨年とは若干変更したことで，教員の視点とは違ったとらえ方等様々な情報を得ることができた。また，活動の中心は高等部であったが，他学部教員にも地域の教育資源を提供できるよう各学部の主事も構成メンバーに加えた。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善

〇生徒自身による取り組みに対する評価

　活動ごとに，感想文を書かせ，活動の目的をふまえて作業ができたか，どのようなことに気がついたか，気持ちに変化があったかなどを評価した。

〇生徒の活動に対する教員による評価

　活動中は，参加の状況や会話などの観察，感想文，指導者からの感想，発表会（校内発表や公民館発表）などを基に，関心・意欲・態度，子どもたちの変容を評価してきた。

・感想文は，自分の思いを文字にできない生徒，また，思いはあっても十分に文章表現できない生徒もおり，そこを教員側がどのように感じ取ることができるのか，理解できるのかが活動を評価する上で考えていかなければならないポイントだと思った。そのために，生徒の観察を丁寧にすることやさらにビデオや写真で記録することも大切だと考えた。

5　成果と課題

〔成果〕

〇生徒の感想・地域講師への礼状から

今年のダンス班はすごかったです。振りも音楽も去年よりすごいです。私は去年はダンス班だったけど、今年は伝統芸能を選びました。一人で演奏できるよう頑張ります。ダンスは、昼休みなどにダンス班の人に教えてもらいたいです。	今日探検班で学校の近くの山に行きました。野いちごなどがあり食べながら登りました。夏には高津川に行って舟に乗ったけど水がすごくきれいでした。横田は、川もあり山もありいいところだと思いました。	お元気ですか。この間はふるさと大学の講師としてお世話になりました。大将の寿司を巻く手はすごかったです。また教えてください。今ぼくたちはますようまつりにむけて頑張って劇の練習をしています。よかったら見に来てください。

〇　体験活動をとおして，地域の方との継続的なつながりをもつことができ，人との関わり方，いろいろな世代の人とのコミュニケーションの取り方などが上手にできるようになった。また，地域の方の養護学校への理解も深まりつつあり，お互いに声を掛け合う姿が見られるようになり，スムーズな社会参加がはかられているように感じられる。

〇　調べ学習やふるさと大学のように地域の教育資源に触れることにより，自分たちの住んでいるふるさとへの興味を広げるきっかけとなっている。

〇　ボランティア活動をとおして，活動の広がりを見ると，地域の一員であるという自覚も育ちつつあると感じられる。

〇　　発表会を通して，友達の姿を見ることにより，自分から「やってみたい」「あんなふうになりたい」という活動に対する意欲が感じられるようになってきた。

〇 できることが増え，興味・関心が広がり，自分自身に自信が持てるようになってきた。

〔課題〕

●　今回の豊かな体験活動推進事業は，主に，高等部を中心に取り組んできたが，この成果をふまえ，今後は，全校体制で取り組んでいくことも考えていきたいと思う。その場合本校の児童生徒の実態やニーズの把握を十分に行っていく必要があると考える。

●　主に「総合的な学習の時間」という位置づけで取り組んできたが，今後も生徒の自主的な活動を期待して，生徒達のニーズの把握と共に，興味関心を持たせるための学習や社会体験の場を確保する必要を感じた。

地　域　間　交　流

【地域間交流に関わる体験活動】

西町インターナショナルスクールとの交流体験活動

群馬県黒保根村立黒保根小学校

学校の概要

① 学校規模

○ 学級数：７学級（内特殊学級１学級）

○ 生徒数：１３１人

○ 教職員数：１５人

○ 活動対象学年：６年生・２７人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

○ 黒保根村は人口2,７６９人の農業を中心とし、四方を山で囲まれた自然豊かな山村である。黒保根小学校からは北西の方角に赤城山を望むことができる。村の南端部を国道１２２号線が通り、それに沿って渡良瀬川が流れている。村の総面積の８９%が山林となっている。かつては、養蚕が盛んで、官営工場富岡製糸所が創立された２年後（明治７年）には、星野長太郎氏により、「水沼製糸所」が開業したほどであった。

○ 本校では、１０年程前より西町インターナショナルスクール（以後西町）と交流を続けている。西町はアメリカで活躍した黒保根村出身の貿易商、新井領一郎さん（長太郎氏の実弟 1855 ― 1939）の孫、松方種子さんが創立した学校である。幼稚園児から中学生までの在日外国人が学んでいる。種子さんの姉、ハルさんがエドウィン・ライシャワー元駐日大使の妻だった縁もあり交流が始まり、1994 年に姉妹校提携した。西町は、本村の鹿角地区に宿泊施設を有し、一年間にわたり計画的･継続的に本村で宿泊体験活動などを行っている。

③ 連絡先

○ 〒３７６－０１４１
群馬県勢多郡黒保根村水沼４００

○ 電　話：０２７７－９６－２５０８

○ FAX：０２７７－９６－３０１１

○ ホームページ：http://www12.wind.ne.jp/kurosyou/

○ 電子メール：kurosyou@mail.wind.ne.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

○ 西町との交流を通して、地域や国の違いによる文化の違いを理解し、他の地域や国の人達との関わり方について考えを広げる。

○ 交流を通して、心豊かな人間性を育む。

○ 地域の良さに気づき、ふるさとを愛する心を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
(単位時間数・日数)

〔５年生〕

○ 初めての対面交流活動
（総合的な学習の時間・２日間にわたり各２時間）

○ 西町鹿角キャンプ交流活動
（総合的な学習の時間・放課後）

〔６年生〕

○ 田植え交流活動
（学校行事・２時間）

○ 運動会交流活動（学校行事・１日）

○ 稲刈り交流活動
（学校行事・２時間）

○ もちつき交流活動
（学校行事・２時間）

○ 効果を考えて書こう
(黒保根村ガイドブック作り)
(国語・１１時間)

○ ホームスティ交流活動
（教育課程外の時間・放課後）

○ 西町訪問活動（６年生）
（総合的な学習の時間・２日間）

1　活動に関する学校の全体計画

○　活動のねらい

・　西町との交流を通して、地域や国の違いによる文化の違いを理解し、他の地域や国の人達との関わり方について考えを広げる。

・　交流を通して、心豊かな人間性を育む。

・　地域の良さに気づき、ふるさとを愛する心を育てる。

○　全体の指導計画

ア　活動の名称　　西町インターナショナルスクールとの交流体験活動
「私たちと世界の友達」&「黒保根村と都市部の生活」

イ　実施学年　　６年生

ウ　活動内容

西町インターナショナルスクールとの交流体験活動は、５年生の時から始まる。５年生では２回交流体験活動が行われる。１回目は、４月に初めての対面交流活動。お互いの学校の紹介やグループに分かれての自己紹介や歌とゲームをしながら交流を進めていく。２回目は、西町が９月に鹿角キャンプ（黒保根村）で宿泊体験活動を行っている時に、交流活動を行う。

〔６年生での活動内容〕

・　田植え交流活動…一緒に田植えをしたり、給食を食べたりしながら交流する。

・　運動会交流活動…西町の児童が黒小の運動会に参加に交流をする。

・　稲刈り交流活動…一緒に稲刈りをしたり、給食を食べたりしながら交流する。

・　もちつき交流活動…西町と黒小の全校児童でもちつきをし収穫を一緒に祝ったり、給食を食べたりしながら交流する。

・　ホームスティ交流活動…黒小の家庭に宿泊し交流を図る。

・　**西町訪問活動…東京にある西町を訪問し、宿泊しながら２日間にわたって交流と東京探検活動を行う。**

〔クラス全体での活動〕西町における授業体験，西町周辺のグループ散策、都市見学、大使館見学、六本木ヒルズ見学、地下鉄体験

〔グループでの調査活動〕お店調査…売り上げや商品など、建物調査…規模など、自然調査…木の数など警察の調査…警官の人数など、人口調査…人口密度など　その他…電柱の数、信号の数、自動販売機の数など

エ　教育活動上の位置付け

「私たちと世界の友達」「黒保根村と都市部の生活」の学習は国語と関連させたり、社会・算数で身につけた学習を生かして総合的な学習の時間で行っている。また、もちつき交流活動と運動会・田植え交流活動・稲刈り交流活動は学校行事、西町訪問活動は総合的な学習の時間、ホームスティ交流活動は教科外活動で実施している。

オ　実施時期

田植え交流活動は５月に、運動会と稲刈り交流活動は１０月に、もちつき交流活動は１２月に、西町訪問活動は、１月に実施している。

カ　活動場所

黒保根小学校・学校田・黒保根村西町鹿角キャンプ・西町インターナショナルスクール及び麻布

２　活動の実際

＜６年生の実践例＞

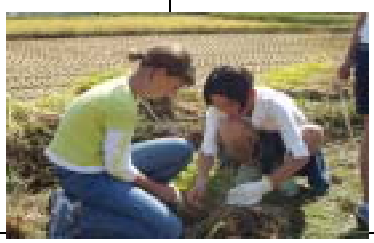
今年度は、これまでの総合的な学習の時間を体験的な学習を中心に再構築し、西町の児童との交流を生かし、「黒保根村と都市部の生活」という新たな単元を加え、自分たちの生活と、都市部の生活や外国の生活を比較なしながら、自分たちの生活のよさに気付き、地域や国が違う人々と今後どのように関わっていけばよいかについて考えを深められるよう工夫した。

○　事前指導

5 月 30 日に行われた田植えや、10 月３日行われた秋季大運動会、10 月 16 日に行われた稲刈り、12 月５日に行われる感謝祭（もちつき大会）などの行事を西町ＩＳの児童と交流しながら行う。こうした交流活動を通し、西町ＩＳの児童との友情を深め、普段の生活の様子についての情報交換などをしながら、都市部の生活と自分たち山村部の生活について理解を深めることができた。また、行事の際、食事交流や日常的な遊びやゲーム交流なども行い、直接的な体験交流を広げることが出来た。今年度は、こうした活動の前後に山村部（黒保根）と都市部の生活（西町あるいは都心部）の違いを積極的に見つけるという意識付けを行ったために、交流活動に深まりが見られた。

また、12 月５日の感謝祭に合わせ、黒保根小の児童は、西町ＩＳの児童を１～４名程度、ホームステイとして受け入れ、１泊２日の生活を共にする。今年度は、6 年生２７名中女子が 8 名と少ないことと、都合により受け入れが出来ない家庭もあり、西町児童３４名全員を家庭で受け入れることが困難な状況であったが、説明会や保護者同士の調節のおかげで、受け入れ体制が整い、自宅受け入れ出来ない黒保根児童も友だちの家庭に入り、学級全員がホームステイ体験をできるようにした。この２日間、児童は、黒保根小での学校生活を一緒に受けたり、国語「効果を考えて書こう」の単元で作成した黒保根村ガイドブックを利用し自分の住む地域を案内したりしながら共同生活を楽しむことができる。こうした活動を通して、黒保根のよさを再認識出来ると共に、西町訪問に向けての意欲と課題意識を持てるようにする。

	総合「私たちと世界の友だち」	総合「黒保根村と都市部の生活」	他教科との関係	学校行事等との関係
1学期	**・西町交流をしよう④** **・自分たちの生活を調べ、西町の生活を予想しよう⑨** ・自分の興味を持った国を調べよう②		**・効果を考えて書こう（黒保根ガイドブック作り）：国語　⑩**	**・田植え②**
2学期	・自分の興味を持った国を調べよう⑤ ・「黒小国際フェスティバル」の準備をしよう⑥	**・黒保根村の生活を調べ、都市部の生活を予想しよう③**		**・秋季大運動会⑥** **・稲刈り交流②** **・もちつき大会②** **（ホームステイ交流）**
3学期	**・西町を見学しよう⑤** ・「「黒小国際フェスティバル」を実施しよう④ **・世界の友だちとの関わりを考えよう⑤**	**・都市部の生活を見学しよう。⑤** **・黒保根村と都市部の生活を比較しよう②**		



○　活動の展開

昨年までは、日帰りで行っていた西町訪問を、今年度は各自のテーマを西町訪問を通し解決出来るよう、１泊２日の西町訪問にプログラムを変更した。1 月２２・２３日の西町訪問は、東京のオリンピックセンターに宿泊し、西町ＩＳの授業体験や西町（麻布付近）の町探検をしながら、都市部と山村部の違いについて比較調査活動を行う。こうした活動を通して、都市部と山村部の違いを実際に体感することになる。

また、班別での調査活動は、都内での治安を考慮し、班に２名の大人（黒保根小職員と西町児童保護者）を付き添いとして配置し、グループごとに防犯ベル、プリペイド式の携帯電話などを配布し、安全面での最大限の配慮をする。

子どもたちの主なテーマ

・お店調査…売り上げや商品など、　・建物調査…規模など、

・自然調査…木の数など、　・警察の調査…警官の人数など、

・人口調査…人口密度など、　・その他…電柱の数、信号の数、自動販売機の数など

１日目	２日目
・西町ＩＳ授業体験　・西町（麻布）町探検 ・施設見学	・地域調査　・施設見学

＊施設見学候補：大使館、都庁、六本木ヒルズ、東京タワー、東京駅など

○　事後指導

実際に調査した結果や考えたことを模造紙にまとめ、意見交流会を行う。また、西町の児童にも感想や意見をＦＡＸ等で送ってもらい、地域や文化的な違いをどのように考えているか学級で話し合う場を設ける。これらの活動を通して、生活習慣や地域性についての理解を深められるように配慮する。そして、まとめた結果を、総合的な学習「私たちと世界の友だち」の単元につなげ、地域や文化の違う人々とこれからどのように関わっていけばよいかという大きな課題へ生かせるようにする。

3　体験活動の実施体制

○　学校支援委員会の体制

豊かな体験活動を推進するために本校では、本校職員・西町の職員・保護者・農業委員・PTA 本部・教育委員会などの代表で学校支援委員会を組織している。

○　配慮事項等

黒保根小学校の場合…各活動には黒小養護教諭が付き添い、大きなけがや事故の場合は、校医の水沼診療所や大間々町の恵愛堂病院と連携を図る。

西町の場合…各活動には西町のスクールナースが付き添い、大きなけがや事故の場合は、インターナショナルクリニックや日赤病院・都立病院と連携を図る。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善

・　育てたい力を明らかにしておき、授業の中で見取っていく。

・　自己評価と総合評価を組み合わせた形で評価していく。（アンケートなどを活用して）

5　活動の成果と課題

・　行事等による直接的な体験交流やホームスティ体験により、西町の生活習慣や地域性について興味を持ち、主体的に調べたり、交流したりする姿が見られるようになった。

地域間交流に関わる体験活動】

私たちの日本一のおいしい米づくり体験活動
千葉県市川市立曽谷小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模
- ○ 学級数：１８学級
- ○ 児童数：５３１人
- ○ 教職員数：２５人
- ○ 活動の対象学年：５年生・９２人

② 体験活動の観点から見た学校環境
- ○ 人口４５万人の東京に隣接した都市部の学校である。ほとんどが宅地で、緑がわずかに残っているものの、子どもたちの遊び場といえば、学区内の公園や学校の校庭が主になっている。
- ○ 畑や田んぼも学区から数ｋｍ行けば見かけることはできるが、日常的な光景ではなく、遊びの対象や農業を実感できるような環境にはない。
- ○ 学区の外にあまり子どもたちが出かけて行かないため、自然体験や生産体験が少ないばかりでなく、自校以外の子どもたちとふれあうような交流体験もあまり多くない。

③ 連絡先
- ○ 〒２７２－０８３２
  千葉県市川市曽谷７－１８－１
- ○ 電　話：０４７－３７１－７８８８
- ○ ＦＡＸ：０４７－３７１－７８８９
- ○ ホームページ
  http://www.soya-syo.ichikawa-school.ed.jp/
- ○ メールアドレス
  soya-syo@mail.goo.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい
- ○ 雄大な自然の中に身を置き、都市部では味わえない農村の風景や山々などの自然を体験しながら、日本一の米どころの秘密にせまっていけるようにする。
- ○ 田植えや稲刈り、蕎麦打ち、わらじ作りなどの生産体験を通して、農業への理解を深めると同時に、課題について主体的に追究を行っていく。
- ○ 現地の小学校との交流を通して、稲作に関する情報交換やその方法を学び、課題解決のためのコミュニケーションの仕方を学ぶ。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
（単位時間数・日数）
- ○ 自然教室２泊３日
  自然体験活動
  （特別活動７単位時間）
  生産体験活動
  （総合的な学習の時間１０単位時間）
  交流体験活動
  （特別活動３単位時間）
- ○ 稲刈り
  生産体験活動及び交流体験活動
  （総合的な学習の時間３単位時間）

1　活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

これまで５年生は、５月末に新潟県六日町へ２泊３日の自然教室に出かけ、「田植え」体験や「蕎麦打ち」「わらじ作り」体験を行ってきた。本年はその自然教室も４年目とな

った。田植えをした後の「新潟の田んぼ」は、稲刈りまで現地の農家の方々に管理をお願いすることになるが、稲刈り後はお米を籾の状態で送ってもらい、子どもたちの手作業で精米し炊飯して食べてきた。稲作を自ら体験することは直接しないため（できないため）、自校では「バケツ稲栽培」に取り組んだり、現地の農家（代表としての現地ホテル）とのインターネットなどによる情報交換を通して、米づくりの学習を補完してきた。籾が届いたときには、あたかも自分たちが育てたかのような愛着を子どもたちが見せ、米作りの大変さに思いをはせていた子どもたちの姿には、「田植え」だけの体験に終わらせなかった指導計画が成果となって表れていた。昨年からは現地まで「稲刈り」体験に出かけるようにもして体験活動を増やし、「新潟の田んぼ」の米づくりへの関わりを何とか増やそうとしてきたが、米づくりへよりつっこんだ洞察や感動を持たせるためには、なおいっそう多くの体験活動の設定が課題となっていた。

そこで、本年は新潟の現地校で稲作を教育課程に取り入れている六日町立城内小学校との交流を実施し、ともに稲作を行いながら情報交換や交流をとおして学ぶ機会を付け加えた。本校も校庭に田んぼをつくり、「新潟の田んぼ・六日町立城内小学校の田んぼ・本校校庭の田んぼ」の三者を比較・検討することによって、稲作への関わりを増やすことにした。本校の田んぼの世話については、新潟の農家の方をお招きして指導を仰いだり、「新潟の田んぼ」への稲刈りに赴く際は、現地の農家の方の指導を仰ぐのはもちろん本校の学習支援者を同行して稲刈りを行った。その際、六日町立城内小学校の５年生にも稲刈りの方法を教えてもらいながらの一緒の稲刈りとし、収穫の喜びを通して稲作の輪を広げるような活動に設定することとした。

○　全体の指導計画

・活動の名称　「私たちも日本一のお米を育て、おいしいご飯を炊いて食べよう」

・実施学年　　５年

・活動内容

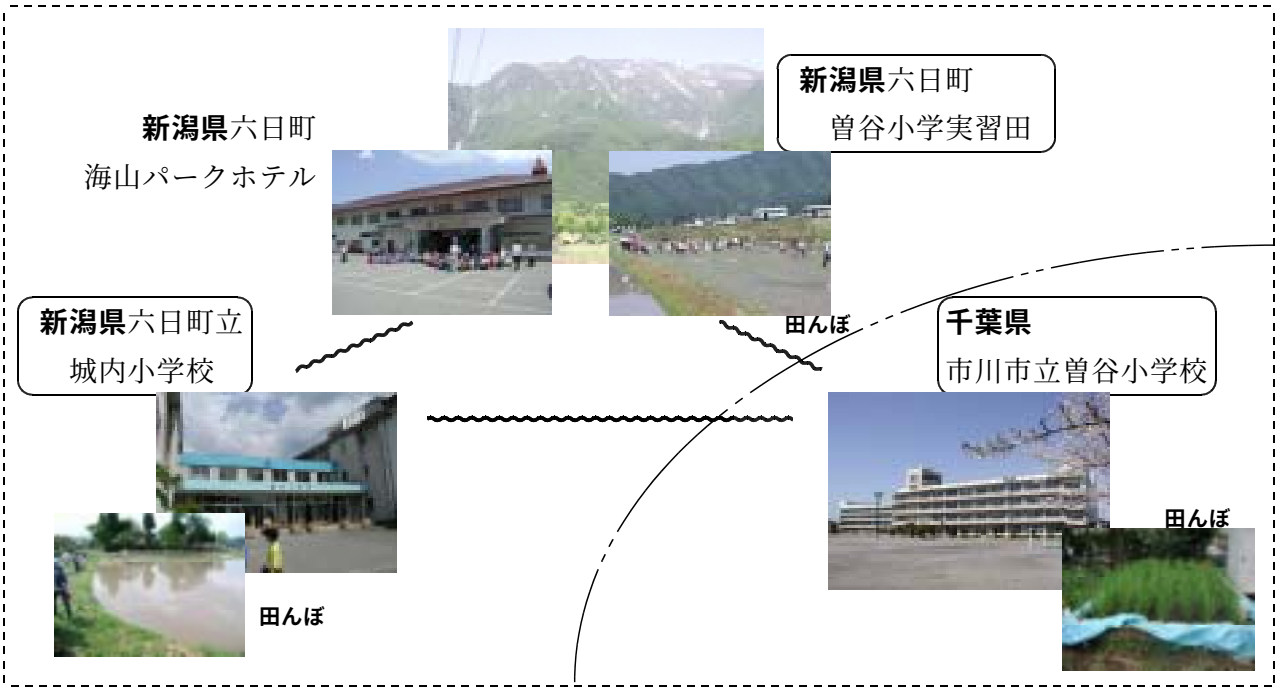
<table>
<tr><td>４～５月</td><td colspan="2">「庄内平野の米づくり」（社会）</td></tr>
<tr><td>５月中旬</td><td colspan="2">○新潟県六日町立城内小学校５年との交流開始（総合）
・ビデオレター　・インターネットメール</td></tr>
<tr><td>５月 29 ～ 31</td><td colspan="2">○新潟県六日町にて自然教室実施２泊３日（特活＋総合）
・田植え　・わらじづくり　・山菜採り
・蕎麦打ち　・城内小学校との交流会</td></tr>
<tr><td>６月
｜
↓
９／２５</td><td>曽谷小に田んぼを作ろう（総合）
曽谷小の田んぼに田植えをしよう（総合）
お米を育てよう（総合）
○曽谷小の田んぼ指導（総合）
・新潟の農家の方をお迎えして</td><td>城内小や現地農家代表とのインターネットメールやホームページによる情報交換</td></tr>
<tr><td>９／２９</td><td colspan="2">○新潟県六日町へ田んぼの稲刈り体験（特活＋総合）
・城内小学校との交流稲刈り</td></tr>
<tr><td>１０月
↓</td><td colspan="2">曽谷小の田んぼ稲刈り（総合）
脱穀・籾すり・精米・炊飯（総合）</td></tr>
<tr><td>１１／２２</td><td colspan="2">学習発表会（総合）</td></tr>
</table>

2　活動の実際

○　事前指導

社会科の「庄内平野の米づくり」の単元の学習を端緒に、稲作の学習が始まる。５年の自然教室では新潟県六日町の八海山の麗の田んぼへ田植えに出かけることから、城内小学校とのビデオレターでの交流を皮切りに、新潟の田植え体験へとつなげる。

○　活動の展開



城内小との交流開始　５月

曽谷小

城内小学校での交流会　5/29

新潟

城内小と一緒に田植え体験　5/30

新潟

新潟の指導者を迎えての学習　9/25

曽谷小

城内小と一緒に稲刈り体験　9/29

新潟

手作業で精米、そして炊飯へ

曽谷小

○　事後指導

学習のまとめを新潟の農家の方々へ発信し、新潟の農家の方と曽谷小の子どもたちの学びとをふれあわせ、学びの共有化を図る。また、城内小学校と、米づくりについて学んだことや感想を交換しあうことで、これまでの学習の振り返りを深化させていく。

３　体験活動の実施体制

○　学校支援委員会の体制

現地、新潟の支援体制は大変完備している。「田植え」や「わらじづくり」「蕎麦打ち」「山菜採り」などの体験活動に際し、常に児童７～８人につき１人の農家の指導者の方がついて指導をしてくれる。安全面でも、技術面でも、たいへん子どもたちの体験学習がレベルの高いものになっている。

また、JA 魚沼南との連携により、稲作の技術的な質問や子どもたちが疑問に思ったことについても、八海山パークホテル経由できめ細かに対応してもらえ、学習の質的な向上に役立っている。

本校の学校支援委員会も、新潟への稲刈りに際し同行し、稲刈りの指導を現地の農家の方々とともに行ってもらったので、効率よく稲刈りを実施することができた。

○　配慮事項等

指導者を多く確保できたことが、常に安全面で目の行き届いた体験学習をすることにつながった。現地、新潟の八海山パークホテルではすでに「農業体験大学校」という民間レベルでの体験プログラムを実施してきており、支援体制がすでに確立していたことによるところが大きい。

４　体験活動の評価の工夫と指導の改善

一つ一つの体験活動がばらばらで単発なものとならないよう、総合的な学習の時間の単元「私たちも日本一のお米を育て、おいしいご飯を炊いて食べよう」の中に位置づけるようにしている。学習の蓄積としてつねにポートフォリオを活用し、体験の感想はもとより、学習からわかってきたことやさらなる疑問などの学習の軌跡をとらえながら、評価資料を積み上げている。

体験学習の組み立ても、子どもたちの「稲刈りもやってみたい」といった意欲から、昨年度より新潟での「稲刈り体験」実施へとふみきり、「脱穀して残った藁を使って縄などをなってみたい。」という子どもの声から、今年度は地域の方々を指導者に学習発表会で「縄ない」を実施する予定である。

５　活動の成果と課題

今年で新潟へ田植えに出かけるのも４年目となり、体験学習の内容も毎年改善を加えてきた。今年は、①新潟に交流校を設定②曽谷小校庭での田んぼづくり③その田んぼ指導のための新潟の農家代表の方の招聘④新潟へ稲刈りの際の曽谷小地域・保護者の指導・支援などをつけ加えたので、子どもたちの意欲の持続に大きく貢献することができた。この結果、子どもたちから「藁縄をなう体験をしたい」とか、「今後も新潟城内小学校との交流を続けていきたい」といった感想がたくさんあがってきた。今後の社会科の学習「雪とくらし」でも、交流を生かして生き生きとした学習ができそうである。

現在、５年生をメインに行っている「豊かな体験」も、今回の交流体験がきっかけとなり、さらに６年生で継続発展させていける可能性がでてきた。６年生の六日町でのウインタースクールや、城内小学校６年生の修学旅行・校外学習における市川の史跡案内など、いくつかのアイディアが浮かんできている。ただ、新潟と市川という遠距離での交流であるために、その費用との折り合いをどうつけるかが実現の鍵となってくる。インターネット会議など、距離を縮める仕掛けなどを通すことによっても、体験を効果的に活用できるようにしていきたい。

【地域間交流に関わる体験活動】

環境保全に関わる林業体験活動
愛媛県宮窪町立宮窪中学校

学　校　の　概　要

① 学校規模
- ○ 学級数：５学級（内特殊学級１学級）
- ○ 生徒数：１０８人
- ○ 教職員数：１４人
- ○ 活動の対象学年：１年生・２９人

② 体験活動の観点などからみた学校環境
- ○ 人口３,０００人余りの水産業・石材業・農業を主産業とした町にある。また，毎月第１日曜日には『漁師市』，第３日曜日には『百笑市』，週末には『潮流体験』に訪れる観光客も多い。
- ○ 町は瀬戸内海の中央の大島にあり，海の自然に恵まれている。古くは，瀬戸内海交通の要衝として村上水軍が活躍し，近年は四国の水辺８８カ所に選出されるなど，豊かな自然が残る水軍の里としても知られている。今後更に，歴史と文化と観光の町としての発展が期待されている。
- ○ 学校教育に対して保護者や地域の方々のほか，関係機関も大変協力的であり，地域に根ざした体験活動を実施するうえで恵まれた環境にある。

③ 連絡先
- ○ 〒　７９４－２２０３
  愛媛県宮窪町大字宮窪２８８６
- ○ 電　話：０８９７－８６－２００２
- ○ ＦＡＸ：０８９７－８６－２２４８
- ○ 電子メール：
  jr-high1@town.miyakubo.ehime.jp

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい
- ○ 久万町は宮窪町とは対照的な山間地域であり，生活や気候条件，産業において海と山との典型的な違いをもっている。地域に根ざした体験活動だけでなく，このような異なった環境の中での自然体験や林業体験を充実させることにより，生徒たちに豊かな人間性や社会性を育てることをねらいとしている。

② 活動内容と教育課程上の位置付け
（単位時間数・日数）
- ○ 自然体験・林業体験(２泊３日)
  (特別活動１２単位時間・２泊２日)
  （総合的な学習の時間６単位時間）
- ○ 浜地区の産業(漁業）の体験活動
  （総合的な学習の時間６単位時間）
- ○ 能島の歴史を学ぶ活動
  （総合的な時間６単位時間）
- ○ 環境保全活動
  （総合的な学習の時間４単位時間）
- ○ 福祉体験活動
  (総合的な学習の時間４単位時間）
- ○ 高齢者介護教室
  （総合的な学習の時間２単位時間）
- ○ 四阪島について学ぼう
  （総合的な学習の時間６単位時間）
- ○ 手話教室
  （総合的な学習の時間４単位時間）
- ○ ふるさと史跡めぐり
  （総合的な学習の時間６単位時間）

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

校区の宮窪町は，瀬戸内海の中央の大島にあり，海の自然に恵まれた町であり，水産業・石

材業・農業を主産業としている地域である。交流地域である久万町は，宮窪町とは対照的な山間地域であり，生活や気候条件，産業において海と山との典型的な違いをもっている。特に，林業や農業などは瀬戸内海の島しょ部では，その違いを実際に目にすることはできない。

地域に根ざした体験活動だけでなく，このような異なった環境の中でのさまざまな体験活動を充実させることにより,生徒たちに豊かな人間性や社会性を育てることをねらいとしている。

（2）全体の指導計画　　（ ※　受入地域での活動 ）

月	第　1　学　年	時間	教育課程上の位置づけ	関　連　教　科　等
5	自然体験・林業体験 （1） 石鎚登山 （2） マスのつかみ取り （3） 飯盒炊飯 （4） キャンプファイヤー （5） 林業体験 ※	１８ (12) （6）	特別活動 総合的な学習の時間	 理科：植物の生活と種類（１年５月） 理科：自然と人間の共生（３年１月） 国語：森は海の恋人(３年７月）
7	浜地区の産業の学習 （1） 心肺蘇生法の実習 （2） 郷土料理の実習 （3） ロープワーク （4） 櫓漕ぎ体験 能島の歴史を学ぶ活動 （1） 能島の歴史を学ぶ活動 （2） 能島城跡の除草と見学 （3） 潮流体験 環境保全活動	6 6 4	総合的な学習の時間 総合的な学習の時間 総合的な学習の時間	国語：かけがえのない地球(１年７月） 国語：里山を歩く（１年７月） 保体：人工呼吸法（３年７月） 理科：生物の細胞と成長（２年３月） 家庭：地域の食材を使った調理 （１年７月） 理科：植物の生活と種類（１年５月） 社会：身近な地域の調査（１年10月） 理科：自然と人間の共生（３年１月） 国語：森は海の恋人(３年７月）
3	ふるさと史跡めぐり	6	総合的な学習の時間	道徳：二つの故郷（１年３月）
合計	５６			

2　活動の実際

（1）事前指導

学年主任が事前に愛媛県林業センターを訪問し，職員の方々と林業体験活動の目的や活動計画・活動内容についての細かい打ち合わせを行った。

生徒たちは林業についての知識がきわめて少なく，林業体験は全く初めてであるため，林業センターでいただいた資料をもとに，森林のはたらきや林業に関する基礎知識，体験活動時の安全等について事前指導を行った。

（２）活動の展開

〔オリエンテーション〕

最初に，交流先にあるふるさと旅行村で，林業センターの織田研修課長さんから林業体験活動の目的や活動日程，活動内容等について，ビデオを視聴しながら説明を受けた。

〔杉の伐木体験をする生徒〕

〔講　話〕

織田研修課長さんから『森林と私たちとの関わり』についての講話をしていただいた。生徒たちは最初，全員が，木を切ることは悪いことだと考えていたが，講話を聞いた後では，木を切ることはやり方次第では悪いことではなく，森林環境を守るためにも必要であるという考え方に変わっていった。

〔森林についての学習〕

生徒たちはふるさと旅行村から森林へと歩いて移動した。西原主任さんから『樹木の仕組み』について，パネル等の資料を使いながら分かりやすく講話をしていただき，樹木の自然界での働き，人間の生活との関わり，よい森林の見分け方などを学んだ。

〔昼　食〕

生徒たちは木々の間から射してくる日射しを見つけ，思い思いの場所で伐木などの椅子を探し，森林の中の心地よさを味わいながら昼食をとった。

〔伐木体験〕

林業センターの職員の方々の伐木の仕方を見学した後，林業センターの職員の方々の指導を受けながら，樹齢４０年ほどの杉３本と檜１本の伐木体験を行った。樹木へのロープの掛け方や倒し方，チェンソーの使い方，倒す方向，安全確保の仕方など，聞くこと･見ること･することすべてが生徒にとっては初めての経験であったが，感動的な体験活動が実施できた。最後に，生徒たちは実際にチェンソーを使って木の輪切りを体験し，それを記念に持ち帰った。驚きと感動がいっぱいの林業体験は，生徒たちにとって大変貴重な体験となった。

（３）事後指導

事後指導では，林業体験の取組についての自己評価をさせた後，体験を通して学んだことや感想を各自まとめさせた。また，参観日や全校集会で学習発表を行うため，班ごとに林業体験についてトリノコ用紙に分かりやすくまとめ，効果的な発表方法についても話し合う時間を設定した。

7月には地域の海の環境を守る活動の一環として環境保全活動を行ったが，林業体験で学んだことと合わせて環境保全について考えさせた。また，他教科等との指導の関連も図りながら，自然を愛する心や環境保全に取組む態度を育てる指導を行った。

３　体験活動の実施体制

（１）学校支援委員会の体制

地域に根ざした様々な体験活動や山間地域での林業体験を実施していく上で，保護者や地域の方々，教育委員会や関係諸機関との連携は不可欠である。そのため，関係諸機関や施設，活動の指導者については，年度当初に依頼をするとともに，指導者については学校支援委員会の

構成委員になっていただいた。

学校の推進体制としては，全教職員で構成する事業推進委員会で，体験活動の事前の計画・事後の反省について話し合う機会を持つようにしているが，学校支援委員会の方々には，活動前に事前打合せを行い，体験活動の目的や活動日程，活動内容等について十分話し合うようにしている。また，活動実施後は次年度に向けての改善点を話し合うようにしている。どの方々も学校教育に大変協力的であり，体験活動が円滑に実施できている。

（２）地域間交流プログラム開発委員会との連携

８月に開かれた委員会において，取組状況等について報告を行った。協議の場において委員から，本校が実施している多様な体験活動を環境の観点から整理してみると，活動全体のまとまりが一層明確となり，他校の参考になりやすいのではないかとの助言を得た。

（３）配慮事項等

必要に応じて事前に活動現場の下見を行い，安全指導面での指導の徹底を図るとともに，実際に活動する際にも生徒の安全確保に努めている。また，調理等を伴う活動においては，食材に火を通すことを活動の前提としている。

学校支援委員会の方々に指導を依頼する場合にも，前もって活動の計画を提示し，事前打ち合わせ段階で，体験活動を行う上での安全面での配慮をしてもらうようにお願いをしている。

４　体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動を実施した後，体験を通して学んだことや感想をまとめさせるだけでなく，活動のねらいに照らした生徒一人一人の取組について自己評価させるようにしている。

また，学校支援委員会の方々や校内での事業推進委員会で事後の話し合いの場をもち，次年度に向けての改善点を話し合い，指導の改善に生かすようにしている。

５　活動の成果と課題

〔成果〕

○　浜地区の産業(漁業）の体験活動，能島の歴史を学ぶ活動，宮窪瀬戸での潮流体験等，地域に根ざした豊かな体験学習を通して，ふるさとのよさを再発見し，ふるさとを大切にする心が育ってきている。

○　高齢者介護教室や手話教室等の社会奉仕体験活動を通して，人を思いやる心が育ってきている。

○　面河村での自然体験，地域の海の環境を守る活動や久万町での林業体験を通して，自然を愛する心や海や森林の環境保全に取組もうとする態度が育ってきている。

○　保護者や地域の方々の協力を得ながら，地域に根ざした体験活動を毎年継続して実施することにより，学校と地域の一体化が図られ，体験活動にも深まりがでてきた。

〔課題〕

●　総合的な学習の時間や特別活動の中で行った体験活動と各教科や道徳との関連を図った指導をより一層充実させ，相互に補完し合えるような指導のあり方を検討していく必要がある。

●　体験活動が単なる体験だけに終わることなく，生徒達に豊かな人間性や社会性を育てる体験活動となるよう事前・事後の指導の充実を図るとともに，指導の改善を図る必要がある。

●　指導に生かす体験活動の評価の在り方について，今後更に検討していく必要がある。

【小学校・地域間交流に関わる体験活動】

夜須町まるごと体験隊～人・仕事・自然に学ぼう～

福岡県春日市立日の出小学校

学　校　の　概　要

①　学校規模

○　学級数：１２学級
○　児童数：３６３名
○　教職員数：２０名
○　活動の対象学年：５年生・５１人

②　体験活動の観点などからみた学校環境

○　春日市は福岡市のベッドタウンとして発展し，本校区は交通量が多く，ほとんどが宅地・マンションで構成されている。
○　自然環境に乏しく子どもの遊び場は運動場，もしくは点在する小さな公園である。
○　本校は開校５年目で，当初から学校・保護者・地域の三者のかかわりを重視し，地域に密着した学校づくりに努めてきた。

③　連絡先

○　〒８１６－０８７３
福岡県春日市日の出町３丁目１番地１０
○　電　話：０９２－５７２－４４５１
○　ＦＡＸ：０９２－５７２－４４４５
○　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/
○　電子ﾒｰﾙ：hinodee@edu.fit.ac.jp

体　験　活　動　の　概　要

①　活動のねらい

○　農家の方と共に働き汗を流し，農業の難しさ・大切さ，喜びを実感する。
○　農家の方との仕事をとおしたふれあいを図ることで，社会性を高める。
○　自分たちが住む地域と異なる環境にある地域のよさを実感し，愛着を高める。

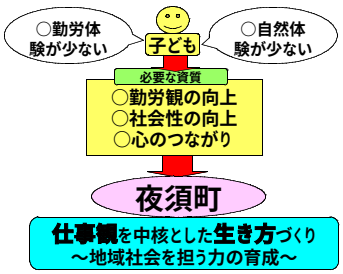
②　活動内容と教育課程上の位置付け

○　調査・準備活動
（総合的な学習の時間１９時間）
（社会科１時間）
◎　夜須町での農業体験活動
（総合的な学習の時間１０時間）
○　自然の家での自然体験活動
（総合的な学習の時間１０時間）
○　農業体験の振り返り・交流活動
（総合的な学習の時間２７時間）
（社会科１時間）
○　春日市・夜須町発表交流会
（総合的な学習の時間２時間）

計７０時間

1　活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい



本校区は概要でも前述したとおり，校区のほとんどが宅地・マンションであり，自然環境に乏しいため自然体験が不足している。また，開校当初から生活科・社会科を中核にしながら地域のよさを学びとり，自らの生き方へと高めてきた。そこで，自然豊かで農業が盛んに行われている夜須町（毎年，宿泊学習で利用）を豊かな体験の場として選定し，生産にかかわる仕事を核に以下のような目標を設定した。

○　農家の方と共に働き，汗を流すことで，勤労の難しさ・大切さ，そして喜びを実感させる。
○　農家の方の働く姿を真正面から見つめさせることで，生き方を考えさせる。
○　農家の方と仕事をとおしたふれあいを図ることで，社会性を高める。
○　自分たちが住む地域と異なる環境にある地域のよさを実感させる（第２のふるさと作り）。

(2) 全体の指導計画

ア　活動の名称➡　**「夜須町まるごと体験隊～人・仕事・自然に学ぼう～」**

イ　実施学年　➡　第５学年

ウ　活動内容　➡「調査・準備活動」「農業・自然体験活動」「振り返り・交流活動」「交流会」

エ　教育課程上の位置付け➡　総合的な学習の時間 約６８時間　社会科２時間

オ　単元計画

学期	月	活　動　内　容	配時	教科等関連・泊数・留意点等
一学期	6	**1　社会科学習を振り返り，農業体験への意欲を高める。**	6	
		(1)社会科学習における「農業」の仕事を振り返り，農業への関心を高める。	②	社会科 ○米作りが盛んな庄内平野と筑後平野 ○野菜作りが盛んな甘木・朝倉地方
		(2)夜須町の概要について調べ，春日市と比較する。 ・産業　・面積　・土地の使われ方　など	③	**農家との活動内容調整**
		(3)調べたことを出し合い，農家の人々の思いについて焦点化し，農業体験への意欲を高める。	①	
		夜須町まるごと体験隊～人・仕事・自然に学ぼう～		
	7	**2　第１回自然教室の準備と夜須町での農業体験等を行う。**	18	
		(1)体験先の農家を知り，体験内容を選ぶ。	①	**農家との活動内容調整**
		(2)各グループで体験に向けて課題を設定する。	③	
		(3)オリエンテーションを受ける。	②	
		(4)農業・自然体験を行う。	⑩	国立夜須高原少年自然の家 一泊二日
		(5)農業・自然体験の成果と課題をまとめる。	②	
二学期	10	**3　第２回自然教室の準備と夜須町での農業体験等を行う。**	21	**農家との活動内容調整**
		(1)１回目の活動を振り返り，新たに計画を作る。	③	
		(2)各グループで体験に向けて課題を設定する。	③	社会科 ○これからの食料生産
		(3)オリエンテーションを受ける。	②	
	11	(4)農業・自然体験を行う。	⑩	国立夜須高原少年自然の家 一泊二日
		(5)農業・自然体験の成果と課題をまとめる。	②	
		(6)農業に携わる人々のこだわりや思いについて考える。	①	社会科 ○これからの食料生産
	12	**4　これまでの体験を振り返り，学んだことを見つめ直す。**	8	
		(1)自分の成果と課題を振り返る。	②	**農家との活動内容調整**
		(2)グループで話し合い，自分たちの学びを整理する。	②	
		(3)学びを全体交流し，成果の発表への意欲を高める。	②	
		(4)グループごとに発表の構想を立てる。	②	
三学期	1	**5　一年間の活動をまとめる。**	17	
		(1)グループごとに発表・説明資料作りを行う。	⑩	
	2	(2)相互に発表内容を吟味し，内容を付加・修正する。	⑤	
		(3)夜須町の農家の方を招き，日の出町で発表会を行う。 【児童・保護者・地域住民・夜須町農家との交流会】	②	春日市・夜須町交流会

2　活動の実際

(1) 事前指導

【インターネットの利用】

【パンフレットの活用】

まず，夜須町の概要（土地の使われ方・主な産業・特産物など）をインターネットや夜須町のパンフレットを中心に調べる活動を行った。そして春日市と比較していく中で，自然が多く農業が盛んな地域であると認識を高めていった。

(2) 活動の展開

具体的な体験活動として７月と１１月に夜須町の農家７件に分かれて農業体験を行った。都心部で生活する子どもたちにとっては，どんな仕事も新鮮だったようである。実際に体験したことで，仕事の大変さや難しさと共に，農家の方の生産物に対する思いを十分に感じ取っていくことができた。

【A班･田植箱の積込】

	1回目体験内容	2回目体験内容
A班	･ビニルハウス片づけ ･田植え箱洗い	･サツマイモ収穫 ･ナスビニルハウス見学 ･古代米稲刈り
B班	･ビニルハウス片づけ ･花摘み ･自然散策	･菊の下葉とり ･ビニルハウス清掃 ･自然散策
C班	･キュウリ収穫 ･トマト収穫 ･山散策	･ねぎ畑除草 ･キュウリ収穫 ･サツマイモ収穫
D班	･キュウリ収穫 ･キュウリ手入れ	･椎茸収穫 ･椎茸パック詰め
E班	･子牛毛繕い ･牛舎清掃	･牛舎清掃･餌やり ･牧草の種まき
F班	･炭だし ･炭割り･炭袋詰め ･川遊び	･炭の火入れ ･農業機器見学 ･古代米収穫
G班	･柿の摘果 ･里芋畑除草	･柿･里芋の収穫 ･干し柿づくり

【B班･ﾋﾞﾆﾙﾊｳｽ片づけ】

【C班･トマト収穫】

【D班･椎茸の収穫】

【E班･牛の餌やり】

【F班･炭の窯だし】

【G班･柿の摘果作業】

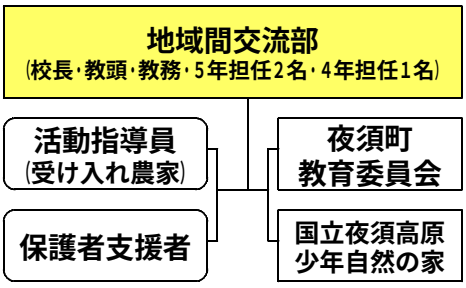
(3) 事後指導

子どもたちは農業体験で感じたことや学んだことについて,個人やグループで振り返っていった。具体的には目標で掲げている「勤労観」･「生き方」･「ふれあい」･「夜須町のよさ」について振り返っていった。

このような振り返り活動をとおして，農業体験によって芽生えた思いを自分の見方・考え方・価値観として高めていった。そして，最後の春日市・夜須町の交流会に向けて，内容を精選させながら，各グループごとのプレゼンテーション作りを行っていったのである。

3　体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会の体制



【学校支援委員会の組織図】

【第1回活動指導員連絡会の様子】

月	主な取り組み	内　　容
3月	・受け入れ農家選定 (夜須町教育委員会・自然の家・三並小学校訪問)	・各種団体への趣旨説明と協力依頼 ・各種団体へ現地訪問し，趣旨説明と協力依頼
4月	・受け入れ農家決定	・７件の協力農家の確認とリスト作り
5月	・保護者全体説明会	・５年生保護者全体へ地域間交流の趣旨と全体計画の説明
	・第１回活動指導員連絡会	・受け入れ農家への地域間交流の趣旨説明と日程・内容確認
6月	・農家視察会 (交流部・保護者支援者合同)	・交流部と保護者支援者での現地視察(活動場所・安全確認)
7月	・保護者支援者説明会	・保護者支援者への支援内容及び緊急時対応の共通理解
12月	・第２回活動指導員連絡会	・地域間事業の反省と協議，及び３学期交流会の計画

(2) 地域間交流プログラム開発委員との連携

(3) 配慮事項等

教　師	保護者支援者	農　家
【事前】 ○活動場所・内容把握 ○緊急時対応 マニュアル作成 ○支援者への協力内容説明 ○支援者連絡網作成 【当日】 ○活動場所・内容把握 ○児童の安全状況把握 ○活動時間コーディネート	【事前】 ○活動場所・内容把握 ○支援内容共通理解 ○現地視察 【当日】 ○児童の健康観察 ○児童安全状況把握	【事前】 ○体験内容吟味 ○活動場所吟味 (安全を考慮して) 【当日】 ○児童の健康観察 ○児童安全状況把握

活動に際して最も留意したのは安全面である。保険の加入はもちろんのこと，７月と１１月という季節に応じた活動時間や内容・給水・食事など特に綿密に打ち合わせを行った。そして緊急時における移送病院先，対応マニュアル，連絡網を準備した。

4　体験活動の評価の工夫と指導の改善～より多面的な評価を目指して～

○　各活動における個人の自己評価

○　児童へのアンケート調査（設定した地域間のねらいの観点ごとに）

○　保護者アンケート (支援者による児童の活動観察・活動形態や内容評価，保護者全体への地域間交流の取り組みに関するアンケート)

5　体験活動の成果と課題

○　子どもたちは，仕事の大切さと共に，自分たちの生活が第１次産業に従事する人々によって支えられているという実感を高めていくことができた。

○　体験の場を繰り返し設定したことで，農家の方や夜須町へのかかわり意識を高めていった。

●　活動調整面（農家との連絡調整）や費用面（受益者負担の原則）の工夫が必要である。

◎　関係者と協議を重ねながら，来年度も仕事体験を中心に地域間交流に取り組んでいく。

推　進　地　域

【豊かな体験活動推進地域】　愛知県日進市教育委員会

【日進市の概要】

日進市は名古屋市の東部に隣接し，名古屋市と豊田市のベッドタウンとして近年県内屈指の人口増加地域となっている。田園地区と高層マンション地区が混在し，古くからあるものと新しいものとの両面の顔を持っている。また，平成６年１０月に市制を施行した若い都市である。

近年の急激な人口増加のため，新たに日進市で生活を始めた子どもが増えてきている。

〈日進市の特色〉

- **豊富な自然**
- **伝統文化の継承**
- **宅地化の進行・高層マンションの増加**
- **国際化**
- **福祉推進**

〈子どもの実態〉

- **明るくのびのびしている**
- **素直である**
- **生活体験が少ない**
- **自然体験が少ない**
- **人とのかかわりがせまく限られている**

まだまだ残っている自然（森，林，川，池，湿原など）を体験活動の場にしたり，田や畑を借用して栽培活動をしたり，市内の福祉施設や公共施設でボランティア活動をしたり，地域の方々と交流したりすることが十分可能な地域である。

また，各小学校区の家庭教育推進委員会などによる地域活動が盛んである。

【内容】

１　活動に関する地域の全体計画

(1) 取組のねらい

取組にあたっては，地域や子どもの実態をふまえ，めざす子ども像を明らかにして，地域の特色を生かし，地域との連携の中でモデルとしての「豊かな体験活動」を推進している。そして，多様な体験活動の機会の充実を図り，子どもたちの思いやりの心をはじめとする豊かな人間性，社会性をはぐくむことをねらいとしている。

また，平成１４年度の取組の反省から「豊かな体験活動」「豊かな人間性」といった言葉について再度吟味し，具体的な子ども像で定義した。それにより市内の全教員の理解を図り，具体的な学習活動や評価方法を工夫している。

「豊かな体験活動」とは

子どもがいろいろな価値に出会う，子どもの心が動く，
ねらいを明確にした，多様で十分な直接体験活動

「豊かな人間性」とは

感動する心　**感謝する心**　**向上する心**　**思いやる心**　**奉仕する心**

(2) 地域全体の計画

各校が単元構想全体の中で，各々の体験活動が果たす役割を明確にし，体験活動の前後の学習活動を工夫しながら実践を進めている。

また，各校の取組を同じような活動にそろえるのではなく，学校や地域の特色を生かした多様な体験活動を展開していくことを前提にしている。

〈研究主題・構想図〉

日進市の特色　**子どもの実態**　**今日的課題**

研究主題

子どもたちの豊かな人間性と社会性の向上をめざして

― 生（い）・食（しょく）・住（じゅう）を中心とした地域・社会とかかわる体験活動を通して ―

めざす子ども像

自分や自分を取り巻く地域・社会を知り，自己を生かす生き方を模索できる子ども	自然の恵みの豊かさに感謝するとともに，進んで人とかかわろうとすることができる子ども	地域の一員としての自覚をもち，進んで地域にかかわろうとする子ども

「生（い）」領域

様々な時代や地域の人々のくらしと文化にふれる体験活動

- 外国の文化や生活を知る体験活動
- 古の人々の知恵や工夫を知る体験活動
- 地域での職場体験活動
- 選択教科を生かしたミュージカル創作活動

「食（しょく）」領域

食物の栽培や食べる工夫をする体験活動

- 食物の栽培体験活動
- 収穫物を活用した調理体験活動
- 人とのかかわりを深める「食」の体験活動

「住（じゅう）」領域

地域の自然や人とかかわる体験活動

- ごみ問題を考える体験活動
- 天白川にかかわって自然環境を考える体験活動
- 「生活を潤す水」を調べる体験活動
- 福祉にかかわる体験活動

学校・家庭・地域

地域に住む外国人との交流活動

専門家との栽培活動

地域の人と源流探検

地域での職場体験活動

周りの人とかかわりをもった米の活用

高齢者との交流活動

市内すべての小中学校（小学校７校，中学校３校）が推進校となるため，小中学校長の代表や教頭，教務主任，校務主任の各代表，各小中学校担当者，市教育委員会担当者による「豊かな体験活動」研究推進委員会を発足させ，推進地域としての研究推進の原案作成，各校の取組やその評価について検討している。

また，各校の中心となる体験活動のねらいによって，各校研究推進者を３つの領域（「生」「食」「住」）に分け，各領域ごとに研究推進部会を開催し，各校の体験活動実践者（授業者）の代表を加え，各体験活動のより具体的・実践的な部分について検討している。

特に本年度は，「豊かな人間性」の５つの心（感動する，感謝する，向上する，思いやる，奉仕する）の内，各領域と深くかかわっている心を明確にして実践を進めている。

〈例：「食」領域と「豊かな人間性・社会性」〉

感動する心	○小さな種や苗から大きな収穫が得られる驚き ○苦労して育てた作物を手にしたときの喜び ○自ら育てた作物を食材として調理して食べたときの思い
感謝する心	○自分たちとかかわった人たちに抱いた感謝の気持ち ○自然の恵みに感謝する気持ち
向上する心	○感謝される喜びを知ったうえでの活動への意欲 ○自分の手で育てる，つくる，人に役立つ自信

(3) 学校段階に応じた体験活動の工夫

「生」「食」「住」の各領域とも，「低学年：かかわる」「中学年：試みる」「高学年：働きかける」「中学生：共に生きる」といった発達段階に即した取組となるよう活動内容や期間などを工夫している。（「中学生：共に生きる」は「生」「住」のみ）

〈例：「生」領域の発達段階に即した取組〉

低学年	中学年	高学年	中学生
かかわる	試 み る	はたらきかける	共に生きる
・地域の人との交流（昔の遊び） ・外国人講師による英語活動 ・生いたち調べ ・１･２年交流活動	・地域の人との交流（昔のくらし） ・昔の生活体験(機織り，紙漉，藍染) ・ＮＩＡ※大使との交流 ・外国人講師による英語活動	・地域の人との交流（外国の生活） ・先人の生き方を学ぶ（道具の工夫） ・外国の料理，家，遊びの調査 ・外国人講師による英語活動	・保育実習 ・職場訪問 ・職業体験 ・上級学校訪問 ・ミュージカルづくり ・ＮＩＡ大使との交流

※NIA=Nisshin International Association(日進市国際交流協会)

2　体験活動の実施体制

推進校間の連携・連絡調整を図るとともに，市内関係行政機関や関係諸団体が子どもの体験活動に対して支援・協力できるような体制づくりをめざして，年３回の開催を原則とした「日進市豊かな体験活動推進地域協議会」を設置した。

また，各校の体験活動を支援するため，保護者，地域の自治会，社会教育関係団体，青少年団体等の関係者で構成する「学校支援委員会」を各校に設置した。各校ごとに必要に応じて開催し，地域講師の選定や地域・ＰＴＡとの連携推進の方法等についても協議を進めている。

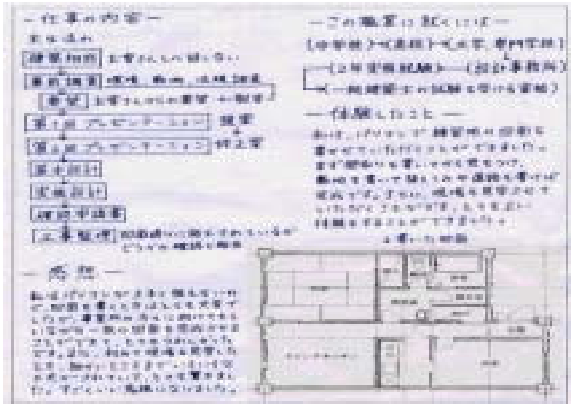
〈日進市豊かな体験活動推進地域協議会〉

○関係団体
○教育委員会
○学校（小，中，高）
　・社会福祉協議会　・子ども会連絡協議会　・老人クラブ連合会
　・ＪＡあいち尾東　・シルバー人材センター　・ＰＴＡ連絡協議会
　・家庭教育推進連絡協議会　・商工会
○市役所関係課（・水と緑の課　・環境課　・産業振興課　・市民交流課　・まちづくり推進課）の各代表

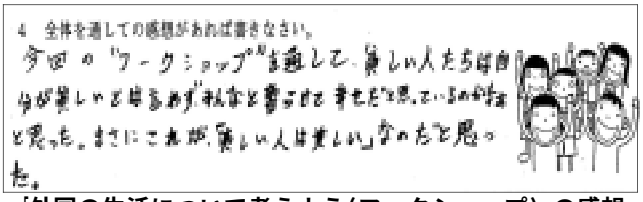
3　体験活動の評価の工夫と指導の改善

各々の体験活動において，めざす子ども像をより具体的なものとした評価項目を設定し，子どもの発言内容や活動の様子，プリントやレポートへの記述内容から，子どもの変容（体験によって育ってきたものと育っていないもの）をとらえようとした。

また，教師や保護者へのアンケート，地域の人（体験活動の協力者）の感想も参考にした。



「職場体験活動」のレポート



「外国の生活について考えよう(ワークショップ)」の感想

学校から持ってきたキュウリを食べました。自分で作ったキュウリを、みんなに「おいしい」と言って食べてもらえたことがうれしかったらしく、その日はずっとキュウリの話をしていました。
キュウリだけでなく、お友達の野菜を見て、花の後にできることや、大きくなる過程が見られてよかったようです。
このごろ、包丁を使うことにも興味が出てきて、毎日キッチンで切るものを探しています。

「栽培活動」の保護者の感想

4　成果と課題

(1) 成果

○　教育課程の生活科・総合的な学習の時間に，地域と深くかかわる体験活動を位置づけて実践に取り組んできた。子どもたちの問題解決学習の過程にねらいを明確にして体験活動を組み込むことで，課題を自分のものとし，実感を伴って学ぶ子どもの姿が見られた。

○　地域・社会に直接ふれ，地域の人から学ぶことを重視した体験活動により，子どもたちは様々なことに気づき，心を動かし，学んできた。地域の人，友達など多くの人たちとかかわって活動することで，感謝する心や相手を思いやったりする心などが自然にはぐくまれてきた。夏休み中に高齢者宅を訪れたり，ボランティア活動に取り組むなど自主的な活動が見られた。

○　市内の全小中学校が連携して研究に取り組むことで，体験活動のあり方を深く追究したり互いに情報交換をしたりして，自校の取組を見直し，充実させる機会となった。

(2) 課題

○　小中学校９年間の発達段階をふまえ，系統性を考えた体験活動を各中学校区において体系化させていくことが必要である。

○　教師が自主的に地域にかかわり，子どもたちの体験活動の場となる地域を十分に知り，教材を開発していくことが今後も求められる。

○　学校での体験活動がさらに子どもたちの生活に生かされるように，地域と学校との連携を一層深める必要がある。

○　地域とかかわった体験活動がこれから子どもたちの生き方にどのような影響を及ぼすのか，子どもの成長過程を追って調査をしていくことが必要である。

郷土を愛し、豊かな心を育む体験活動の創造～地域連携、異校種間連携の推進～

伊万里市豊かな体験活動推進地域協議会（伊万里市教育委員会）

【概要】

○　地域の概要

・　伊万里市は、農業が基幹産業であり、伊万里梨や伊万里牛などは、産地としてのブランドも確立している。また、全国的に有名な「伊万里焼」の産地として陶磁器の生産も盛んである。

・　伊万里湾を懐に抱き、山、河、海それぞれ自然環境に恵まれている。特に、カブトガニの産卵地である「多々良海岸」や、京都の壬生寺から持ち帰ったと言われている「明星桜」等、既に、地域学習の素材として活用されている。

○　地域の学校における状況

・　各学校においては、地域の特性（産業、自然環境、文化等）を生かした学習活動を展開しつつあり、地域素材の教材化には前向きである。しかし、一方で伊万里の伝統産業や伝統文化等の扱った学習については、学校間の格差等もあり、地域やふるさとへの誇りがなくなってきているという指摘もある。

【内容】

1　活動に関する全体計画

(1)　取組のねらい

１年次の成果や課題を踏まえ、また、２つの中学校区に属する小・中・高等学校を推進校としていることから、２年次は、次のねらいの下、研究を進めていった。

①　校種間の連携を図り、校種間交流の在り方を追究する。

②　地域の人との交流に重きを置いた活動や地域に働きかけるような活動を工夫する。

③　伝統産業や伝統文化を守り、継承する体験活動を工夫する。

④　市内の小・中・高校における豊かな体験活動の円滑な展開を推進するため、啓発に努める。

(2)　地域全体の計画

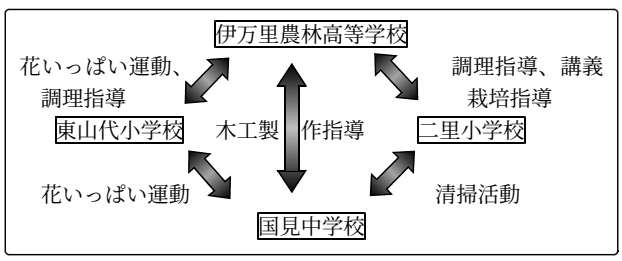
ア　活動内容及び実施期間等

推進校	学年等	体験活動の種類・内容	期間・日数・単位時間数	教育課程城の位置付け	活動の場所	活動の対象	学校間の連携
伊万里小学校	６年	ゴミ拾い体験	７日１８時間	総合的な学習の時間	学校、地域	地域の自然・環境	地域及び関係公共機関との連携を中心に取り組む
	６年	伊万里川等の水質調査	７日１８時間	総合的な学習の時間	学校、地域	地域の自然	
	６年	焼き物作り体験	７日１８時間	総合的な学習の時間	学校、地域	伝統・文化・芸術	
	６年	祭り体験	７日１８時間	総合的な学習の時間	学校、地域	伝統・文化・芸術	
	６年	白壁土蔵等の調査	７日１８時間	総合的な学習の時間	学校、地域	伝統・文化・芸術	
	６年	地域の方々との交流	１０日１０時間	総合的な学習の時間	学校、地域	地域の人々との交流	
	６年	茶道	１５日１５時間	学級活動、道徳	学校、地域	伝統・文化・芸術	
牧　島小学校	４～６年	りんりんロード調査 多々良海岸調査	２日１０時間	総合的な学習の時間	りんりんロード 多々良海岸	りんりんロード 多々良海岸	カブトガニの調査等については、伊万里高等学校の教諭、生物部の生徒から指導を受けている。
	４～６年	「カブトガニ」 パンフレット作成	１日５時間	総合的な学習の時間 国語	教室	カブトガニ	
	４～６年	多々良海岸清掃	１日時間	総合的な学習の時間	多々良海岸	多々良海岸	
	４～６年	りんりんロード除草作業	２日１０時間	総合的な学習の時間	りんりんロード	りんりんロード	
	４～６年	カブトガニの産卵を見る会	１日４時間	総合的な学習の時間	多々良海岸	多々良海岸	
	４～６年	学習のまとめ（９月）	１日４時間	総合的な学習の時間	教室	活動全般	
	４～６年	運動会への招待（９月） 感謝の会への招待（11月）	１日４時間 ２日１０時間	特別活動 特別活動、音楽	学校	支援委員会 指導者	

推進校	学年等	体験活動の種類・内容	期間・日数・ 単位時間数	教育課程城の 位置付け	活動の場所	活動の対象	学校間の連携
二　里 小学校	１年	芋を作る(畑作り～収穫) 花育て、６年生に贈る	６～１０月 １０～３月（７日間）	生活科	生活科畑 学級園	植物	伊万里農林高等学校の生徒から指導を受ける。 ３年生、４年生
	２年	生き物とともだち	６～９月（７日間）	生活科	学校及び周辺 田平昆虫館	昆虫及び 生物	
	３年	大豆を栽培し、豆腐・納豆等を作る	４～３月（７日間）	総合的な学習の時間	学校及び周辺	植物（大豆）	
	４年	身の回り菌について調べ、発酵食品を作るまでの活動	４～３月（９５時間）	総合的な学習の時間	学校、伊万里農林高等学校	微生物（菌）	
	５年	二里町の自然・地域の人々を知ろう 宿泊自然教室	４～３月（４０時間）	総合的な学習の時間	公民館、地域、学校、波戸岬少年自然の家	自然・地域	
	６年	やじりや土器、石器等を作り縄文体験をする	４～３月（７日間）	社会科、図工、理科	腰岳 学校	自然（土、黒曜石等）	
東山代 小学校	５年	○勤労生産体験～花の栽培 ○社会奉仕体験 地域の美化清掃 栽培した花の定植	約４５時間	総合的な学習の時間	校区内	地域の環境	伊万里農林高等学校の生徒から指導を受ける。
啓　成 中学校	全学年	ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動	半日で学期に１回 （４時間×３） 計１２時間	総合的な学習の時間	伊万里市内	本町商店街 公共の広場 通学路	地域や関係機関との連携を中心に取り組む。
	２年	職場、職業、就業に関わる体験活動	６日間３６時間 (1,2学期に3日ずつ)	総合的な学習の時間	伊万里市内	商店街、小売店 サービス業 公共施設、保育園	
	１年	職場の様子、職場の内容、就業に関わる調査活動	３日間１８時間	総合的な学習の時間	伊万里市内	商店街、小売店 サービス業 公共施設，保育園	
	１年	宿泊訓練	３日間１８時間	総合的な学習の時間	黒髪少年自然の家		
国　見 中学校	１年	宿泊体験学習	３日間	特別活動	黒髪少年自然の家	地域の環境	伊万里農林高等学校の生徒から指導を受ける。 二里小学校との共同作業。
	１年	有田川河畔等清掃活動	２時間	総合的な学習の時間	有田川河畔	地域の環境	
	１年	花いっぱい運動	１８時間	総合的な学習の時間	校区内国道沿い	地域の環境	
	１年	校内環境整備活動	１０時間	総合的な学習の時間	学校	地域の環境	
伊万里 農　林 高等学校	２年全員	職場・職業・就業に関わる体験活動インターンシップ活動	事前（２日） ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ（４日） 事後(２日）５６時間	教科「農業」 科目「就業体験」 １～２単位	校内、 各事業所	各事業所における関係者および業務に関わる場所	二里小学校、東山代小学校、国見中学校３校との連携を図りながら活動に取り組む。
	３年森林工学科	交流に関わる体験活動 森林・木材加工体験	７日間　３５時間	教科「農業」 科目「課題研究」	校内、 近隣小学校	小学生および保護者	
	３年食品化学科	交流に関わる体験活動 食品製造・加工体験	７日間　３５時間	教科「農業」 科目「課題研究」	校内、 近隣小学校	小学生	
	３年生物生産科	交流に関わる体験活動 国道２０４号線花いっぱい運動	７日間　３５時間	教科「農業」 科目「課題研究」	校内、 近隣小学校	小学生、地域住民、老人クラブ	
	３年生活文化科	交流に関わる体験活動 被服製作体験	７日間　３５時間	教科「農業」 科目「課題研究」	校内、近隣小学校、近隣保育園	小学生、保育園児、	
伊万里 高等学校	１年	腰岳周辺散策による 俳句・短歌作り	１日　６単位時間	特別活動	腰岳周辺	腰岳周辺の自然	地域や関係機関との連携を中心に取り組む。
	１年	カブトガニ保護活動 産卵地清掃	１日　４単位時間	総合的な学習の時間	産卵地海岸	産卵地砂浜	
	１年	ボランティア活動 市内公共施設清掃	１日　４単位時間	総合的な学習の時間	市内公共施設	市内公共施設	
	１年	伊万里学① 伊万里焼作成体験	１日　６単位時間	総合的な学習の時間	伝統産業会館 伊万里焼窯元	陶器	
	１年	伊万里学② 伊万里の歴史･文化体験	１日　４単位時間	総合的な学習の時間	市内学校近隣地区	市内の史跡	
	１年	伊万里学③ 居住地域の歴史･文化体験	１日　６単位時間	特別活動	生徒の居住地区	生徒の居住地区、史跡	
	１年	触れあい体験　幼稚園訪問	１日　６単位時間	総合的な学習の時間	市内幼稚園	園児・園職員	

イ　各学校間の連携体制

異校種連携については、伊万里農林高等学校と隣接する小中学校において特に重点的に推進している。専門高校としての特色を生かし、活動内容の連携を行っている。



(3)　学校段階に応じた体験活動の工夫

ア　小学校

小・中・高校、さらに地域の老人会との連携を図り、道路沿いや駅舎に花苗を植えるボランティア活動や､農業高校生との交流による農業体験や食品づくりの体験を行うこととしている。

また、伝統文化の継承活動として、焼き物作りや祭り体験、茶道などを地域の方々をゲストティチャーをして招聘して行うことを計画している。

イ　中学校

職業・就業に関わる体験活動を中心に計画をしており、地域の職場での体験を通して地域の方々との交流も行うこともねらっている。また、学校周辺の清掃活動を定期的に実施することでボランティア精神の育成や、郷土愛を育成したいと考えている。

また、他校種との交流によるボランティア活動も実施する予定である。

ウ　高等学校

高校は普通科高校と農業高校の２校であることから､体験内容が大きく２つに分かれており、小学生に対して、農業体験や食品加工体験の場を提供しての交流に関わる体験と生息地が限られ、貴重な生物であるカブトガニを守る、海浜清掃などのボランティア活動を計画している。さらに、カブトガニについては、調査した内容などを近隣の小・中学校に講演にいくことも考えている。

２　体験活動の実施体制

(1)　地域・学校や学校の体制、家庭や地域、関係団体・施設・機関等との連携

推進地域としては、年間３回程度の推進協議会を開催している。協議会には、ボランティア協議会、青少年育成市民会議、小中学校連合ＰＴＡ、青年会議所、公民館連合会など関係機関の方々を委員とし、各学校における体験活動が円滑に行えるように配慮している。

また、各学校においても、学校支援委員会を組織している。委員としては、例えば、老人クラブや婦人会、公民館長など、地域での活動に関係の深い方々にお願いしている。

(2)　活動の場や指導者の確保等の手だてや工夫

各学校それぞれ、学校支援委員会等を通じて活動の場や指導者の確保を行っている。特に、伊万里農林高校に隣接した学校では、伊万里農林高校生徒との交流学習（実習指導など）や職員の出前授業など、専門高校の機能を活用した取組がなされている。

(3)　配慮事項

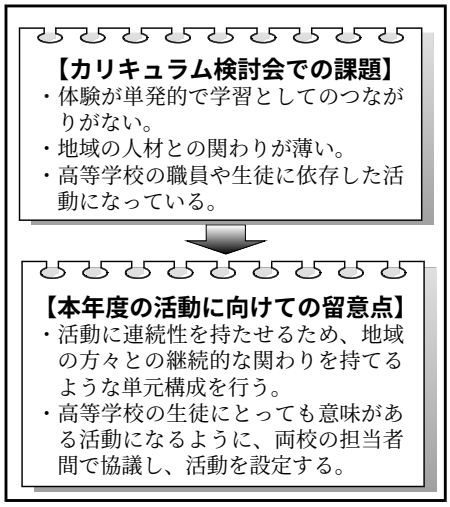
推進地域としての配慮事項は、伊万里市教育委員会に事務局を置き、校種間・地域・関係機関の連絡調整を行いながら協力体制を築き、事業の推進を図っていくことに重点を置いた。また、各学校における学校支援委員会の配慮事項の主なものは、次のとおりである。

・体験活動の場の開拓について支援を行う。 ・指導者の確保について支援を行う。 ・体験活動の円滑な実施への協力・調整を行う。 ・体験活動の充実に資する活動を行う。 ・地域の各団体や機関が主催する行事との連携を図る。 ・児童の豊かな体験活動の地域への啓蒙活動を行う。	・各種団体との協力関係の指導とそのための協議の場の設定を行う。 ・活動時の関係団体との連絡・調整を行う。 ・活動予算の執行を行う。 ・適宜、体験活動の企画・立案及び助言・提言を行う。 ・状況報告・実績報告・決算報告を行う。

3　体験活動の評価の工夫と指導の改善

事業については、今後右記の表にある観点にしたがって評価を行うようにしている。

※　ある小学校の事例



【カリキュラム及び事業評価観点】

評　価　観　点	評　　価　　項　　目
学習活動について（単元のねらいや育成すべき資質・能力、触れさせたい価値内容など）	・設定した単元目標が実現できたか。
	・単元の実施時期や期間は適当であったか。
	・児童生徒の発達段階に合った内容であったか。
地域との連携について（地域の「ひと」「もの」「こと」との連携）	・地域の関連施設等を十分活用できたか。
	・地域の人材の活用は計画通り行うことができたか。（繰り返し関わりを持つことができたか。）
	・施設及び人材の活用に関して、課題は何か。
異校種間の連携について（隣接する学校同士の交流など）	・効率的な交流ができたか。
	・双方とも教育課程上の位置付けは明確になされていたか。（無理のない計画であったか。）
	・双方ともに意味のある活動であった。
	・交流における課題は、何か。
推進地域協議会及び学校支援委員会について（体験活動を支援する視点での観点）	・推進協議会、支援委員会の機能は十分に果たしていたか。
	・会議上で出された助言等については、事業の運営に取り入れることができたか。
	・推進協議会、支援委員会の運営に関する課題は何か。

カリキュラムの検討を受けて、各学校間の担当者会の回数を増やし、できるだけ、双方にとって意味のある活動になるように心掛けている。また、推進協議会でも、会議終了後は必ず担当者の連絡会の時間を設けるように配慮した。

4　成果と課題

(1)　成果

本年度は、地域や異校種間の連携に重点を置き取組を展開した。その結果次のような成果が挙げられる。

・　地域の方々と触れ合う機会が増したことから、郷土に対する児童生徒の意識を高めることができた。（例：ある児童の感想［花いっぱい活動の取組から］「自分たちが知らないところで、老人会の人や中学高校の人が頑張ってるんだと分かった。これからも下級生が続けてくれたらいいと思った。」）

・　異校種の連携について、お互いに意味がある活動の在り方について確かめることができた。（例：ある高校の生徒の感想［花いっぱい活動の取組から］「小学生が鋭い質問をするので、自分もたくさん調べた。ちゃんと答えることができてよかったが、教えるのはなかなか難しい。」）

・　受け入れ側の方々も、「児童生徒は、地域で育てる。」という意識を持って取り組んで頂き、学校と地域との距離が縮まったように感じる。また、異校種連携については、各学校の特色を知るいい機会になった。

(2)　課題

課題としては、次の３点が挙げられる。

・　体験活動に掛かる費用について、教育委員会で的確な予算措置を取ること。

・　校種間の連携について、お互いに意味のある活動でなければ長続きしない。お互いの児童生徒にとって学びのある活動にするために、活動内容を十分に検討しなければならないこと。

・　体験活動を支援するための関係機関のリストづくりと係る手続きの簡略化、各学校等で提供できるサービスの集約など、教育委員会が中心になって環境整備に努めること。